



木 4
57



Handwritten number 5 inside a red square stamp.

Faint, illegible text or markings within a rectangular border on the left page.

Blank right page with faint horizontal lines.

門卷 4
號 57
卷

東古
關校

此法為家
有
此法之出於孝為極
極理義之條達枯
神之
淡於皆為不終之
故為明也
死活初解非
至冥極錯綜



助言卷第...
之物志有如此法孫孫之
也竟以爲夫不富如此法之法
三序文章謂增籍者何
猶猶抗之回而不可猶者
之及踪必產不(是)誇于後

者老能活富之亦易能自
處氏者一喝此法而隆
跟振求者有意及十家弱
之有物言(或)不之採援亦
或如高先生得之德小子

其而演說與字用法之
 象密象出精入微吾等
 受而學轉之名曰助德高
 象遂以上梓布之書言助小
 冊子實大川之一栢大風三

吸何元卷帳中之秘乎能
 讀若精其思密其意善
 用之以盡變化一滴之水與
 精強之者易其功昌可
 河也哉

文他西子孫月

門人奧妙弘奇醫員三上博
流後于平島客舍



助語審象卷之上目次

總論^初

矣也哉來焉旃居諸^{十三} 耳爾已那夫耶^{邪乎} 同^與

^{二十} 止只軼咫尺思忌且^{二十} 而其猗兮些員斯昏^{二十}

盖夫彼渠^{詎伊侯維惟}^九 粵^越 同^{日聿} 同^{繫言猷爰}

時^{二十} 云啞烝逝此是^同斯兹^{二十} 於于乎都案^同寔

且之^{二十} 厥其戎^{乃爾而} 者以用式庸^三 足可宜^同

當合須^同應容^六 攸所見被遭遇受逢^得 觀蒙獲^四

助語審象 卷之二

ヤミ
ノミ
カ
ケダシ
ソ
カ
ソ
カ
レ
レ
レ
コ
レ
レ
ニ
コ
ノ
ニ
ソ
ノ
モ
ソ
ノ
モ
ツ
テ
ル
タ
シ
ル
ベ

トコロ
ラフル
ヨリ
ユエニ
タメ
イヘ氏
シカリ
シカフメ
ミツカラ
丹ナガラ
ツヒデ
アエテ
ミダリニ
イサカ
スコフル
ナシトス
イヨク

カツテ
スデニ
ナシ
シカラカ
ス
アラズ
カタシ
ホトンド
スナハナ
ヤモスレバ
アタカモ
ウタバ
ホノカニ
アラワニ
タ
タ
タ
タ
モツトモ
ヒトリ

振道緣因由繇自從附依一 故肆為雖俞爾然而附如三

親躬自居坐尋行追隨附從旋八 敢肯猥濫附叨 聊

頗向垂附九 彌愈益增加倍況滋附添一

助語審象卷之中目次

嘗曾懣經了殊附既 已業訖契 無同死 亡罔莫茂靡毋勿

淹附同 少末微否曼未不弗寺 非匪同 罔難幾殆

危汙乃 迺迺載便還同旋 輒即則上 就登應曾斯 遲

動宛轉見仄恍佛主 唯同 徒但亶帝同 只附止 假徑直

第十七 第同 地立乍附忽倏 最尤獨特九 甚太附同 奇絕

孔痛酷苦附苛劇一 極至殊異附別驟數亟屢三 原同元

本主舊雅素職固附故 翻還却倒反般覆顧七 旋

力吾審象

ドクニ
ハナハダ
キワメテ
イタツテ
コトニ
シバ
モト
カヘツテ
ア、
ヤウヤク
スミヤカ
ニハカニ
アラカジメ
ホツス
マサニタマ
ヒトエニ
オホヒニ
カナラズ
コトク
ミ

ワツカニ
カハルル
タガヒニ
トモニ
ト
フヨビ
アヒ
フメツナガラ
ヒソカニ
ツ井ニ
シキリニ
下
ガトシ
ニタリ
ヒトシ
ナホ
サヒワイ
ツラク

寔漸徐微遲稍差較良八 遑趣速疾頃遽暴猝附溢
豫附素逆欲且將三 適同的屬抵多端鼎正同方三三 偏
一同壹誕大奄不駿荒五三三 必會定計要期斷決附約三三
悉備盡單同殫詳具畢屑卒附八八 皆咸僉舉整該附裁才
財同纔同僅劣四 代狎間拾交互遞迭錯附二二 俱偕共
齊附翁併與及之附將兼暨泊同越三早三 相胥兩耦竝竊私
等遲比附間早六 通同迄同訖了已終竟卒遂同肆早七 連頻
仍旋比附荐同薦同恣累切急早九

助語審象卷之下目次

如若似均仍故猶同由尚初 幸賴熟倩信允情諒附良早
實寔展直真洵誠亮五 能同耐善克巧好喜矧況六 早
更改起重再兼還同旋復亦又且加九九 始初肇甫造
昉哉載在有存著上二 任耐能勝堪忍禁附怒強咋近附誓
古 長鎮永每恒常值會脫偶遇因十五 抑或果苟卽
儻同倘設試嘗十七 審就如若附猶誠附縱借同藉假譬十九 嚮
鄉鄰正饒附使令遣教俾致二十 莽伴作為庶幾上同
向同任附

力吾...

コトニ
ヨク
イワシヤ
サラフニ
マタ
ハジメ
アリ
タヘ
ナマシビ
シヒテ
トコシナヘ
ツ子ニ
アケ
タマ
ソモ
アルヒハ
イヤシクモ
モシ

タトヒ
サキニ
シム
コイ子ガハ
バカリ
ムナシク
シバラク
オヨソ
オホム子
スベテ
ホ
アニ
ナンカ
イツクシ
ムシロ
タレカ
アノ
アハ

耳語寄集 卷之十

冀附四許頃所可附如空虛素徒姑薄附少凡最

連應百附率槩抵歸類約附致較慮諸統令都附總切粗

麤同略九幾豈巨渠附孰疇誰各三詎渠巨

侯那奈耐奚曷同害何類附胡四盍闔遐庸焉安惡烏

八三嗟噫同意嘻同譁噉同噉歎同嗚呼同呼噤同噤叱啞蹇兇

慶嘆咨同都吁於荷繫怒惡猷噉附二

馨麼地阿頭邊許渠價五恁儘同做慣件色上下六

俗語助字部

等底怎附爭甚那他這箇個可該是也解附省險然

些八任總放容許浪謾漫不休沒莫九來去

除只說道得着一負取宰斗劃打赤了却二

恰纔剛的殺慾生樣脚三向和枉賸同番同回子兒

靠交消厮哩呢咄咦四

力吾寄集 卷之十

目二

助語審象卷之上



橘園三宅先生口授

門人

釋海定

三上惇

宮永寅

筆録



凡文章ヲカクニ助字ヲ用ユルハ何ノ為ノカ文章ハ助字
ヲ用ヒテ意象ニク處ヲカタドリ助字ハタラキニ其事實ノ
緩急顔色声音ノ有サニテ今日ニ見ル如クカキトリ論說ノ
條理意象ノ細密ナルヲ毫ヲ折キ絲ヲ分ツテ詳ラカニコレヲ

力吾家
卷之二
橘園藏版

知ラシムルナリコノ故ニ先ツ其字義ト用法トヲクワシク吟味シ
 テ逐一ニ明ラカニコレヲ辨別シ百字八百字ナガラ晰然トシテ
 胸中ニ條理ヲ紊サズ並ヘオキテ然シテ後筆ヲ下スニ非ハ
 意象ヲ細密ニ書キウツスナリ成リ難シ漢土ノ人ハ生レテヨリ
 シテ字音ニ熟シタルナハ大抵ハ條理ノ違フモノナクハ任意象
 粗暴ナル人ハナラ謬リシコアリト見ヘテ柳宗元モコレヲ辨セル
 コアリシテ本邦ニテハ言語モ違ヒ字音ニナレザルコナレハ切問
 ヒ深く思フテコレヲ辨セズハ鹵莽ニナリヤスキナリ凡助字ヲ

用ユルヤスカラサルコハ本邦ノ天尔於波ニシト云字ヲシト濁ビ
 反語トナル如ク助字モ焉字ヲ下ニ用ビ地位ヲスエルコニナリ上
 ニ用ビ反語トナル敢不ト不敢亦無ト無亦ノ語意相反スル
 ニテモ用字ノ大切ナルコヲ知ベシ謂之ト之謂欲以ト以欲有
 嘗ト嘗有ノ類上下ニ易ヘ用ルハ大ナル差別アルコナリ粗率
 ニ心得ナレ條理ノ紛ルコト多カルベシ
 助字ヲ用ユルハ先ツ其字義ヲ細密ニ分チテ其上ニ古人ノ用
 法ヲ徴シ合セテ精覈シ然シテ後コレヲ用ユベシ字義ヲイダ

審ニセズシテ徒ニ古人ノ用タル例ノミニ倣ハ、タトハ其面ヲ識リ
テ其心ヲ知ラサル如クナレハ必思ヒノ外ナル錯謬アルベシ今人
多ク字義ヲヨソニナシオキテ只例ノミニ據リテ用ユル人アリコ
ハ大ニ危キコナリ特ニ左國莊子孟大ドノ文ハ至極手タレノ
妙筆ナレハ變化ニカセテ絶妙ノ用ヒ様多シ今徒ニ其跡
ニ擬セバタトハバ勝敗ノ勢ヲ明ニセズシテ古人ノ奇兵ノミ子ヲ
スルガ如シ韓信ガ背水ノ陣ハ兵法ニソムキテ一時ノ應變又ニ
設ケタルナリ今時勢ヲ詳ニセズシテ背水ノ陣ヲ布カバ誰カ

敗レザル者アラシヤ用字モ亦妙手ノ迹ヲミ子テ覆亡ニ似タル
コ多カルベケレモ文字ノミハ誰モ咎ムル者ナキ故ニソレナリニ
ナシ置キテ自カラ足レリトスルコ愧ズベキコナリ
字義ヲ詳ニスルコハ音紀ニ據テ義ヲ明カスニ非レバ精微ヲ盡
シガタシ凡字義ニ体用動靜彼我ノ分アリ又遠近淺深ノ
別アリ又來往アリ内外閑合ノ異ニヨリテ字義ニ心識ヲ既
往ニ注ルアリ將來ニ注ルアリ又神象器法ノ分チアリ平声ノ
字ハ神用活動ノ處ニテ名ケタルナリ上声ハ象ヲ立テ其モ

ヨウヲ想ヒヤリテ名クル者ナリ去声ノ字ハ形ニ屬シテ物ニ言
フ意アリ入声ハ神用ノ跡ヲ模擬シテ稱スル者ナリ此等ノ
一ハ迂遠ニ似テ實ハ字義ヲ知ル捷徑ナリサレバ任意象ノ
精シキ人ニ非ンハ共ニ語リカタシ

凡助字ヲ用ルニ勿論スベテ文章ヲカクニ先ツ明幽両界ヲ
明ニ辨ズベシ凡ソ日ノ光ノアタル處ハ明ナリ日ノ光ノ及バザル
所ハ幽ナリ人ノ身ニトリテハ當面ニ目ノ及フ所ハ明ナリ目
ノ及バザル所ヲ心識ニ想ヤル所ハ幽ナリ凡眼前明界ノ

ヲ記スニ語辭ノ用ヲ幽界ノヲ心識ニ想カタドリテ書ク
ニ助字ヲ用ヒテ其條理ヲ分ツノナリ譬ハ當面ニハ鷺白
鳥脛短ト書クナルヲ心識ニカ、リテハ白矣白也短矣短
也ト、書クアリナラシクノ字ノ下ニ委シク注セリ凡助字
ノ有ル見ル處ニ略シテ助字ナキハ皆明界ナリ是故ニ
叙事ノ文ニオツカラ助字少ク議論ノ文ニオツカラ助字
多シ此自然ノ道理ナリコヲ以テ文章ニ助字ヲ用ユベキ
處ニハイカホド重疊シテモ苦シカラス用ユマジキ處ニ一向ニ

其言審身 卷之一
ナクモ佳ナリ何モ多少ニ拘ラズナリ又叙事中ノ議論アリ
議論中ノ叙事アリ此幽中ノ明明中ノ幽ナル故ニ助字ノ
用ヒ様少シヅカワレリ莊子孟子ナドニアヤシキ助字ノ用ヒ
方アルハ皆コノ故ナリソモク明界ニ助字ヲ用ザルハ何故ゾナレ
ハ凡助字ハ意象ヲカタドリテ人ニ云聞ス辞ナルニ三字モ幽
界ハ識ニカミザルハナシ故ニ當面ノコトヲ記スハ決シテ用
ナシ古人モ當面無語トイヘリ予ガ恒ニ言フ明界無助字
ト云フ誠ニ助字ノ一大關要ト知ルベシ

古人ノ文字ノ用ヒカタ色クニ變化ノツカヒ様アル字義ハ一致ニ
ナラズシテ叶ハヌコナリモシ音轉スレバ義モ亦轉スレテ同字一
音ニテハ何レノ書ニテモ其義一定ナルベキコトナル漢以來ノ註解
ハ爾雅ニテラフテ轉注ヲ專トセルヨリ各其所クニ臆ニ任セテ
注スル故ニ毫釐千里ノ差ヲナセリ蓋字ヲ發語之辞トモ謙
辞トモ疑辞トモ注スル類笑スベキコトナリ一字ニテカク數義ヲ
兼ルナラハ古人何ノ故ニ數萬ノ文字ヲ造ルヘキヤ學者轉
注ニ拘ラス字ノ本義ヲ較明スベキコトナリ

夫蓋ナドノ字ヲ發語ト云フ昔ヨリ言フナレハ一向ニテキコナリ
何ノワケモナキ時ニ發端ナレバトテ助字ヲ置ヘキ理ナレ古人
ノ文ニ最初ニ夫蓋若夫夫以ナド、書キ出シタルハ其論ノ
主タルヲ姑ラ多隱シオキ客タルヲ先ツ言出シテサテ奥ニ
主タルヲ出シシト照應スルコアリテ助字ヲ置タルナリ奥
ニ應スル所ナケレハ初ニ助字ヲ置コナレ又主トスルコヲ初ヨリ
言出シタルハ決シテ發端ニ助字アルコナレ後世ノ文章ニ
ハ突出冒頭ノニ法ヲ立タルヨリ此惑起レリ冒頭ニカキ

タル語ハ多ク客ニナル故夫字ナドヲ置ケリ然レモト冒頭ト
云フハ古文ニテキコナリ此コトハ別ニ論スベシ今此ニ贅セズ又
倒裝法ト云フコレ亦故ナクシテ倒裝スルコサレ無シ其與有
幾ト云句ヲ倒語法ト注シタルハ笑フベキノ至ナリ古人ノ
文字ヲ相錯シテ用タルハ皆其意味ノ差別アルコナリ能
々心ヲ注テ考スベキナリ

於越ノ於阿蒙ノ阿ハ發声ナリ發語ニ非ク語ト声トノ別知
ラズレバアルベカラス庾公之斯ノ之モ助声ナリ此等ハ意義

ナキニ似タレ凡阿於ハ本喉音ニテ神氣ニ物ヲ象ル全体
スワリノ声ナリ之ハ細齒音ニテ神氣ノ彼ニ從フテウツリ行
ク声象ナリ

史遷班固ガ同一事ヲ記シテ助字ノカワリテ有ルヲ見テ
語辞ニハ意義ナレド、言フ者アリ愚ノ至トイフベシ史遷
ノ文ハ變化ヲ主トシテ列傳モ一篇ノ體ヲカヘ文字ノ用
様モ奇詭ヲ專トセリ班固ハ整齊ヲ主トシ前後始終
一定ニシテ班固ガ大ニ心ヲ用テ書換ヘタルヲナルヲ摘畧ニ

見ルハ遺憾ナルヲ深ク玩味シテ其差別ヲ察スヘキナリ

歌辞騷賦等ノ韻文ニテ用ニ散文ニ用ヒザル助字アリ
コレハ詩經ヲ祖トセル者ナリサレ凡今此ニナドノ字ヲ散文
ニ偶用ルコトアレ凡容易ナラサルコトナリ又古書ニ助語ニ用
タル字ニテ後世ニ用ヒズシテ韻文ニテ偶用ル字アリ古
ニ助字ニ用ヒズシテ魏晉已後用ル字アリ又後世ノ五
七言ノ詩及ヒ四六ノ文ニ助字ヲ略スルコト多シ此モ源ヲ
詩經ニ取タルモノナレ凡是皆浮虚華飾ヲ主トスル故ニ心

ノ真象ヲソク、寫スニ及ハザル故ナリ

文字ヲ用ルニ古今雅俗ノ別アルコトカク文章ハ西漢

已上ヲ宗トスヘキコナル故ニ今徴引スルトコロ左國史漢ヲ

主トシ旁ヲ諸ノ古書ヲ採ル左國史漢ハ一々書名ヲ採キズ
タゞ隱元某傳ナド、書ス

其古書ニ用例ナク已ムコトヲ得ズ魏晉以後ノ書ニ及フ

者ハ是後世ニナリテ用元語ナリト知ルヘシ但後世ノ人ハ

心ヲ用ルコト精ナズ故ニ文字ノ吟味モ粗ナルコト多シ法ト

スルニ足ラス因テ今唐宋已後ノ文ハ例ニ奉用ヒズ又近

躰ノ詩ノ語辭ハ多ク俗語ナリ因テ俗語ノ助字ヲ

別ツテコレヲ末ニ出ス初學ノ輩雅文ニ混入セシコト恐ル

故ニ其科ヲ別ニスルナリ

助字掲上ノ法アリ隔承ノ法アリ掲上ト下ノ語ヲ上ヘ引

上ケ語勢ヲ急ニシテ緊切ニ聞カシムルナリ惡乎成名其

與幾何ノ類ナリ其語句ニ掲上セルアリ美哉山河之固

ノ類ナリ隔承トハ或ハ字ヲ隔或ハ句ヲ隔テ、下ヘ越サセ

タル法ナリコレハ下ノ句ヲ主ニシテ云タル處ナリ葬故衆而

後ノ類ナリ數句ヲ隔承セル法モアリ委々ハツレクノ字
ノ下ニ注セリ

助字複用ノ法アリ疊用ノ法アリ疊用ノ法アリ複用
ニ句頭句尾句腰ノ別アリ句頭ノ複用ハ若乃蓋夫ノ類
ナリ此ハ上ノ一字ヲ全体ノ文ヘカケ下ノ一字ヲ其下ノ語ニ
ツケテ其義ヲ見ルコトナリ句尾ノ複用ハ焉矣也夫ノ類
ナリコレハ上ノ一字ヲ句末ノ語ニツケ下ノ一字ヲ全体ノ文
ニ係ケテ見ルコトナリ三字四字複用シタルモ此例ニテ推スヘシ

句腰ノ複用ハ既已亦復且猶ノ類ナリコレハ相錯シテ上ノ
一字ヲ下ノ文ヘ係ケテ下ノ一字ヲ上ノ文ヘカケテ見ルコ
トナリ所以於是雖則ナドハ上下ノ繫キノ語ナレハ句頭ニ
アリテモヤリ句腰複用ノ例ニシテミルヘシ疊用トハ同字ヲ多
ク用ヒタル于周于京美矣至矣ノ類幾字モ疊用スルコトアリ
句ヲ隔テ句頭ニ疊用スルモアリ句尾ニ猶サラツ子ク用ル
コトナリ疊用トハ稍稍故故ノ類ナリコレハ唯オモク言タルニ
ニ非ス其事ノ續キタル意ノ所ニ用ユルナリ此等ノ數法ヲ

能密察シテ其位置ヲ檢究スヘシ

助字標目歌

矣也哉來	焉旃居諸	耳爾已那	夫耶乎歟
止只軼咫	里思忌且	而其猗兮	些員斯胥
盖夫彼渠	伊侯維惟	粵曰聿繫	言猷爰時
云噬烝逝	此是斯茲	於于乎都	安寔且之
厥其戎者	以用式庸	足可宜當	合須應容
攸所見被	遭遇受逢	振道緣因	由繇自從

故肆為雖	俞爾然而	親自居坐	孳行追隨
敢肯猥濫	聊頗向垂	彌愈益增	加倍況滋
嘗曾懜經	既已業訖	無亡罔莫	蔑靡毋勿
少末微否	曼未不弗	非匪叵難	幾殆危沆
乃迺載便	還輒卽則	就登遲動	宛轉見仄
唯徒但亶	啻只徑直	第地立乍	最尤獨特
甚太奇絕	孔痛酷苦	極至殊異	驟數亟屢
原本主舊	雅素職固	翻還却倒	反般覆顧

身詩審象 卷之十一
旋寢漸徐 稍差較良 湍趣頓溘 豫欲且將
適屬秣多 端鼎正方 偏一誕大 奄丕駿荒
必會定計 要期斷決 悉備盡單 詳具畢屑
皆咸僉舉 裁才僅劣 代狎間拾 交互遞迭
俱偕共併 與及之暨 相胥兩耦 竝竊遲比
遙迄了回 終竟平遂 連頻仍旋 薦荐恣累
如若似均 仍故猶尚 幸賴熟倩 信允情諒
實寔展重 真洵誠亮 能善克巧 好喜矧况

更改起兼 還復亦又 始初肇甫 造昉在有
任耐勝堪 慤強咋迨 長每恒常 值會脫偶
抑或果苟 卽儻設試 審就如若 縱借假譬
嚮匹使令 遣教俾致 拜佯作為 庶幾上冀
許頃所可 空虛姑薄 凡最率槩 抵歸類約
慮諸統合 總切粗畧 幾豈巨寧 孰疇誰各
詎疾那奈 奚曷何胡 盍闔遐庸 焉安惡烏
嗟噫嘻戲 唉歛嗚呼 叱啞寒羌 嘍咨都吁

馨麼地阿 頭邊許價 恁儘做慣 忤色上下
 等底恁甚 那他這箇 可該是也 解險然些
 任放浪謾 不休沒莫 來去除只 說道得着
 負取窄斗 打赤了却 恰纔剛的 殺生樣脚
 向和枉賸 番回子兒 靠交消廝 哩呢咄咦
 古今語辭 槩具于斯 精之覈之 勿錯毫釐
 右助字ノ目ヲ押韻シタルハ初學ノ輩ヲシテ記得シヤスカラシ
 メンガ為ナリ其復出ヒルモノハ或ハ同字ニテ語頭語尾ノ用

例異ナルアリ或ハ訓ニツニツアリテ用例異ナルアリ其類々
 ニ從ツテ復出ス又標目ニモシタル字ハ其類クノ字ノ下ニ附
 出セリ搜索シテ見ルベシ又コノ中ニ語辭ニアラヌ字モ有リ
 ケメド類ニ觸レテコレヲ書キツラ子初學ノ人ニ便リスルナリ
 字注ニ某者云云之辭トアルハ真ノ語辭ナリ云云白某トアルハ
 助辭虛字相兼ルナリ云云之稱トアルハ助字ニ非ルモノナリ
 矣也哉來ヨリ嘆咨都吁マデ四百八十字ハ古文ニ用ヒ
 來リタル字ナリ馨麼地阿ヨリ哩呢咄咦マデ八十字ハ
 小説俗語ノ助字ナリ其ウチ那是可然ナドノ字ハ前

二出タレ^カ俗語ノ用ヒ法ヲ別ニ知ラシメ^カガ為ニ俗語ノ部ニ
モ重テコレヲ出セルナリ

○矣也哉來 焉旃居諸

矣^イ

カフアツタ
タアラフト誤ス矣者心知^ニ其然^ル而直處^ス之^ノ辞

矣ハ幽界ノ心識ニテカヤウナルベシト定メテ云出ス辞ナリ何

ゴトニテモ當面ニナキ^コニ我心ニテカク成テスミテアル^トト定メオ

キテ言フナリ既^{コソバ}往^ハカ將來^{ユクシ}カニ係ケテ語ル助字ナリカマツ

タカフアラフナト言ヒ流シテ辞ノ尾ヲ下ヘ引テ人ニ聞カシムル

意モチアリ^焉字ト相^ト反ス焉^凡他ノ助字ハ明幽兩界ニ涉ル

字モヌケレ^レ矣字ニ限りテハ明界ニ少シモ係ラズ見在

バシヨニ用ヒヌ字ナリト知ヘシ矣字ハ幽界ハカリノ字ナル故ニ昔ヨリ置字ニシテ和訓ナキコト尤クナ

リ天朝古人ノ始テ和訓ヲ附ラレシ人々意象精密ニシテ西土字ノ文理ニ審カナルコト分毫モタカハ又處コレニテ王觀必トトカク今人ハ書ヨヨムコト粗ナルコトニ神識

モ其至ル所ヲ盡サズルナリ

論 使子路反見之至則行矣今サリタルニ非ス既ニサリテアリタルナリ

左宣 二年寢門闕矣トクニシテテアツタナリ今眼前五日門已閉矣ヒラケタルコトナレバ助字ナシ

也則忠其自謀リシコトハ過ニシテニフテオキテ先君ノタメニ謀リシコトヲ當南ノ主ニシテ言ル故ニ忠字下ニ助字ナシ

成十 申叔時老矣在申前ニ老シテアリタルナリ今老シタルニアラズ

己上皆既往ヘ係ル矣ナリカフアツタト訣ス

左隱 六 鄭不來矣不來ニナリテアル 叔孫 我不忘矣不忘ニシテアル

孟子 死矣盆成括死ルベクテアル 曲禮 侍坐者請出矣出ルベクアラフ

全崩 曰天王崩復曰天王復矣崩ハ明界見在コトナル故助字ナシ復矣カヘリ玉ヘ上將來ヲ言フナリ

己上將來ヘカル矣ナリカフアラフト訣ス サレ凡矣字ハ往ニ屬スル

字ナレハ其事既ニシレニ九ベキハツニ定マリテアルコトニシテイフベ

元隱 子封曰可矣厚將得衆コレ方今ナレハ心ニカヤウナルヘト定メテ云タルコトニ矣字ヲ置タリ

法七 吾又執之以信齊沮吾不既過矣乎矣字ヲ過字ニ附ケ乎字ヲ

上ノ全文ニカケテ見ルナリ凡句尾
ニ助字連用スル者ニテ例ナリ

昭深思而淺謀邇身而遠

志家臣而君圖有人矣哉

矣字有人ニカ、ル
哉字全文ニカ、ル

傳劇孟 吾知其無能為已矣

也矣焉矣耳矣矣夫
ナトニ此例ニテ推知ヘシ

法 聖用 子至矣盡矣美矣大矣

鄭王師若在其救之亦必

然矣王心怒矣魏公從矣凡周存亾不二稔矣君若

欲避其難速規所矣

コハ句ヲ隔テ、
累用セル法ナリ

揭上 法 語

鮮矣有仁鮮有仁矣トアレハ語勢緩ナリ語ヲ緊切ニ

封禪 書

三代邈絕遠矣難存 遠クテアルデ難存テアラフナリ遠難存
矣ノ心ニテ矣字ヲ引上タルナリ遠而難存

ト書トキハ彼遠ナリテ
アツテコ、ニ存セスナリ

也ナリ

タギト訣ス也者析其條理而示之之辭

也ハコヒハタ云コト、辨別ヲ入レテスダヲワケルナリ説文ニ

也女陰也トアリコト同シ人ナレ男ト形ノカワリテ女々

ルノ理ノ別ル處在ヲ以名付タルナリ助字ノ時モコノ

理シヤト云テコノ理デナイト云モノヲ相手ニ持テイフ辭ナリ

也ト矣ノ別ハ矣ハ往ニ属シテ心ニオシエテ定メ置テ云ラ辭ナリ

也ハ來ニ属シテ今ヲ引キ別ヲ入テ云辭ナリ譬ハ鷺白鳥短ナ
ド當面ニテ書ク時ハ助字ヲ用ヒス心識ヘカケテ云トキハ助字アルニ
鷺ハ白キモ、デアツタ白鳥ハツギヤナド、云フハ矣字ナリ鷺ハ黒キモノ

デハナイ白キモノシヤ上云ハ也字ナリ息脛ハ短クナリテ又短キモ
ノテアラフト云ハ矣字ナリ息脛ハ長キモノシヤ上云ハ也字ナ
可也不可也上云モノヲカタク
持テスチ分クヌルナリ 不可也可也上云モノヲ心ヲカタク
立テ置テスチ分ルナリ

他ハ準知
スヘシ

留矣 穀城山下黃石即我矣即我ニテ下定
テ云ヒキカスリ 即我也我ニチカヒ
ナイトスチ

ヲ分テ云ヒ
キカスナリ 即我助字ナキハ當面ノソ
マ、ヲ寫シタルミナリ

凡ステ假名ニナリト讀ミテ也字カ矣字凡ヘキ様ニ見ユル所ニ助字ナ
キハ語勢急ニシテ幽界ノ心慮ヲ語ルニ及ハズ尺當面ノソ、ヲ寫シ
タルミナリ、サニ字ヲ省キタルニ非ズ
凡テ助字ヲ畧ス法此ニ準知スヘシ

也字句腹ニ用テヤト訓スル時モ先ツ辨別ヲ立テ置テ其

事ヲ説キ出スナリ句尾ニ用ルモ同シ

論回也回一人ヲ引クテ云フナリ 參乎ハ只呼カケタルミナリ
凡人各々下ニ也字ヲ付タルハミナコノ例ニテ知ルヘシ

其舍人臨者晋人也逐出之秦人六百石以上奪爵始皇
本紀

遷秦人ハ也字ナレ晋人ニバカ
也字アリ主客ヲカヒナリ 淮南 吳興兵是邪非也淮南
傳

宣所謂素封者邪非也コレカト訓スレトモ也字ニ疑意モ問意
モアルテラス上ノ語勢ニ牽レテ疑問ノ

何也何字ニ疑問ノ意ヲ持テ也字ヲ
加ヘタルハラニスチラケテ問フニナル

用加波辰之間而楚克其三都無備也夫也字無備ニカ
夫字全文ニカ

也焉也矣也乎也與也邪也哉ミチ句尾複用ナリ
上ノ例ニ準知スヘシ

累昭十 用六 楚子聞蠻氏之乱也與蠻子之無信也

也字句尾ニ累用スルコト子ク多キナレハ例ヲ卷ルニ及ハス易ノ象
傳ハレウ也字句尾テリ又物ヲ歴ク數元語ニ其不可一也其
不可一矣ナド用ルコトアリ留侯世家ニ六国ノ後ヲ立ルヲ議シテ
其不可ヲイフニツヨリマハ也字ヲ用四ツヨリ已後ニ矣字ヲ用
タリコ前ハコレ不可ガイクトスナラフケテ云フキニテ也字ナリ
後ハ語急ニテリテ留侯カ自心ニ定テ數ヘテ幾ツト云ル故ニ矣字
カ

哉 カタ 哉者自我裁之以確斷之之辞

哉ハジメト訓ジテコレカラ切分ケテ入テヲハジノトスル意ナリ哉
生明ノ類ナリ助字ニ用ル時モ大哉トイハ外ノ小ナル者ヲ
オシケレヒフテコレヲ大ナルノ首トシテコレハクサテモくと嘆

異スル意ナリ句尾ニアル時モ推切テドコモデモコノ通りト其
上ノ語ヲ推カエシテ云程ノ意持ナリ

矣ト哉トノ差別ハ矣ハ我心ニテカフアルヘシト定メテ外ヘ云出スナリ
哉ハ明界ノ物カ事カラ見テ誠ニカフアルト我心ノ幽界ニ引入テ嘆
異スルナリ我ヨリ彼ヘスルハ矣ナリ彼ヨリ我ヘスルハ哉ナリ
哉ト乎トノ別ハ哉ハ二段意ヲ加テ嗟嘆スルナリ乎ハ唯ソノヲ云カケ
テ入ノ心ヲ引
出スノミナリ

仁哉 ニトナク仁ナルコト 仁矣 仁ニナツ 仁也 仁ニチガヒ 仁焉 仁ニ

堯往欽哉 欽メテ云フヲ入テツヨク 襄三 魯其懼哉 懼カチ

傳十 君其悔是哉

哀十 公曰諾哉 諾ヲタシカニ云タルナリ

司馬相 如傳 朕獨不得与此人同時哉 歎テ言タルナリ

復 韓世 終為諸侯十餘世宜乎哉 乎字ヲ宜字バカリニツケ哉字ヲ全文ハカケテ見ルナリ下例此

一 聖 為人子不可不慎也哉 檀弓 尚行夫子之志乎哉

論語 子游為武城宰子曰女得人焉耳乎哉 焉ハ為武城宰トコロニナリ耳ハ入

ヲ得タルニスルナリ乎ハソレヲ云カケタルナリ哉ハ推返シテツヨクイヒタルナリ凡三字四字複用スルモノ皆此例ニ准知ヘシ

累 泉陶 用 謨 臣哉鄰哉鄰哉臣哉

上 揭 傳 觀故蕭曹樊噲滕公之家及其素異哉所聞

始皇 本紀 善哉乎賈生推言之也 賈生推言之也善哉乎ト云語ヲ勢ヲ緊切ニキカセシタメニ上へ引上タル者凡

故句尾複用ノ例ニテ哉字ヲ善字ガカリニツケ乎字ヲ賈生推言之也善ト云全文ニカケテ見ルナリ

兵起 傳 美哉乎山河之固 檀弓 仁哉夫公子重耳

哉字句尾ニアリテヤト訓スレバ哉ニ反意モ疑意モアル

ナレ上ニ豈何ナドノ字アバ語意既ニ反語ニナリタルヲ哉

字ヲ加テツヨク聞セタルナリ上ニ豈何ナドナキニモ語勢ニテ既ニ

反語モシクハ疑問ノ語トナリタルヲ哉字ヲ加テツヨク云タルナリ

哉字疑意アルヤウニ心得ルハ大謬ナリ

荀夫又誰為恭矣哉

又誰為恭ニテ恭ヲ為トハセヌト云語意ナルヲ為恭ト云コラ定ルタニ矣字ヲオキ全体ノ語

ヲヨク云タメニ哉字ヲ置タルナリ

何征而不服乎哉

豈字何字ナド反語ノ字上テハ下ノ乎哉等ノ

字ヲハナシテ語意ヲ見ヘシ何征而不服ニテ征スル処皆服スト云コラ九ノ其服スト云コラ入ニ云カケクルニテ乎字ヲ置キ其全文ノ意ヲ重クスルタメ

ニ哉字ヲオケリ

或曰齊衰不以弔曾子曰我弔也與哉

我弔也與ニテ我弔スルニテアルヤ弔スルニテナキツト云語意ナリソレヲツヨク云タメニ哉字ヲオキタル

襄獨吾君也乎哉

獨吾君也乎ニテ獨吾君ノ君ナルヤサフテハナイト云語意ナリソレヲツヨク云タメニ哉字ヲオキタルナリ

來

來者誘而啓之之辭

來人ヲ呼テイザナヒ出ス辭ナリ

哉字ヲ彼ヘヨサセテイフキミナリ

孟嘗長鋏歸乎來食無魚

孟盍歸乎來

莊嗟來桑戶乎

全嘗以語我來

焉

云々ダゾヨサアルコトヲ云ス焉者提覆之以帖之其地位之辭云々カク

焉本鳥ノ名ニテ鳥ノ類ナリ焉飛戾天ト云テ空へ上ル性

アリ助字ニ用ル時モソレトコロニト云意ニテ上ノ文ノ事カ物カ

ノ其地位ヘモドリテ下ノ文段ヲ其處ヘ持越シテソコニスハリテ

カフデアルト云意ナリ古人モ焉字意揚ト注セリ焉ヲコレト訓スルトキ

モ同意ナリ之ト焉トノ別ハ之字ノ下ニ詳ナリ

耳言者象一者之

矣ト焉ノ別ハ焉ハ焉ノ
矣ハ語ノ尾ヲ引テ下ニ

宣公御宣淫民無

語勢ヲ焉字ニテ受テ
ナドモ同ニ語氣ナリ何

アレハオソレハセヌト云フニ
コレラニテスレヲトシテ

曹相國參於是避正

桓反行飲至舍爵

襄十凡書取言易也

文十凡勝國曰滅之

成以兩之一卒適吳

小繫之維之以永

地位ラスル字意ナレハ
ナル於焉ノ字句首句

莊兩涘渚崖之間

是焉ハヤハリ小雅ノ於
ニシテ見ルヘシ事ノカワリ

覽焉始兼舟

置タルナリ奇法ニテ
類ニ倣ヒガタシ

複昏所以重責婦

用義

上揭隱我周之東遷晉鄭焉依依晉鄭焉ト云フナルヲ晉鄭ノ字ヲ主ニシテハタラセタル故ニ上ヘ引上タル之

昭三遲速衰序於是焉在コレハ入ニ云カケタル語ナルニ急ニシテ焉字ヲ引上タルナリ於是焉ノ意ナリ

辨有數存焉於其間存於其間焉陳誰侑子美心焉切陳誰侑子美心焉切

切心切切焉群帝焉取藥取藥焉

襄三安定國家必大焉先先ノ意

旃之焉切旃者之焉之合也

旃ハ之焉ノ二字ヲ合セタル意ナリ文ニ重ク体用ヲ具シテ

書ク時ハ之焉二字ヲ連用ス輕ク用カカリラ云時ハ旃字ヲ用ス

桓初虞叔有玉虞公求旃法舉茲以旃

居音姫居者度其所處以呼道之之辭

居ハ其バ旨ヘスエテ言テニル意ナリ

邶日居月諸胡迭而微旃侍立乎前曰何居乎

成誰居後之人必有任是天義ニ誰居其孟椒乎

諸音レ諸者之於之合也

諸ハ之於二字ヲ合セタル意ナリ之于之乎ハシヨモ儼リ用ニ体用ヲ具スル時ハ之於之于之乎ト二字連用ス輕ク

用ノミヲ云トキハ諸字ヲ用ユ

成會于戚討曹成公也執而歸諸京師コノ諸ハ之于ノ意ナリ

倍執衛侯歸之于京師寘諸深室上ハ重ク之ニトキ下ハ輕ク諸字ヲ用ク

檀望反諸幽コノ諸ハ之于ノ意ナリ 論山川其舍諸コノ諸ハ之于ノ意ナリ

祭勿勿諸欲其饗之也カクノ如ク貌ノ形容ニ用ル時モ同意ナリ

郊特於彼乎於此乎或諸遠人乎

復寧待諸乎之ヲ於ニマシテ乎ナリ

揭論其諸異乎人之求之與公其諸為其雙雙而俱至也

不過

○耳爾已那 夫耶乎歟

耳シ而止切 カケノコトナリ 耳者而止之合也

耳ハ高カコレシヤト一ナグリニ言ヒコナシテシフナリ

論前言戲之耳戲レシヤ 荀天子恭已而止矣而止ニ字連用ノ法ナリ

復荀雜識志順詩書而已耳則末世窮年不免為陋儒而已

爾シ如是切 カズアルト訳ス 爾者紀此其如是之辞語尾之用

字彙耳爾凡ニ如此切トス誤ナリ 耳ハ内開テ爾ハ内開合ノ同ジカラス

爾ハコソトヲリデアルト云意ナリ 耳ハ往ニ属ス已ハ來ニ属ス爾ハ往ヨリ來ニナルナリ

檀弓 祭祀之禮主人自盡焉爾重ク云タル 全斯盡其道焉耳故云タル

已音異去声 已者示無復有其他之辞語尾

已ハモフツレギリニテスミテアルト埒ヲ付テ云辞ナリ

哀後雖悔之不可食已

而已アトデモフニ而字ヲ加レハ一段 而已矣ソノスエガモフツレ

魯仲連傳 梁王安得晏然而已乎

曾子問 何必小功而已前ニ小功而已ト云タル 全豈大功耳アル故言ニテハ言ナリタシ

復倍ニ用十八 莫余毒也已也字毒ニ係ル

已矣 已夫 已耳 耳矣 也耳 乎爾 也爾

也已矣 焉耳矣 而已爾 而止耳復用スル一多キ故

那去声奴臥切 那者詔彼之失所之辞

那ハイカント訓シテナニデアルト問フ意ナリ

後漢韓康傳 公是韓伯休那舊說ニ那ヲ語餘聲トシ梅寤作モコレヲ引

那字語声ニ用タル他書ニ見エス

夫カナ 夫者認此以属彼之辞語尾

力吾嘗象 卷之止

夫ハアノコト、外ニシテ言フ辞ナリ句尾ニアル時ハ上ノ文意

直ニ斥レシ言ハズシテヨソナカラゾラヘテ云フ意持之夫ヲ疑辭ト注スル誤

可無憂夫可無憂矣可無憂也ナド、同ク憂ルナキト云意ニナリ故ハ疑辭ニ非レバツヨクコダツケテ云フ字ナルニ語勢ニテ反語ト

可無憂乎可無憂與可無憂邪可無憂哉ナトハ皆反語トナリ也ハタスチワケル故ニ豈可無憂也何可無憂也ナド

カケハ反語ナリ矣字夫字ナレバ上ニ豈何ナド字ヲ置多ハカ

昭二 八女遂不言不笑夫 用子莊古人之糟魄已夫

揭韓王於戲悲夫夫計之生熟成敗於人也深矣コレハ悲夫ノ終ノニアルベキヲ上ヘ引上テ語勢カラ切ニシタルナリ悲夫ハ悲シヒカナアノコト、云キニナリ明界コリ幽界ヘユキテ言フナリ

耶カ以遮切 又作邪カゴウカ又カワカニカドフヤ 耶者半信半疑之辞

邪ハデアルカデアルマイカトト返シツウララ返シテ言フ

辞ナリコミ入テ深ク推ラマワシテ云フ氣味ナリ

昭二 不知天之弃魯邪 此其以賤為本邪非乎

項羽 目盖重瞳子又聞項羽亦重瞳子羽豈其苗裔邪

貨殖 傳 豈非道之所符而自然之驗邪コトニ條一ハ豈ノ下ニ非字アリハ非字ナレ語意相反スル

ニ似テ相反セス紛ラハシキ外ナリ豈反語ナル故ニ豈其苗裔ノ四字ニテ豈其苗裔ナラシヤト云語ナルヲ耶ノ疑辭ヲ加ヘタル故ニカエツテモレ苗裔アルマイモノヲモナト云フニカエル非字アルハ又ソレラトカヘシ返シテ深ク論シタルナリ

累子莊人大喜邪毗於陽人大怒邪毗於陰

荀將以為智耶則愚莫大焉將以為利耶則害莫大焉

漢武帝本紀神人尚肯耶不耶肯不二字ニテモ聞ヘテアレトモ疑ラ

乎コヤカ又作辱又作辱乎者呼道之以達情於彼之辞

乎ハ呼ノ義ノ深キテ人ニ云ヒカケル辞ニテ別ニ意味アルニ非

ス呼カケテ向ス意ヲ注ギテ聞者ノ心ヲ引出ス之疑意ニ

決意ニ拘メ上ノ云カクタル文勢ニ疑ニ決ニ用ケリ

論不亦說乎マタ悦ハシキコトヲハナイカ乎ハ曰天乎仲為不道殺適立

庶天ヘ呼カケテ也乎 矣乎 哉乎 已乎

乎哉 諸乎ミナ句尾複用ノ例ナリ

累昭十已乎已乎非吾黨之士乎

揭季廣曰惜乎子不遇時語ヲ切ニ聞シムル為ニ先最初ニ惜ヒヤナト呼カケテ向フ心ヲ引出シテ次ニ其ワケヲ云者

論惡乎成名惡成名乎トイハハ緩ナル子道惡乎在

孟辭尊居卑惡乎宜乎コレハ下ノ乎字マタ言カケタルコトモナリ

歟イコヤカ又作與ドモヤト歟者教彼聞而裁其然之辞

與ハ我心ニ大槩カフアラフカトキワメテ向フ心ヲ推尋ル辞

ナリ我カ思フヲ云ヒ聞セテ向フニテ然否ヲ判断サセル

意ナリ與字ヲ用ユル語氣柔ナリテ向フハ遠慮スル

様ニナル故ニ語氣厲シキ處ニ與字ヲ用ヒズ語氣ハ

ゲシキ時ハ乎字哉字ナドヲ用ユ孰與ノ與ハ上声ナリ
與及字ノ下ニ詳ナリ

乎夫與ノ別ハ乎ハ呼カケテ語急ニ夫ハヨソニ云辭ニテ語緩ク與ハ向

フ投カケテ云キミ人夫ハ往ヲ主トス乎ハ來ヲ主トス與ハ往ヨリ來ヘユク

此之謂與此ノ謂テ
アラフカ此之謂乎謂テ有此之謂夫謂テハ此之

謂矣謂ニ定ツ
テアル此之謂也謂ノス
テヤ此之謂也夫謂ノスガテ
アル通ツヤ

論語 君子人與君子人也自問自
答ナリ 韓詩 曰廉矣如仁歟則

吾未之見也

後韓詩
外傳是非類與乎

論語 道之將行也與命也道之將廢也與命也

揭僂十三其人能靖者與有幾有幾與ノ意ナリ舊說ニ
與有幾ト讀スハ非ナリ

調其與能幾何能幾何與
ノ意 全何辭之與有スハカ
ヤ

檀弓 師與有無名乎有無名與乎
ノ意

○止只軼尺 里思忌且

止止者注意於其所底至之辭
語尾之止

止ハ行ノ反ニテ意ヲ其地位ニ留メテイフナリ

齊風 日月陽止 女心傷止

只シ ガリト訣ス 只者見此有而彼無之辭語尾之只

只シハ其ノミニ成テアルナリ 止只相近シ止ハ 体之只ハ用ナリ

周南 樂只君子 福履綏之襄二十七 諸侯歸晉之德只

軼シ尺シ 軼尺並與只同同音ニテ 通シタル

莊子 而奚來為軼 晉吾不能行也尺 尺字韋注ニ尺尺間ト スルハ非ヤリ只ト同ク語助ク

里リ ゾト訣ス 里者質其所處之辭

里ハ其地位ヲ求メテ言フナリ 居ヲヤト訓スルト相似テ 里ハ靜ナリ居ハ動ナリ

大雅 蕩 瞻仰皇天 云如何里

思シ コ、ニ 平声 思者冀其用心於茲之辭

思ハ其所ニ思ヒヲ運シテ見ヨト云意ナリ

大雅 蕩 神之格思 不可度思 矧可射思

忌キ 忌者躬尋思之而不自已之辭

忌ハ深ク其ヲ想ヒヤリテ躬ニツケテ見ル心ナリ

鄭風 叔善射忌 又良御忌

且シ 子魚切平声 且者姑此處之之辭次且ノ且ト 同義ナリ

且ハチヨツトスワリニスル意ナリ 且ニカツマサニナド訓スルトキハ七也切テ上声ニ下ニ詳ナリ

唐椒聊且遠條且 用覆鄭狂童之狂也且

風左執篲右招我由房其樂只且 只且カクバカリト訓ス且ハカクナリ只ババカリナリ

○而其猗兮 此員斯胥

而 サシテト訣ス 而者擬有越以承之之辞 語尾之而

而ハマダ其跡ニ言フ心ニテ詞ヲ殘シテ餘意ヲモタセタルク

宜若敖氏之鬼不其餒而 言ライヒ終ラズシテヤメタルナリ

用覆齊俟我於著乎而充耳以素乎而 乎而サシテマアト訣ス而ハサシテ入乎ハマアト

累論已而已而今之從政者殆而 楊雄魁而顔而玉帛班而

其 其者注意於彼以指示之之辞 語尾之其

其ハツレ方ト指テ用ニシ言フナリ 居ト相近ニ其ハ用ニ属シ居ハ体ニ属ス

魏子曰何其 商書若之何其

猗 アトト訣ス 猗者示軟然若不自勝之辞

猗ハホソクトヨハクシク出ル声ナリ アトト訓スル法下卷ニ出

魏河水清且直猗 誓斷斷猗無他技

兮 兮者令語函餘響以遠及之辞

兮之為聲馨也
香之遠聞曰馨

居テ餘韻ヲ含マセタル辞ナリ

老禍兮福之所倚

今ハ辞賦ニ多クアル字
ナルニ例ヲ舉ルニ及ハズ

些去声
蘇箇切

此者且之轉也

此ハ且ト同意ナリ

鄭風ナドノ且字楚音ハ清高
ナル故ニ轉メ此トナリタルナリ

宋玉招魂去君之恒幹何為兮四方些

員ウニ

員亦云也云字見于後

員ハ云ト同義ニテ言フコトガアルト云意ナリ

云ハ体員ハ用

鄭風縞衣綦巾聊樂我員

樂我員ト解スルトキハ助字
ニ非ス姑ク旧注ニ因テマニ録ス

斯

斯者舉其有條紀者之辞之尾

斯ハ其路合ヒテ持テイフ辞ナリ

コレト訓スル例下ニ出

玉藻二爵而言言斯注斯猶言耳也

小雅蕤彼柳斯

胥平声

胥者相洎以處之之辞之語尾

胥ハスワリニスル地位ニイタリタルライフ辞ナリ且ハ休胥ハ用

小雅桑扈君子樂胥受天之祜

右矣ヨリ胥ニ至ルマデ皆語末ニ用ル字ナリ句ノ中間ニアルトキモト

語尾ヲ主トスル字ナクハ
ソノ字ニテ語意切ルト知レ
ソノウチ矣ヨリ歟ニテ十六字ハ韻文

ニモ散文ニモ通シテ用ル辞ナリ止ヨリ胥ニ至ルニテハ韻文

ニ限リテ用ル辞ナリ只而今ノ字散文ニタラズアレモ皆
諷誦ノ意ヲ帶ルトコロニ非レハ用ヒヌナリ

○蓋夫彼渠 伊侯維惟

蓋カイケダレ
オホム子 蓋者占其梗槩以蔽之之辞

蓋ハ大畧ヲオサエテアテガフテ言フ意ナリ吾心ニテ下カマ

へ構へテ云フキミナリ 蓋ヲ疑辞謙辞ナド注スルハ大ニ非
ナリ疑意モ謙意モアルコトナレ

蓋織ノ蓋ヨリ出タル字ナリ 孝經孔傳ニ蓋者稱幸較
之辞ト云注的當ニ幸較ハ

酤推ニテ上ヨリ定數ヲ
立テ其利ヲ占ムルコトナリ

蓋夫 蓋嘗 蓋聞 意其下一段ノ全文ニ蒙ルナリ

其人蓋少矣 句腹ニアルハ其下ノ少矣ノ一語ニ之係ルコト字ノ
多クアル字故例ヲ奉ダス下例ヲアゲザルモ此ニ倣ヘ

夫カソレ 夫者認彼以属此之辞 語頭
之夫

夫ハ其事ヲ客ニシ言フ時夫字ヲ冠ラシムルナリ 語尾
ノ夫ハ

我ヨリ彼ノ明界ヨリ幽界ヘユキテ言ナリ語頭
ノ夫ハ彼ヨリ我ナリ幽ヨリ明ヘトリ來ルナリ

楚人謂夫旌子重之麾也 五哀夫非而離乎

複荀夫是之謂天君

夫
云トイフ者ハ

又發端ニ夫ノ字ヲ置クハ先ツ外ノヲ援キ來テ論ヲ設
ケオキ後ニ當回ノヲ書出スヘオキニスルナリ

夫以ミ蓋夫 原夫 若夫 以夫 彼夫 夫彼

句頭ノ複用ハ夫以ハ夫字ヲ一段全文ヘ係ケ以字ヲ最初ノ二語ニケル
蓋夫ハ蓋字ヲ一段全文ニ係ケ夫字ヲ最初ノ二語ニケルノ餘ハコレニ倣ヘ

累四隱夫州吁阻兵而安忍阻兵無眾安忍無親衆叛親
離難レ以濟矣夫兵猶火也弗戢將自焚也夫州吁弑

其君而虐用其民三夫字ヲ累用ス魯ニテ衛ノヲ云ユニ
外ニレテイフ意ニテ夫ヲ加ヘタリ

彼ヒカカノ 對此以舉其敵曰彼ト

彼ハ此之反ナリ我ニ對シテ体ニレ言ナリ 夫ハ對ヲトラス唯
用ニレ言クミナリ

王風彼黍離離彼稷之苗カレニアルト
云意ナリ

渠キ上声 詎同 臨彼以斥其所程分曰渠

渠ハ我ニ對スル意ナクシテ唯カレコノバレヨヲ指スナリ

子列以為偶然未詎怪也渠ハ向ヲ輕シ
ジ云外ニ用ユ

伊イカカレ 伊者狀此其為物以指之之辭

伊ハコノラノ様子ノモト輕ク設ケテ云ナリ 彼渠ハ体
伊ハ用

秦所謂伊人在水一方

侯コレ 又作侯

侯者處於其所標的之辭

侯ハムカフテ其目アテニアタリタル処ヲ云ナリ

射侯ノ字ヨリ
轉用タルナリ

周頌
載 侯主侯伯侯亞侯旅

維コレ

維者實其物繫往之之辭

維ハ其物其事ヲ此地位ニツナギトメテ言フナリ

南維鵠有巢維鳩居之

惟コレ

惟與維同

禹厥草惟繇厥木惟條

維ハ物ヲツナギトメテ置クナリ
惟ハ心ヲツナギトメテ置クニ

○粵曰聿繫 言猷爰時

粵エツ
コハニ
フヨシテ 又作越

越者有踰邁以來及茲之辭

越ハ段ウチ踰テ其處ニ來リ及ヒタルヲ云

越ノ字義ハ高キ上ヲ踰テ
又卑キ処ヘ下リタル意ナリ

詔惟二月既望越六日乙未王朝步自周

曰エツ
コハニ

曰與粵同

秦我送舅氏曰至渭陽

聿エツ
コハニ 通同

聿者度其所之以位之之辭

聿ハ其子ナキノ地位ヲ計リテ云意ナリ

ツイニト訓スルモ同
義ナリ例下ニ出

漢食^{コニ} 聿^{コニ} 為改歲 詩經ニ曰為改歲トアリ曰聿音近キ故ニ通シタルナリ

繫^{コニ}

繫者思之而位諸心之辭

繫心ニテコノ処ニトバシヨラ立テ言フナリ

アト訓スルモ同義ナリ例下ニ出

僖^{コニ} 民不易物惟德繫物

言^{コニ}

言者從其所出以位之之辭

言ハズツト其マノバシヨニト云處ニ用ユ

周言告師氏言告言歸

猷^{コニ}

猷者擬度以位其所道之辭

猷ハ心ニ謀リテ其スゲヲ云ヒ出スナリ

アト訓スルモ同義ナリ

大猷大誥爾多邦越爾御事

爰^{コニ}

爰者得所以位之之辭

爰ハコソトシテ其所ヲ得タリトスル意ナリ

豐沮玉門百藥爰在

爰有大物端^{爰字發}

時^{コニ}

時者示當其宜然之辭

時ハサフナルベキバシヨニ當リタルヲ云

湯誓時日曷喪

則少事長賤事貴共師時

力^{コニ}

右蓋ヨリ時マデ十六字ハ語頭ニ用ル字ナリ 彼渠時ナハ句尾ニ用ルコアリ

中間ニアルトキモ皆下ノ語意ヲ引起ス勢ナリマタ侯曰

聿斲言猷時ノ七字ハ韻文ニ用ルナリ 散文ニテモ誥命ノ体ニ擬スルカ又

ハ古人ノ成語ヲ切コシ
名処ニハ用ルコアリ

○云噬烝逝 此是斯兹

云 イコフニ カイフニ下詠言有所蘊曰云

云ハカフ言フコガアルニト云意ナリ 云ハ往ニ属ス言ハ見入テニ属ス

邶道之云遠曷云能來 遠キト云フガアルニヨシ
來ルトイフコハアルマイ

又云字ヲ句尾ニ置久云云意ニテマダ言フコノアル意ナリ

伯夷傳 蓋有許由冢云 大宛臨大澤無崖蓋乃北海云

噬 コニ 噬者有所豫古以發之辭

噬ハコノ處ハト心ニカミシメテ發スル声ナリ アト訓スルモ義同シ

唐彼君子兮噬肯適我

烝 コニ 登進而以結斲曰烝

烝ハ氣滿テ斲結シテ出ル声ナリ アト訓スルモ義同シ

幽烝在桑野 非ス姑ク旧説ニ從ツテ録ス

逝コ、ニ

往而不反曰逝

逝ハユキ去ツテカヘラヌ處ヲ云ナリ

邶乃如之入逝不古處ユキテ古處セズトヨムトキハ助字

右云嗟ハ韻文ニ用ル字ナリ 詩經ニアルノニテ後世ノ文ハ見ヘス

此コレ

對彼以舉其敵曰此

此ハ彼之反ナリ体ニ属シテ其マヘニアルヲ存ス辞ナリ

荀有物於此又爰有大物 爰字ユヘ上ニアルナリ此字ハ上ヲ

子孟於此有人焉入則孝出則悌於此ハ上文ヲウケテ置キ有人

ナルユヘ体ニシテ又有人於此毀瓦畫墁 コレハ無キ人ヲ假リ設ケル

莊非此其身也在其子孫此非其身也 此事

是コレ 諛同ゲヤ 對非以舉其實曰是

是ハ非之反ニ用ニ属シテソノウチノ様子ヲイフ此往ヲ主トス

此是斯之別ハ此ハ上ノ文ヲ主トシテトテ語ヲ引括リテ承ケ持テコソ

事ハト云フ意ナリ 是ハ下文ヲ主トシテカフ云フモノトテ持テ云意持

偃此之謂瓦解是之謂土崩瓦解ハ体ヲ云土崩ハ用ヲ云

經潛為之國是此毛氏是字潛為之國ノ解ヲ指シ此字其

アルト確タシカニソチエラテ、言フナリ

三年于茲ニ三年ノ月日ノタチシ 于茲三年コトハシヨラ 歴ニシ

今茲コトシ 來茲來年

成人所以立信知勇也信不欺君知不害民勇不作乱

失茲三者其誰與我ニコノ茲字モシ此字ナレハ三者ノ体ヲ云ニ

是字ナレハ三者ノ用ヲ云ナリ斯字ナレハ

コニト訓スル類複用 爰在 緊有 於緊 粵者

巴上發端モ中間ニモ 茲者 于寔巴上中間ニアリ

于爰 於焉巴上中間ニアリテ句頭ニモ 于斯 於斯

于是 於是 於此 于此 于茲巴上中間ニ結

句腰句尾共ニ用煩

○於于乎都 寮寔且之

於者舉之處諸此之辭イヨコトニテ 古文作爰ニテ

於ハ体用ヲカ子テ下ト上トハ係ルナリ此地位ニテカフアル

ト云フ意ナリ於ハ上下ノ字 皆我ニ屬ス

于者安其所處之辭ヲイニテ

于ハ体バカリニ付テ下ノ字ノバシヨラスヘタルノニナリ彼地位

ニ入テカフアリタルト云意ナリ 于ハ下ノ字 彼ニ属ス

乎 = テハ 乎義見于前

乎 句腰 ハ用バカリニテ上ノ字ノ様子ヲ語ルニナリ此ノカ

彼方ニテ斯クナルゾヤト云意ナリ 乎ハ上ノ字 彼ニ属ス

志於道 道志ス全体ノ用ヲスヘテ云ク 志于道 道カ藝カ何物カトノ辨

別ヲスエテ云ク彼道ト云モノニ此志ヲ立ルナリ 志乎道 志サス所ノヤフスヲ云クコノ道ニ彼志ヲ立ルナリ

論 南宮适問於孔子 子孟或問乎曾西 論語ハ問於孔子ト云フヲ文ノ正南

ニ立テク主トシタル故ニ於字ナリ孟子ハ孟子公孫丑ヘン彼答ノ中ニ曾西ノコトヲ引タルニテカフ云フ或問シテモ有タルゾヤト形容テ云タル故ニ乎字ナリ莊子ナト持論中ニハ於字九ベキ所フ多ク乎字ニシテアルハ皆此例ニテ幽界ノ心思ヲ深クモタセタルナリ

二 閔敘之于夷 夷ハ云 瑯青出之於藍 藍ト云体ニ出スト云ラ用ヲカケタリ

周救 匡國家復之乎正 コレラカエ

其哉 武王竟至周而卒於周 ヒト通り死シタル処ヲ記スナレハ于字ナリ秦ニ死スヘキモノガ周ニテ來テ

虎シタルソノワザヲ迷ル 成 穆姜出于虜 出タルハシヨラ記ス意ニテ於字ヲ用タリ

出タル様子ノワザヲカケテ於字ナリ往多キ 九 ハシヨニ對シテ出タル処ヲ奉ルトキハ自字ナリ

襄 十六 赤於樂氏門于師之梁縣門發獲九人焉涉于汜而

歸 於樂氏ハ本路ニ非ル処ヲワサニ通りタルユヘ
於字ナリ于記ハ本路ナルニハ分ツクナリ

九 聖 室於怒市於色 ノ假設ノ語ニテ上ニ如若
フコハ僅六言ニテソノ意ヲコメテ盡シタルモノ
故ニ室市字ヲ活動シテ上ニ置タルナリ實事ヲ
記シテカタ持ハヤハリ怒於室色於市トカクナリ

四 昭 不脩政德亡於不暇 一 昭 唯蔡於感 此ニ夕臆度言
故將不暇於亡

必感於蔡ナドカクキ外ヲ上ノ字ヲ
畧シテ亡字蔡字ヲ活動サセタルナリ

雅 心乎愛矣遐不謂矣 コノ乎字上ノ於
字ト同例ナリ

於人監 主トシテ活用サセタル故ニカクノ如ク錯綜セリ

項 紀 今盡王故王於醜地而王其群臣諸將善地 群臣諸
將イナラ

主ニシテ云タル故當向一レテ助字ナシ
故王ノハ客ニナルヲ於字ヲ入レタリ

梁 孝 王 茅蘭說王使乘布車從兩騎入匿於長公主園 コレハハ
タル明界ニハ

ハ敎ヘタルヲサフ云故 全 公孫詭羊勝匿王後宮 コレハハ
ニ於字ニテ辨別シタル

助字 於 春 於越人吳 コノ於ハ發声ナリ後世人名
ナシニ阿字ヲ添ルト同シ

焉 於 語尾ニ用ルナリ語頭
於ノ於ノ友ナリ

論 友于兄弟施於有政 コニテ于於ノ別ヲ見ベシ于ハ
体ナリ於ハ体用兼ルナリ

南 周 之子于歸 大雅 上帝既命侯于周服侯服于

周 天命靡常 于周服ハ周ニオイトスルヲ主トシテイハル
ナリ服于周ハ服シタルアトニテイナリ

力 吾 嘗 矣 卷之上

小雅 申伯還南謝于誠歸誠歸于謝トアルヘキニ似タレドモ

鄭期我乎桑中要我乎上宮明界ノ叙事ナレハ于字九ヘキ

庸莫見乎隱莫顯乎微隱レタルモ

今コニテハ假設ノ形容ナルコヘ乎字ナリ

如傳 聲稱決乎于茲熟連レタリ

于周于京 于孟號泣于旻天于父母

都者相翕以處之之辭

都ハソレコソ此ハレヨニト云処ニ用ニ例並ニ下卷ニ出

司馬指如 終都攸卒注ニ都

向オイトテ 其方向フテ 意在 詳于後 同意

案去声 通作安 案者貼此其所奠地位之辭

案ハ其バレヨニヲナツキテ言フナリ

為是案曰是非案曰非 敵國案自屈矣

今置質為臣其主安重 策秦禍安移于梁矣

寔コソ 所是之迹曰寔

寔ハ是ノ字ヲオモクシテ其跡ヲイフナリ 是ノ入声ニ

仲施簡賢附勢寔繁有徒

且上声七夜切

將有所移姑此處之日且

且六子ヨツトユトリヲ付テニル意ナリカツ一サニト訓スルモ義同例中卷ニ出ス

周匪且有且

之コレ

ソノ人ヲバソレヲソレガト訳ス

之者注心於其所識別之辭

之ハユクテ訓スル時ハ此ヨリ彼へ移ルスチラ云フ字ニテ明

界ノ文字ナドモ助字ノ時ハ記者ノ心識ヲ其方ヘ方

シテ其理ヲ指シ言フ辭ニ明幽兩界ニ涉ル之凡テ之

字ハ神用ノ字ニテ其人ノ心ヲ其物ニ注クテ想ヒヤリテ云

処ニ置ク當固ノ主タルモノヲ立オキテ其中ヨリ引ケテ云キ之字ヲ付ル又其主タルモノニ對シ外ノモノヲ容ニシ云時ニ之字ヲ用ユ

周葛之覃兮被葛ト云モノカソレカ覃フ多チラト云ク之眼前葛ノ覃ヘルヲ見テ作ルトバ之字ハイラマナリ

陳平子之居楚何官巴前楚ニ居タリニ既往ノヲ問フニ之字アリ今楚ニ居ル人ナレハ之字ハイラマナリ

平畏讒之就固請得宿衛中今讒者アルヲ畏ルニ非ス將來ニ讒ヲ就ニテヲ畏ルナリ

應侯之用於秦也孰與文信侯專文信侯ノ方主ナルコトニ之字ナレ應侯ノ一ヲ

子之所戰處子ト他ノ者ト之字ナリ 子所戰之處

戰フト戰ハガルト辨別ナリ 子所戰處何心ナレニ戰ノ處ヲ云タルニナリ

凡テ讀クセニ之ノ声ヲ用ルルニ之字ナキハ皆明界ニ
現前ニ有ルコトハイツニテモ之字ヲ除ルコト當然ナリ

之ヲコレト訓スルトキモ同義ニテ之ハ上ノ文段ノ中ノ物カ
事カラ指テソラソレニナド云處ニ用ユ

之上焉ト別ハ之ハ体ニテ其ニ物一事ヲ指シ焉ハ用テトク其ハシヲ指スル
焉字ハ上ノ語ノ外ヘモトル之字ハ上ノ語ノ物カ事カラ下ヘ引來ル來往別アリ

莫之斯暨 カンカミルコトヲ此
コトニスルガナイ 是之不暨 コトノ道理カアルニカレ
カミハル人ジヤ

此之不暨 コトノハカガミ
サル人ジヤ 不此之暨 コトノコトカガミ
ルコトヲセヌ

久之 ソノコトヲ其ナリ
ニクシラメ 久焉 其サフ右タ
ハレヨニタシラメ

桓 秦師侵芮敗焉 焉字ヒロク表秦師侵三字ノ用ヲ
コメタル故ニ秦師カ敗ルニナルナリ 侵芮敗

之 之字芮一字ノ体ヲ指スユハ芮カ敗ルナリ
之字ハ其モノヲ捉ラマエテ云フ字ナリ

傳 夫史舉下蔡之監門也大不為事君小不為家室以苟

賤不廉聞於世其茂事之順焉 之ハ史舉ノ人ヲ指ス焉
ハ苟賤不廉ノ行ヲ指ス

六 君子非無賄之難立而無令名之患 非難無賄患立而
無令名ト云語ナレ

ドモソノコトヲ彼ニシテ言タル
ユハカクノ如クガキタリ

論 古者民有三疾今也或是之亡也古之狂也肆今之

狂也蕩古之矜也廉今之矜也忿戾古之愚也直今

之愚也詐而已矣 是字肆廉直ヲ指ス之字在矜愚ヲ指ス其
肆廉直ヲ以疾トスルハ今テハナキト云フナリ

隱愛其母施及莊公詩曰孝子不匱永錫爾類其是之

謂乎 是字詩ノ語ヲサス之字穎考叔フヲサス此之謂也斯之謂矣ナトモ此ニテ推スヘシ

之謂 ソレカ來ヘキテ何ク 謂之 ソレヲ名ソケテナラト云フ 中天命之謂性

天ニテ命ト云モノガ人ニウケ持テ性ト云モノニナル 自誠明謂之性 自誠明ナルモノヲ名ケテ性ト云

荀君子之謂吉 君子ニスルノガヤガ 傳反聽之謂聰 反聽ガコレ聰ト云

ニ非ズ反聽ニスルノガ聰ト云モノニナルク善聽謂之聰ト云トキハ善聽ヲ名ケテ聰ト云ト云ク 未之見 見字主テリテコレヲ見タカ見カマダ見ヌト云意

故ニ主ニナリテ見ルヲ外ノコトニスレト云フニハセヌト云程ノ意ナリ 未見之 見字主テリテコレヲ見タナリ凡テ二字連續スレバ上ハ体ニナリテ上ノ字ヲ活動セテ見ルベシ未之有 未有之莫之知 莫知之ナリモ此例ニテ知ヘシ

之字ノ人名ノ語助ニ用ルコトアリコレハ声ノツマリタル処ニ少シ

心ニ猶豫ヲ持テ之ノ声ヲ挾ミタル コレハ万葉集ニ和歌中ノシ文字ヲヤヌ詞トスルト同シ

子孟庾公之斯 尹公之他 莊石之紛如

○厥其戎者 以用式庸

厥 ハソノ物ソノ事ヲ体ニシ言フナリ 厥者體彼以指斥之之辭

典堯 厥民折鳥獸孽尾 離 泥又貪夫厥家 厥字詩書ニ多ケレト後世ハ

韻文ノ外ハアマリ用ヒズ左傳ニ古筮ノ辞ニテハ厥字アリ

力吾嘗及 卷之上

四十三

其^キソ^ソ

其義見于前語尾之其ノト出

其ハソレノカト指テ用ニシ云フナリ

其ト夫トノ別ハ其ハ一物一車ヲ指ス夫ハヒヨク彼ヲ包容シテイフナリ

有其德

其字德ヲサス

其有德

其字ソノヲサス

以其道

其字ソノ道ヲサス

其以道

其字ソノ人ヲサス

其非義非其義ナドシテ例ナリ

其非有

其字物ヲサス

非其有

其字人ヲサス

其無人

其字ソノ国ヲサス

無其人

其字德ヲサス

察其病

其字病者ヲサス

其察病

其字醫ヲサス

有其其有其於於其所所其也此例ヲ推ヘシ

五傳十泰不其然セサフアルヲソレハセスニ突ツテアル

擅其不然乎ソレハサフアルニハセラレマシ

衛其兩其兩

コレハ兩ヲ用ニナリテアルト呼カケタルナリマタ其字ソレト呼カケテ語勢ヲ反語ニルモアル

用復唐風彼其之子碩大無朋

法馬不加喪不因凶所以愛

夫其民也

其諸其與

戎ナソノ

戎者斥彼之所内之辞

戎ハ彼ノ内ニ持ル所ヲサシ言フナリ

戎乃ハ事ノウヘニテ云フ爾而ハ人ノウヘニテ云フ

竹肇敏戎公用錫爾祉

戎ハ韻文ニシテ用

乃ナソノ

下スナチノ下ニ詳ナリイマシト訓スルト同意ニ彼今ニテアリサマヤス

盤設中于乃心

爾ナソノ

義見于前

子孟其至爾力也其中非爾力也

力吾

吾

四二四

而ナソノ 義見于前

而スズク 以固而閉汝ヨリ甬ハカロク

若ナシギ 見于下

汝ナシギ 對入未之稱

者テハ 者ハ

者者即物標之之辞

凡事物ヲ指シ言フテ其下ニ者字ヲ置クハ其事バカリヲ主

ニ立テ外ナキモノニシテ言フナリ

古者今ハソノナシ 今者古ハソノ事ナシ 今也古ハカヤ今ハ 今則

古トシテ言フ 今トシテ言フ 今トシテ言フ 今トシテ言フ

仁者 知者

竹樂之器也 樂也者

不者 然者 其者 或者 或者曰

以 以我ガソレヲ自由ニ持アツカフ意ナリ

是以 以是

禮以四時為柄以日星為紀月以為景鬼神以為徒星

霍 疾貌

揮 提持也

疾貌

孟徒法不能以自行以字徒秦誓以不能保我子孫以字下ノ

雅以莫不增以字下ノ子孟有司莫以告以字上ノ

論羔裘玄冠不以弔羔裘玄冠ハ弔スルヲ以テモマ羔裘玄冠以不弔セトカ

已ヤメレヌ不可以已ト云フ可以ト云フ

余以所見ワカ見ル以余所見ワカ見ル

以花喻美人此花ヲ以彼ノ美人ニ喻スルナリ花ガ主ニナルナリ

以美人喻花此美人ヲ以カシラノ花ト云モノニ喻スルナリ美人ガ主トナルナリ花モ人モ皆此ニ有ルモノニシテ兩方トモ主ニスル

品之トキハ較花及美人而

隔四 紂作淫虐文王惠和殷是以隕周是以興是以殷隕周興

庸以 用以ミナ複用ス

以為心ニサシヤ謂心ニサズヤトシ惟イナ途ニ

意シモフニ億同想シモフニ顧カヘリミテ思フナリ

用イコフ用モツテ顯然動而為之曰用ト

用八彼ニテソノ用ニナリタル所ヲ云以ハ我カラソク用ニスルナリ

祈父君子屢盟乱是用長是以ナレハ盟カラソトカヲリテ乱ガ長シタルナリ是用ハ何トナシニ彼ニ長シタルナリ

敢用用字上ノ敢獻功用字獻功

助吾審象卷之上

式 シヨク
モツテ

シテト訣ス

由其軌而有以作曰式

式ハ上ノ語ヲ承テ其通りニシテチニ行クト云処ニ用ユ以ハ用式ハ体

鹿鳴之什 嘉賓式燕以樂

庸 イヨウ
モツテ

シヤト訣

受彼以有所造曰庸

庸容ト通ズイレニスノ義ナリ
庸ヲ語頭ニオケハ反語トナリ
イッダト訓ス例下卷ニ出

昭 シヨウ
使其除徒執用以立而無庸毀

將 シヤウ
モツテ 見千後
ソレニシタカフテ行フ意ナリ

○足可宜當 合須應容

足 ソク
タル

十分ト訣ス

纔充其量曰足

足ハアト云字ニテ其物ニソレホドノハ付テアル意ニソラクニ

ナリテアルトク 足見 可見 足ハ彼ガソレホドニナツテアリ
可ハ我ヨリ判断シテ云ナリ

可 カ
ベシ

セラルト訣ス 可者許之之辞

可ハサフセラルトヨト我ヨリ判断シテシマフテヤルナリ

不可與 ツクヤスルハ 不可與 ツクヤスルハ 深可歎 歎スヘキ

可深歎 歎スヘキ 不可一日無 一日トイヘトモ無クテハカナラヌ 一日不

可無 一日ニナツタ日ヲサスマデナリ

合カフ
ベシ
一カニ

ヨサソウナモノヤ
アリソウト云
以此推彼之宜然曰合

合ハ其恰好カカフナリソフナ処ジヤト云フナリ

當ハ其ノ理ツメヲ云
合ハ見カカリニテ云

家カ
桑穀野木而不合ラ生朝ニ

後漢杜林傳
不合翻移

須シユ
スベカラフ
通作齊
セヨト云

須者命事之辞

須ハカフスルガヨシト命スルコトバナリ

秦須以决事ヲ

傳倉胥與公往見之

須胥同音ニ
通ニタルナリ

應オウ
ナルベシ
平声

テラト云
度彼之將爾曰應

應ハ外ノヨカラズベシト推量シテ云辞ナリ判断ノ辞ニ非ス
當ハ我應ハ彼

家語匹夫熒侮諸侯者罪應誅セズル

容イヨク
ベシ

シテモヨイ
ニシテヤルト云
受彼以聽其所造曰容

容我ヘウケ入レテ一段コレテユレシテオク氣味ナリ

不容自己自字我

自不容已自字彼
然トタルナリ

後漢馬援傳

受誅之家容因事生乱

容字ベシト訓スレドモ當宜ナドトハ大ナル違ヒアリ罪不當誅罪不宜誅

不可誅ナドトハ皆誅セラレスト云フナリ罪不容誅ハ誅フルサレスト云フナリ容ハ一段越シテ云字ナユナリ

後漢李固傳

况受顧遇而容不盡乎

容庸通シテ庸ライツクシツト訓スルト同ジト上ニテハ反語トナル

ベシト訓スル復用 可應 可宜 可須 應須 應可 當須

カ
吾
家
語

四
一
九

宜當 須可 當宜 當應 應合 應當 宜可

○攸所見被 遭遇受逢

攸イウ トコロ 畫其地位スル曰攸ト

攸ハ我ヨリ其地位ヲ定メテ云攸ハ來所ハ往

雅小萬福攸同ニル 攸字後世ハ韻文外ハ用ヒス

所シヨ トコロ ニル 奠其地位オララ曰所

所ハ彼ニテ定メリテアル地位ヲ云ラルト訓スルモ同義ニ彼ノサテリタル其物ニリニイフ

所以句腰複用ノ例ニテ以字ヲ上テ語ヘカケ所字ヲ下文ヘカケテ見ルヘシ 信知人所以立ツ以ハ信知以ハ信知以ハ信知

ナリ所ハ 聖德孚天地歲之所以無水旱也上文歲ノヲラ

字主ト 聖德孚天地所以歲無水旱也上文聖德ノイヲ

トヒル 其所不知 非其所知所其不知トカケハ不成語ナリ

爾所ソコ 處所處ハシ ワタチリ

見ク ニル 去声 值彼之接我曰見

見ハ向フカラサセニルナリ

僖ニ 隨之見伐不量方也 所見 為見 見被 為所

被レ ニル 受其掩冒處之曰被

被ハサフナリテソウチニ在ル意ナリ

魯仲連傳以萬乘之國被圍

所見ノ二字ハ体ニテ彼ナリ被ヨリ以下ハ皆用ニテ我ナリ

遭カウラル

遭ハメグリアフナリ

惠帝紀遭太后虧損至徳

行復相値曰遭匝ト同音ナリ

遇グラル

遇ハ出クセサフナリタルナリ

韓非子見下節而遇卑賤

溪巧出乎不意曰遇

受シウラル

受ハソクヲ我ニウケトメタルヲ云

從而有以獲曰受

後漢植帝紀李膺等受誣為黨人

逢ホウラル

逢ハ中途ニテタガヒニ出アフヲ云

中路相遇曰逢

後漢書和喜皇傳將杜根逢誅

得就之致以獲曰得

覲コウラル

覲遇ト義近シ

蒙ボウラル 獲クハラル 得トクラル

取シユラル

取同上カス多キニ例ヲ畧ス

為風所吹 為風吹 風所吹 為風之所吹

為風見吹 風見吹 被風吹 遭風吹

コレト同例ナリ イツレニテモ比自コノ例ニテ所見ニ字ハ其物ノ下ニ置ク其餘ハミナ其物ノ上ニ置ク之彼我ノチカヒナリ

○振道緣因 由緣自從

振ヨリ

收整而有以發起振

振ハ其ウチヲトリオサメテ云意ナリ

振字ヨリト訓スレモ
振古外ハ甲ルナシ

周頌匪今斯今振古如兹

古ヲ振テトヨム時ハ助字
非ス姑旧説ニ從テ録ス

道上声

依此以達其所往曰道

道ハソレヲミチニシテタヨリ來ル意ナリ

韓有玄鶴二八道南方來

全樗里疾已道充聞之矣

緣ヨリ

トクツキトコロ
ツキワツテト訣ス

遵其所隈曰緣ヨリ轉用ス

緣ハソレニヨリシテ行ク意

董傳此火異所緣而起也

因ヨツテ

ソレ符テト訣ス

係彼而坐此曰因

因ハ幽界ヨリ出テ明界ニ言フ壁化シテ異物トナルガ如シ

傳自立為齊假王漢因而立之

撥族卒於陶而因葬焉

由ヨリ

通作猶

ヨリ符テト訣ス

循此而届彼曰由

由ハ明界ヲ言フテ幽界ニ入ルナリ壁六ヤハリ其物ニテ形

色變スルガ如シ

因ハ体ニ属シ來ヲ主トス由ハ用ニテ往
ヲ主トス緣ハ因由ヲカ子テ其間ヲ云ク

孟子由平陸之齊

平陸ニ居タルヨツテ
ソレヨリユキト云意由是觀之

由爾言余ノ言ニシテカフ

因爾言余ノ言ニ付

繇ヨツテ

繇音由繇ハ由字ノ重クシテ
体用ヲカキタル処ニ用ユ

無繇教訓其民繇モト徭役ノ字ニテ音揺ナレ
トモユルト訓スルトキハ音由ナリ

自ヨリ

カラト訣ス

對他舉其所出曰自

自ハ其中間ヲ除ケテ向フマキヘ對シ唯其出ル処ヲ舉ルナリ

東方自出東方ヲ見テ非レハ
ソレカラ出テタル

出自東方出ルハ東方カラス
ハ對シテ云

自東方出外カラハ出ヌ東
カラ出テタル

來自東自東來始自漢
自漢始

論語奚自曰自孔氏

定自南門入出自東門ミナ上ノ例
ヲ推シ

十五夏氏之乱成公播蕩又我之自入

調子頽之乱又

鄭之由定

元叔出季處有自來矣モトカラ叔出季處
ニナリテアタリ

有由來矣由字ナレハヨリヨリシテ
彼トニナリ來ルナリ

僖自南河濟

十五晉侯濟自泮

楚師分涉於彭コレハ本路ニ非ル処ヲサニ
通リタルニ於字ヲ用ナリ

從ヨリ

ソスナカテ訣

趁其所路而就之曰從

從ハ其中間ノ付テ行ク路スナク云ナリ

タトヘ京カラ江戶ノ向ニ對
シテハ自字ナリソノ行ハ

東海道カラスルカ中山道ヨリ
行カトイフハ從字ナリ

昭從古以然自古ハ古ノ始ト今ト云從古
ハ古ヨリ今トテノ問ヲイフ

カ

カ

カ

用ヨリ自從ソラスケム付テカラ付テ從自ソシカラソク自於ヨリ於オイテ自于ヨリ

楚ヨリ自從先君以至不殺之身紀秦法之不行ヨリ自於貴戚ヨリ

好傳趙飛燕姊弟亦從自微賤興ル依ヨル依ヨリソフテト誤

○故肆為雖 俞爾然而

故コカルカニニコトセラニソフケテト誤 語舊以待今日故

故ハ其モトノ實ヲ舉テ言キカスナリ

隱ニ為公故曰君氏為ト故ト重ルニ似タレハ為ハ彼ニソク用ヲ云故ハソフモトヲホスナリ

昭三我之不共魯故之以故ト以ト重ルニ似タレハ故ハ其モトヲ言フ以ハナレテタテテヲ云ナリ

韓非此所以無辨之故也元六月葬莊公乱故是以緩ニ

子玉收其卒而止故不敗二衛侯不去其旗是以甚ニ

敗ハ上ノ語が主トナリ是以ハ是故 以故 故因

為是故 夫然故 複用多キニ例ヲ畧ス

隔承隱法太子少葬故有闕太子少故葬有闕トカクハキニ似タレモト葬ノイヲ云タル文ニテ葬ノ主ニナル故先上

置ニ臣故我故不此ニ准知スヘシ故故疊用

肆イハ肆者尋往以逮來之辭以ハ往ヲ主トス肆ハ來ヲ主トス

肆ハ今カクアルト云意ナリ 宋景濂ガ文ニ肆字ヲ發端ニ用タルハ字義ヲ明カモサルヨリ誤レリ肆コト訓

スルトキモ古書ニ皆上ラ
受テ故今ク意ナリ

無肆中宗之享國七十有五年

肆後世ニ韻文
ニ用

為イ
去声

就彼而從獎之曰為

為ハカレツイテ我サスルナリ

故ハ体我ヲ主トス
為ハ用彼ヲ主トス

論語非夫人之為慟而誰為

誰為ハ外ノ者ニハセスト云
為誰ハソノ人ノ定ラヌ

與タノニ
上声彼トクニ合ラテスル意ナリ

策或與中期說秦王

雖イ
トモ

ケレトモト誤ス

雖者設兩以翻之之辞

雖ハソレハサフナレモ又カフ言フガアルト云意ナリ

引

雖吾子儼然在憂服之中

コレハ外ニ全文ノ主トスル外アリテ吾
子ニ在憂服之中ト云フヲ引クルナリ

客ニシ言タル故ニ五
子ノ字雖下ニナリ

吾子雖云云

トアレハ五子ト云モノヲ主ニ立テ云
ナリ凡テ物名ノ字雖ト上ニアルハ

其物主
トナルナリ

車徒雖衆

車徒ト云モノヲ主ニ立テ云ナリ
車徒アリテモ多クケレトモ

雖車徒衆

其人ヲ主ニシ云フ其人
多ク車徒モアルケレトモ

雖衆車徒

車徒カ少ナシテハ
ナイ多クケレトモ

年雖幼

年ノ一ヲオモニ論
シテ幼ケレトモ云

雖年幼

其人ノ一ヲ論シテツイテニ
年モ幼ナレトモト云タルナリ

其言人人雖殊ハ其人ヲ主トス 其言雖人人殊ハ其言ヲ主
トス 雖其言人人殊ハ上ノ全文ヲ主トスヲ類皆コノ例ナリ

雖曰云云

カヤフクニ言
ハルケレトモ

雖云云乎

カフシヤヤ

雖云云也

カフ云スガ
シヤケレトモ

雖云云矣

カフニ定ツテ
アルケレトモ

雖云云哉

キツトカクテ
アルケレトモ

雖云云耳カフシヤアデ 雖云云已カフアスミテ 雖云云然カフアスミテ

ケレソレハサフ 雖云云而トモケレトモソノ

引雖微晋而已天下其孰能當之家寡人雖不德耳奈

何以朱公之子故而施惠乎傳說雖行哉然復不遂

則雖 雖則句頭ニアリテモ上ラ承ル語ニテ句腰復用ノ例ナリ

則雖ハ則字下ノ語意ニカク 雖則ハ則字上ノ語ニ係ル

累張耳皆難 雖皆或難雖或ハトミナ句腰復用ノ例ナリ

俞シカリ 嘉其言而稱之曰俞モトモギト訣ス

俞ハ向フ言フヲ尤ノシヤトウケルナリ

舜帝曰俞汝往哉俞字後世ハ韻文カ

爾シカリ 爾義見于前詰策ノ外ニ用ヒズ

子列陰陽爾四時爾孟非天之降才爾殊也

檀弓子貢曰夫子何善爾也雜有君命焉爾也

云爾カフイフコソ 云然ソトホリシヤ 爾則カフアスニ

爾乃カフアル 爾為シカス 不爾シカス 當爾ル

然シカリ 然者實彼其如是之辭サテアルト訣

然ハ即燃字ニテ火ノ物形ヲシタフテモエテアル処ヲ云字ナリ

上ノ文意ヲ承テサフデアルト云意ナリ 下句ノ頭ニアルトキハ上ノ文意ヲ承テサフアルニ

サフアレモナド、訳ス凡句頭ニアル然字ハ今エデ云タル語ヲ尤ナリト承テ次ニ異見ヲ云出スナリ

爾然ノ別ハ、爾ハカフデアルト其物ノ内ニツキテ云ナリ然ハサステアルト外ヨリ云ナリ、爾ハ我ナリ然ハ彼ナリ

然而 サフナツテアル 雖然 サフテアル 雖爾 カフジヤ

然則 サフデアルニ 若然者 サフデアル

浩然 サフデアルトソノ物ノ外ノ一ノ字ヲトリテ 鏗爾 ツノノ字ニテス

タ上テイフ浩ハ水ノ一ノ字ヲカリ來ルニ 潜焉 ツノハシヨラスエテ 洋洋乎 乎ハソノヤフスラ

勿勿諸 之ヲ於ニ 儼兮 今ハ意ヲ 斑而 而ハコトハチ

而 シカクモ 而ハ即鬚字ニテ獸ノ毛髮ノ掩ヒ懸リタ貌ヲ云字ナリ

上ヲ持シテ段ヲ一段コス所ノ語助ナリ既往ト現今ノサカヒ

現今ト將來トノサカヒ皆而字ヲ置ナリ

而後 サフツタ 然後 サフアル 爾後 カフツテ

子孟權然後知輕重 權ト云モガアルサフ 權而後知輕重 權ト云

テキテカラ輕 漢而後 漢ヲハ 漢以後 漢カラフナナリ漢

重カシスル 漢以後 世ヲモイレテ云ナリ

而還カカ以還カカ而往カカ以往カカ 可得而聞求メテアトテ聞 可得カカ

聞ト云フ 喟然而歎而字アルハ先喟然ト息ヲツキテ 喟然歎サテソレカラ歎ノ言ヲ發スルナリ

而字ナキハ當面ノ形 凡ステ假名テト讀ミテ而字ナキハ皆其語トツキ

隱 王室而既卑矣コレハ王室ニ字ノ内ニ王室ハ隆ニ有レモノト云

寬而栗栗而立コノ類ハ違フタルモノヲ對シイフテ寬ナレト栗栗ナレト

隔 襄焚書於倉門之外衆而後定而後衆定ノ意ナレト衆ト云

晉侯聞之而後喜可知也 及楚殺子玉公喜而

後可知也而後喜可知ハソノ時事ヲ記シタルニ常法ノ喜而後可知ハ後

子明於持社稷之大義嗚呼而莫之能應而嗚呼ノ意ナリ

如ミカフシテ 見于後ミカフシテ 七星隕如雨ミカフシテ

○親自居坐 尋行追隨

親ミツカラ 厚之而不外之曰親ミツカラ

親ハ 我手ニカケテスルヲ云 疏ノ反ナリ親ハ用

成 齊侯親鼓士陵城親ハ用

自ミツカラ 自義見于前ミツカラ

自オソツカラ 自義見于前オソツカラ

助 吾嘗象 卷之十一 五十八

躬 己為之不他 之

不自忘 ミツカフ 自不忘 オツカラ 自不耐 オツカラ 不自耐 ミツカフ 無自自無ノ類 皆此ヲ推ヘシ

自如 タリ 外ヨリ ミイフ 自若 タリ 其人ニテリ ライフ 身自 カラ 親自 カラ 丰自 チカラフ

居 キコ 井ナカラ タナシク 置之於茲有定曰居

居ハ其地位ニ在テイマダ動カサル處ヲ云

雅居以凶矜ス 居頃 アツテ 居頃之 之字上ノ 居有頃 文ヲ承ク

居無幾 問モ 居無何 ナニコト 居無幾何

坐 サ 井ナカラ ヨル 來之於茲有安曰坐

坐ハツカモナクヤスクトスル意ナリ 後世ノ詩語ニ坐ヲノコト訓スルモオルニツカモナクヤクニ云ナリ

蜀諸葛亮傳 使孫策坐大遂并江東

尋 ツイテ 追其跡而熟之曰尋

尋ハモトアリシ事ノ跡ヲツギテスルナリ

宋書五行志 尋王恭起兵誅王國寶旋為劉牢之所敗

尋即 尋復

行 カク ツイデ ツクニ 平声 ヤガテト認ス 累步不止曰行

行ハ止之反ニテヤガラ其処ニ至ル意味ナリ

呂后紀 太尉行至 魏志華陀傳 病亦行差

追 ツイテ

ホトタト 誤ス

認踪期其及之曰追

追ハ其アトハ間ヲスカサズ來ル意ナリ

周書宣 ツイテ 帝紀 追尉遲氏入宮

隨 ツイテ

ツヒク ト誤ス

委彼之所恣曰隨

隨ハ向フノマ、ニツキ行ク意ナリ

列 ツイテ 隨生隨死

從 ツイテ 見于前

旋 ツイテ 見于後

○敢肯猥濫 聊頗向垂

敢 カシ アエテ

カト、誤ス

敢者冒突不憚之辭

恐冒誤

敢ハ遠慮ナクズツトサレ出ル意ナリ

不敢自量 自量ル ヲラ

敢不自量 自量ル ヲラ

必自量ラト云フニ返ルナリ

不敢不勉 コレハ不勉ト云モノヲク、リ

持タル故ニ敢ノ例ナリ

鴈蝦蟇在東莫之敢指

指ス 指ス ヲラスカ

莫敢之指 指ス ヲラスカ

莫敢指之 指ス ヲラスカ

指ス ヲラスカ

敢莫指之 反語

敢不敢弗敢莫ノ類此ニ在シ皆反語ナリ其上ニ

メニ字ヲ加

側亡君師敢忘其死

亡君師ト云カケタル語

列弟子敢有所謁 コソラス

ツトスル

有所敢謁

有敢所謁トカクハナシ

肯 コウ アエテ

又作肯肯 ガヘニス

肯者領而諾之之辭

カ

カ

カ

肯ハトクシニシテウケガフナリ

不肯イヤ 肯不見シトマ 不肯見ニミルコト

成ナ 秦伯不肯涉河フ 邠惠然肯來トメテ

猥ロイ 狎褻不顧冒瀆曰猥

猥ハズリナレクシクヨリツク意ナリ 猫猥トアルハ

律猥云德化不當用兵ラ

濫ラン 浪孟及過濫曰濫

濫ハメツタニワケモナキコトヲレカケルヲ云

泥ニ 叨トウ 妄バウ

聊レウ 得姑息以自淑曰聊

聊ハヤスニスト訓スル字ニテマアクヨシトスル立意ナリ

一 隱イン 亦聊以固吾圉也 薄ハク 詳ニ 于後

頗ハ 敵偏有立曰頗

頗ハ陂ノ形ノ如クカタヒクニ成ルニテ六七分其方九分ハ

表 六國 戰國之權變亦有可頗采者上

向キョウ 稍已處此日向

向キョウ 嚮同

向ナシトス大カタ其バシヨニナリタルヲ云抱朴天下向乎中興ナシトス

垂ナシトス 行將處此目垂ナシトス

垂ハホトリト云字ニテ其バシヨニ近ツキタルヲ云

後漢劉為傳自在漢川垂三十年 且ナシトス見干後ナシトス訓スルト同意ナリ

○彌愈益増 加倍况滋

彌イヨク 且於彼盈之日彌弥ハ渺ト同音ニテ義通ス

彌ハワタルト云字ニテ段クニ滿チテハイニ成タル意ナリ

韓曠日彌久而周澤既渥

愈イヨク 超邁以有尚日愈イヤハト誤

愈ハ今テマテトハ段ヲユエタルコニ成リタルヲ言フナリ

愈ハ体ニテ今テ其バシヨニテ段ヲユエタルコニナリタルカ一堅ノ処ニテ言フ

昭及壬子駟帶卒國人益懼齊燕平之月壬寅公孫段

卒國人愈懼コレニテ益ト愈ノ差別ヲ見ヘレ

益エキ 北往有羸曰益ト

益ハ今テマテノ比スレバ多クナリマシツケル意ナリ

イヨクト云コレハバハイヨヤカクノ畧ニテ物ノ立ノヒクスル様子ヲ云詞ニテマストサザルトニ拘ハス言フナリトスハ多クナリタルヲ云相似テ同ジカラス

用傳商君孝公益愈然而未中音 淮南愈益治器械攻戰具

楚世家 王稍益疏外建也 項羽諸侯並起滋益多

增ハスク カサ子カルト訣ス 累子テ而ス重ス之ヲ曰ト增ト

增ハ一階カサ子タルキニナリ 上ニカサ子カフルハ増ナリ 旁邊ヘヒロカルハ滋ナリ

大宛傳 鼓抵奇戲歲增變甚盛益興 漢書之民士貴公

加カスク ツケスト訣ス 附而衰之曰加

加ハ合マテノヲスルナリニシテ其上ハ漆タル云 碎在陳而囂合而加囂

加之 加旃 加以 至若 至如 若為

倍バイト 併其二曰倍

倍ハ一倍マシナリ 一斗ノモニ二斗加スルハ倍ニ 少ズクマスハ加ナリ

況キヤウスク 又作况 擬其所有尚者而掩之曰況

況ハ其ヤフスラ譬ヘテ一段カサラカケテ云ナリ イハヤト訓ス 例後ニ出

大亂 雅亂 況斯削

滋シスク 五ルト訣ス 衍而旁覃曰滋

滋ハ段クニ五テレケリハビコルヲ云

益ハ体ニテ其マシタル迹ヲ外ヨリ見テ云ナリ滋ハ用ニテ其モノ
ニツキテマシユク処ノ神用ヲ云ナリ 増加ハ体用ヲカ子タリ

酷吏 傳 法令滋章 盜賊多有

添ラスク マスク 凡上ニソエル意ナリ

助語審象卷之上



助語審象卷之中

橘園三宅先生口授

門人

釋海定

三上惇

宮永寅

筆錄



○嘗會懣經 既已業訖

嘗シヤウ カソテ コロミニ 通作常 マカト 詠 嘗者告既已有歷練之之辞

嘗ハナメルコロムルト訓シテ前カタサフイフガアルト云フ

ニテ一回ニ拘ラズ汎ク云フ辞ナリ

嘗

ツネ

嘗有所畜狗乃殺之畜ヒオキシ狗アリテシラ 有所嘗畜狗殺シタフガ以前有タ

乃殺之以前ヨリ畜イケル狗 有嘗所畜狗乃殺之外ニキタハ

ヒレ狗アリソレラ 嘗未聞ヘカタダ 未嘗聞ヘカタカラ

張安世傳 上少時所嘗游處後漢五行傳 嘗所怨恨輒任客殺之

莊子技經肯綮之未嘗

累蓋 自其為吳相時嘗有從史嘗盜愛益侍兒

曾カウテ 曾ハスト一回アリレフニ用ユ曾ハ体ニ属ス 嘗ハ用ニ属ス

未曾有サフルカ 曾不サセヌカ 未嘗不セサルカ

未昔曾ヨリ昔カラ 曾不恤衣食衣食ノコトヲヒトツ

曾衣食之不恤衣食サヘモウヘハ

曾カウテ 孝惠帝曾春出游離宮 嘗曾 曾經並三句頭複用

曾カウテ 又作替曾イッカウテ 酷甚不殺曰曾

曾カウテ 又作替曾イッカウテ 酷甚不殺曰曾

曾カウテ 又作替曾イッカウテ 酷甚不殺曰曾

曾カウテ 又作替曾イッカウテ 酷甚不殺曰曾

曾カウテ 又作替曾イッカウテ 酷甚不殺曰曾

曾カウテ 又作替曾イッカウテ 酷甚不殺曰曾

曾カウテ 又作替曾イッカウテ 酷甚不殺曰曾

曾カウテ 又作替曾イッカウテ 酷甚不殺曰曾

曾カウテ 又作替曾イッカウテ 酷甚不殺曰曾

經八段くスギ行シコヲ云ナリ

書釋其語不經見

書釋大農陳藏錢經耗

了カツテ詳于後

志天文天了無質

殊カツテ訓スルト同意

絶ゼツカツテ訓スルト同意ナリ 二字並後ニ出

既スデテコト

既者示其所迄之迹之辞

既ハ將之反ニテ其事終リ迹ヲ見テ云辞ナリ 既ハ体ニ屬ス

既不治ララズ不既治ララズ乎 反語ナリ反語ニ 未既治ララズ 非ニ余既上カクナレ

僅僅奉匱沃盥既而揮之六既夫人將使公田孟諸而

殺之既而ハラハリタルアトナリ而字ナキハ夫人將殺スヨニスデナリ

二既戰簡子曰吾伏殺

嘔血鼓音不衰今日我上也 既戰多カキ 終シテナリ

已スデイモフト訓ス 已義見于前ノミト訓スルト同意ナリ

已者示其所底届之今

已ハ未之反ニテ事今モラサナリシナリ 月已望トイハハ十五夜ナリ 既望トイハ十六夜ナリ

之辞

已往未來ト既往將來ト 既而ソノノアトトテ外ノコトヘ轉セシナリ

已者暨其有

已而メテノ内ヨリ出テカクアリト云処ニ用ユ 既乃 已乃オド此ニ准ズ

刺親既以天年下世妾已嫁夫

複刺伏屍而哭極哀既已不可奈何 已字哭極哀ニ係ルナリ 既字不可奈何ニ係ルナリ

力吾吾

業 ゲラ ステニ

既已句頭ニアルトキモ句腰復用ノ例ニテ
已字上句係リ既字下句係ルト知ヘシ

其所事不容自己日業

業ハモヤ其事ラスレテ跡引カヌ所云辞ナリ 既ハ往ニ属シ已ハ見今ニ属シ業來ニ属ス

留良業為取履因長跪履之

復疊若狀有反相心獨

悔業已拜 已字心獨悔ニ係ル業字拜ニ係ル

業猶 復用ノ例上ニ准ス

訖 キカ ステニ カツテ コトクク

通作迄 ツリト訖ス 窮其所底止日訖

訖ハ其処ニイタリツメタル云

弄訖無文號

魁 スデニ 曩已ニ意ナリ

○無亡罔莫 蔑靡毋勿

無 ナレ ナカレ

古作无

對有示其不可形日無

無 実示不有

無ハ有ノ反ニテソトコロニ物ノキヲ語ル辞ナリ

漢許皇 日我頭岑岑也藥中得無有毒對日無有 得無云云 得無

云云哉ナドハモ古ノ反語ナリ今コノ文ハ乎字ナケレ座藥中ノ字上ニ在テ
云カケタル勢ヲ反語トナルケリ得無ト句頭ニアルハ多ク反語ナリ能ク前
後ノ語勢ヲ考テ推ヘシ 乃得無恙 恙ハ又乃字ヲ抑ヘタル故ニ反語ニナリ 毫無紕漏 毫無字主

凡テ上ヘテ少シク 無毫紕漏 コノ事ノ上ニテ紕漏 紕漏字ナシト云ク 無一不見

ヒトツク見 一ニ無不見 オシキテ見 無一見 一タヒ見

事無不覈セヘテムラ 無事不覈ゴラカ 不無覈ハカ

覈スル 無數カズノ限リ 漢志無萬數幾万にカズ

孟子勿助長無若宋人然コヲ類禁止之辞ナレ無ハ唯有力無カニ吟味

累曹子宗子雖七十無無主婦胡瑗無日無夜兮不思我鄉土ラ

亡ズナレ 又作亡ナ 對存示其絕跡曰亡

亡ズナレ 又作亡ナ 對存示其絕跡曰亡

亡其言臣者賤而不可用乎賈萬 輒行其誅亡但免官ラ

罔ナレ 絕不容復見曰罔

罔ナレ 又作亡ナ 對存示其絕跡曰亡

幽界象之言字九故二叙事文六罔字之用コト 持論文之用カ

罔ナレ 晝夜頌頌罔水行舟ラ

莫ガナレ 莫者對適探其無之固然之辞キハメテナイ

莫ガナレ 八適之反三有ルカト尋テ見ヨ無イト云意ナリ一段ヨ入

テ深ク幽界ノ奥ヲ言フ字ナリ漠膜 見ント欲メモ見ヘ又意ナリナド同音ナリ義ヲ推知ヘシ

字義深重ナル故ニ句頭テリテハナカラギト讀ミテ反語ナルヲリ

後世ノ詩語俗語ニ莫ヲカレトヨムハナカラギノ轉シタルナリナクフコヤ

尚下卷俗語ノ部ニ詳ナリ
古書ニ莫ヲ禁止用ルナリ

子孟不祥莫大焉世示不祥ト云カアルコト 莫不祥大焉今

不祥ノコトカカコシ 昭二無不祥大焉無公事ノ上ニテトコト

子韓非莫樂為人君反語 子荀莫經由礼莫要得師礼更コト經由

策兵莫弱是矣 莫其焉其トスルナカラシヤ 莫大コトモナキ

無大小ナリ 可莫尚焉反語方尚ス 可無尚矣尚スルナキ

ルナリ可莫尚矣トカク 不成語ナリ 可ラニテ無莫ノ別ヲ推知ヘシ

靡ヒナケシ 反語ト云ス 靡者狀其幾將無之辭

靡ハナシト訓シテチラクト無ナリカナル用ラ云フナリ 音ノ細カニカ

声ト云ニラトカクナキト思ヒサレキニナリ 茂ハ我ヨリキコトスルナリ靡

大靡不有初鮮克有終 靡其盡心靡有所隱後テクキコトニテケテシヤク

茂ハナシ 茂ハオカシロニスト訓シテ見コナシテ無理ニ推テ無キモノニスル

意ナリ 呂覽ニ茂而靡之上アリ茂ハ推

元將不得為寡君老其茂以復矣信君納重耳茂不濟矣

母ナシ 母ナシ 母者測其必當無之辭

必為 示其不可 母 必為

毋ハ幽界テハ係ル字ナリナシト訓スル時ハ既往ノ無ナリカレ

ト訓スル時ハ將來ノ無ナリ無字ハ神用ニテ現前

檀 噫母將來ノ郡中母聲ナキニテリテ我無強賈母昭十

或勾奪勿奪ハ段遠キ日入乎將母周公曰請

入將母入乎累論 母意母必母固母我日

勿ナカレ通作彼 勿者規而無之之辭

勿ハサスルナト沮ル辭ナリナシト訓スル時モ慎ニテ無クスル

意味ナリ勿ハスルナト命スル辭ナリ母ハ將來ニナキトモヨト云

禁止而使 不為

孫欲隱勿見論語過則勿憚改列女終沒後言沒勿立見近キニ

淹ナシ促ナシナキ近ク意ナリ

○少末微否 曼末不弗

少モウ計其隣無日少

少ハ多ノ反ニテ無ニ近キラ云

漢律 與天相應少有闕謬

末ハツ末者却之以處諸無之辭

末ハ本ノ反ニテ其ノハナシトシテ後ニシテオク意ナリ

公何以不言師敗績末言爾擊未有原再マルコアルハ後ニ付ヨト云意ナリ

微ナカレアラズセハ微者假設以處無之辭ナクバト誤ス

微ハ實ハ元ヲナレ假ニキニシテ見ルナリモレナキニシテ見タラバト云意ナリ

十舊微子則不及此成雖微先大夫有之大夫命側側

敢不義趙微獨趙諸侯有在者乎

否シカセズ音ナ上声通作不温而處之其不容行曰否音鄙

否ハ可之反ニサフハテラヌト云意ナリ實其不然

十六義則進否則奉身而退問日有食之則有變乎且不乎

曼ナレ音萬去声

曼ハ一ダ無キト云意ナリ

未及其為之曰曼

法ナレ日曼是為也全聖人曼法言注ニ音無トスルハ非ナリ

未イナダ未ハ已スニ反ニテ其ノ一ダサフナラヌナリ一ダナラヌト誤將及而有所不克曰未

五章我怠秦奮倍猶未也

不ズ不ハ者狀此是而措之之辭廣韻分物切トスルハ大誤ナリ

不ハ其ワガラセマコナリ其人ニナリテイフ辞ナリ不ハイツニテモ下

力吾審察

卷之中

不知云々ニハキガツナツ

不ハ狀措之無為心裁之而弗為

字ヲワザニシテ活シテ見ルベシ 不字語尾アリテイナヤト訓スル時ハ平声ヲ無切ナリ

不否不ノ別ハ否ハ上声ニテ否ニ定テ休ニシ天ナリ
不ハ平声ニテマダワカラヌニシテ用ニシ云ナリ

不仁 仁ヲ行フコトヲサセマナリ四休 不義 義ヲ知テ居テモサフセヌ 非義 義ヲトシテ

居テモ義 デタイ 弗義 義トセヌ 未義 マダ義ニ行キトボカヌ 無義 義ヲナシ

毋義 義ヲキモノニシテオク 亡義 義ヲキキ同然チヤ 蔑義 義ヲキモノニシテキマタ 靡義 大

義ヲシハ セニイ 爲之 此コトニ外ノ喜バヌ 不爲之 不爲之喜ハコトバヌ 我不知 不知己不己知ノ類皆コレニテ推知ヘシ

我カ彼 ヲレヲ 不知我 彼ガ我ヲ知ラヌ 不我知 我ヲ知ラヌ 不知己 不己知ノ類皆コレニテ推知ヘシ

論語 知及之仁不能守之 又仁能守之不莊以蒞之 仁ハ知ト並ヘ

立テタル故ニ不字ノ上テアリ莊ハクノ仁知ヲ行フニ不莊ニテ蒞ニテハト云意ニテ不字ノ下テアルナリ

孟子 不目逃 逃カ外ヨリ見テ 目不瞬 瞬クノ入ニナリ 閑之不以法度 法度ヲ以テセズ

我コレヲフセクニ彼 法度ヲ以テセズ 不閑之以法度 法度ヲ立テフセクコトヲ 不食 クコトヲ

不得食 食シト欲スレバ得ヌ 不可食 クコトヲ 不欲食 ホシク

微子 我生不有命在天乎 不アラスト訓スルハ非ナリ在トセザレリ 君曾見韶舞 後記

不此是韶舞 此是不韶舞乎トカクキニ似タレ不字上ニアル故ニ乎字ナクテモ反語トナルナリ

弗 フツ 弗者狀彼僭而毋作之辭 デキヌト諛弗者狀彼僭而毋作之辭

弗ハデキヌ所ヲ外ヨリ見テイフ辞ナリ不ト無トヲ兼タル

非 示實無有 實其不有

其言者多

程ノ意持ナリ 古ヨリ弗者不之深也ト注スレバ大ニ其別アリ彼ニシテ体ニシテ言ハハ弗ナリ我ニシテ用ヲイハハ不ナリ

弗聽 キ、入ルコトガモフナカツタナリ 不聽 キ、入ルコトヲセ又ナリ

一 穎考叔挾輶以走子都拔棘以逐之及大達弗及

三 使穎人追之不及 弗及ハ外ヨリ見テイフ 孔子弗乎弗乎 世蒙

○非匪叵難 幾殆危汙

非 アラス 對是以舉其失真曰非

非 アラス 非是反其路 子カヒ充ナリ 不ハ下ノ字ヲ册ニシテ活シテ見ルヘシ非ハ下ノ字ヲ体ニシテ死定シテ見ルヘシ

老以道蒞天下其鬼不神非其鬼不神 上ノ文ヲ主ニシテ 其鬼

非不神 其鬼ヲ主ニ立テイフ 莊駢於明者乱五色淫文章青黃黼

黻之煌煌非乎 非字下ハサゲタルハ上ノ事ヲ然リトシテホキテ其ウラヲ云カケタルナリ 非邪非與 此ニ准ス

累韓非天缺弧逆刑星榮惑奎台非數年在東也

匪 アラス 狀其非有曰匪

匪ハサライフノ有ルゲナレト云意ナリ 非ハ平声ニテ神用ナリ匪ハト声ニテ休象ナリ

那狐裘蒙戎匪車不東

回 カク 回者不可之合也

回 カク 回可ノウラナリ 後漢呂布傳 大耳兒最回信

助語者多

難 カタシ
平声

シキト訣ス 泉元不可行曰難ト

難ハ易ノ反ニテ事ノデキカヌル処ヲ云

餘難悉名 ツケカタシ

餘悉難名 ツケカタシ

幾 ホトド
去声

ハシト訣ス 我自狀其沮洳之勢曰幾

幾ホトドト訓スル時ハ去声ニテ其力カツテ凡急尤勢ヲ云ナリ

肆斯年將有大咎幾亡國 一 襄不從晉國幾亡

殆 ホトド

ヨツホトド 量彼像其將殆之情曰殆 殆遠音テ

殆ハ八九分マテシテ云ルズキバシヨリ 幾ハ其モニテリイナリ殆ハ外ヨリ
言ナリ幾語急ニ殆ハ語緩ナリ

繫其殆庶幾乎

昭十 君不願親能無早乎殆其失國ヲ

危 ホトド

圖其近之之機曰危

危ハサグアルラント將來ヲ云ナリ

幾危ハ用ニ属ス
殆危ハ体ニ属ス

趙飛 燕傳 危殺之矣

沆 ホトド

畫其所底至之將窮曰沆

沆ハ其処ニイタリツメタル既往ノ迹ヲ云ナリ

易 小狐沆濟濡其尾

殆庶 危曾 ニナ句腰複用

○乃迺載便 還輒卽則

助語

卷之中

上

乃イハレ

乃者イハレ

乃者從容以接往繫今之辭

乃ハイセント訓ス今ニシテ幽界ヨリ明界ニ出ル猶豫ノ間

ノ助辭ナリ上ノ文段ヲ下ノ語ニツナギ附ル安排ナリ

ソノナレドト訓スルモ同義ニテ我ヲ接キ
彼ニ繫テナシト訓スルユリ例前ニ出

繫見乃謂之象形乃謂之器見レテアルツレガ象ト名付ルモノヤト
云義ナリ見レザルヲモテリモレモ見ルニ

則字ヲ用ナリスレバト云トキハ
元昭至河乃復乃者難辭ト注セバコノ処ニテハ

ナリ此処ニ限ル注ニテ乃字全体ノ義ニハアラス總シテ古人ノ注ハ多ク其
バシヨクニテ間ニ合フヤウニ注シタルモノナレバ必ク拘泥スヘカラス

乃昔コノ昔乃祖其ハヨリ祖ニ繫テ
乃翁乃公ナトモ同シ

乃今乃字下ノ
語ニ係ル今乃乃字上ノ語
ヲ主トス乃是是乃雖乃乃雖乃况
況乃時乃乃時本皆テ例ニ准知シ

魯仲連魯仲連若乃梁者則吾乃梁人也乃字上ノ文段ニ屬スルナリ
乃若ハ乃字下ノ語ニ屬スルナリ孟乃若所憂則有之乃若

乃無憂患仲長統傳
乃無憂患
憂患ナ
キナリ無乃憂

患無乃ハイツツニテ
モ反語ナリ魏志崇使巫史至乃宮殿之内戸牖之

間無不沃醑至乃ハ上下ノ語意ニ連ニテナリ
乃至ハ上ノ語終リテ下ノ語ヘウツルナリ

隔其弊乃至於此コノ乃至ハ又句腹轉接ニ用タルヘ安頭ノ
乃至上同カラス隔承法ニテ乃其弊ノ意ナリ

胡菊有黃華豺乃祭獸乃字上文季秋ノ
時令ノコトヲ承タルナリ

迺スナチ

迺音乃

乃ト同義ニテ用ニハ乃ヲ用体ニ洒ヲ用

大雅 通疆通理通宣通畝 外戚 通昔之月胤巢于樹

載 スナハチ 載者狀其方且嚮之之辞

載ハ段ク向ス進ム勢ノ処ニ用ル辞ナリ ハシメト訓シトハシメト

小雅 汎汎揚舟載沉載浮 載字韵文ニテ用ユ

便 スナハチ 示其乍已暨之曰便

便平声神用ノ字ニテトリアス先ハ飛フ意アリ 便利ノ便ハ去声ナリ

若不即降便可執之 全 或謂超可便殺之 便可ハ便字執

還 スナハチ 宛轉復其處曰旋 旋同

旋ハ追ヒツケル意ナリ 擅斂首足形還葬

輒 スナハチ 輒者見其每必有然之辞

輒ハタヤスト訓ニテイツニテモサナク時ハ必ツニ付テソル意

ナリ ツ子 每ニ心ノ意持ナリ 輒ト乃トハ辞緩ナリ

張負女孫五嫁而夫輒死人莫敢娶 每輒亦輒

即 スナハチ 即者具所就一塗不容間之辞

助語審象 卷之中

即ツト訓スル時キニ其物ニテハ明界ヲ言フ字ナリ

助字ノ時ハ記者ノ心ノ幽界ニテ其ヲトリモナラサズキ

ニシテナラセテ言フ故ニ助字ニナルト心得ヘシ因テ即字ハ叙

事ノ文ニ多クアルナリ句頭アリテモト訓スル時モキニソレニテ見ル意ナリ下ニ詳ナリ即ハスコ

レモトリナキ執カテ見セル助辞ナリ

即ハナキニ其物ニテ外ノ物ニテ乃ハ其ノ中ヨリ出テ他ヘウツナリ

便ハ此ヨリ彼ヘウツルナリ則ハ上ノ語ヲ下ノ語ニテ叙クナリ項羽 徐行即免死疾行則及禍疾行ノ方ヲ客ニシテ則字ヲ用タリ八非其父

兄即其子弟父兄モアリ子弟モアル意ニテ即字ナリ則字ナレハ父兄ニ非ルニテ意ニテナリ

則スナハキトキバ子徳切ニシテトバト誤ス則者模倣以畫其來之辞

則ノリト訓スル意ハコトニテ模カタニセヨト立テアル法字ナリ見ルコトナリカタクニセヨトイハ子氏我ヨリカタニトリテハ則字ナリ

助字ニ轉用スル時モ幽界ノ心ニシテ

ニシテ見ル時ハト云意ナリ故ニ主客ヲ立テ論スル時ハ客方

ニカク則字ヲ用ユ主ノ方ニ決シテ用ヒズ兩用ヲ立テ論

スル時ハ兩方ニ則字アリ

論語用之則行舍之則藏ニシ共主客立テ故ニ双方ニ則字アリ元欲與大叔臣請

事之若弗與則請除之事之ヲ主トシテ名ニ則字ナシ除之ハ止ムコトヲ得ズシテ兵ヲ用ルコトナル故客ニシタルナリ

子孟不奪不廢コレ不奪則不廢トルベキ処上ノ文段ノ奪ヲテ云テ奪

閔乃先之至則告守日不可待也カハル當面ノ所ニ則字ヲ用ル先之

鄭雖則如雲匪我思存鄭則字上ノ

我則上ノ語中ヨリ出テ則トテナリ則我ト

山有木則度之山有木則トカキテハ下ノ語別ニナルモノニ

人之學也或失則多或失則寡學也則

柢之容雖竭精思欲開忠信輔人主之治則人主必

有按劍相眄之跡無根柢之容則トク意ナリ

三臣相及於絳雖我小國則蔑以過之矣相及於絳

王之所謂忠賢者諸侯之客歟中國之士歟莊王曰

則沉令尹也忠賢者則ト

就登遲動宛轉現仄

就我ヨリ進テ彼ニツクナリ進而致之於彼日就

登スナハチ陟得其至處日登

登スナハチ地位ニツクミト云意漢焦仲卿妻詩登即相從和便可作婚姻

助吾審象 卷之中 五

應 オウ スナチ 詳見于前 魏志華 病亦應除 スナチ

曾 ソウ スナチ 見于前 論 曾由與求之間

斯 スナチ 詳于前 而 スナチ 檀弓スナチト訓スレハ

遲 チ スナチ 似其及之之漸曰遲

遲ハヤウヤク其地位ニ及フ意ナリ

春申君傳樹怨於楚遲令韓魏歸帝重於齊 注乃也トアレハ

動 ドウ スナチ 對靜舉其有為之時曰動

動ハ靜ノ反テウゴキテ何トカスハ其コニナル意味ナリ

動輒 ドウラク 動便 ドウベン 動即 ドウキツ 動必 ドウヒツ 動而 ドウニ コトハ皆句頭

スナチト訓スル複用 乃即輒乃 即便 即輒 便乃

則便 便輒 便則 應便 登即 ミナ句腰複

宛 エン アタカモ 貌其若存曰宛

宛ハヒラリト其ヤウスノ見ユクナリ

秦風宛在水中央 コニテハ形刻合ノコトバナレハ 後世ハ助字ニ用ルナリ

轉 テン ウタ 旅行以移曰轉

轉ハウリテウツリ行クナリ 旅行移不止之辭

恰 貌適程位曰

恰

宛 貌其乍如

此曰宛

獲所察應條轉舉

轉更

見アツハニ 現同

所有歷然可觀曰現

現ハ没之反ニ現在アルトコロヲ云ナリ

餘見無可者

載籍之傳維見可觀也

見今俗語

如今今ノ昔ノ分

祗今今ノ昔ノ分

在今今ニアリ

於今今ニ

於今今ニ

于今

只今今

方今今

乃今今

而今今

即今今

仄ホカニ 側同

尚况未確曰仄

仄ハ其事イマダタシカナラヌヲ云

恍

惚然不確

佛

霏然無確

觀見

風

飄然未確

聞

賈誼勇屈仄聞屈原兮自湛汨羅

疑懼側聽不疑莫不驚駭

恍ホカニ 恍ホカニ

佛ホカニ 佛ホカニ

風ホカニ 風ホカニ

唯徒但直 帝只徑直

唯ホカニ 唯同 守ホカニ 而不及他曰唯

唯ハ一途ニ其コガリニカシムル意ナリモト唯諾ノ唯ヨリ轉用

シタルナリ 惟ハオモラト訓シテ一途ニコレガリ

唯不然不然 不唯然然

元他邑唯命

元昭唯大夫圖之大夫ノ心バカリニテモ

徒タビ イタツニ ムタ下款ス 有用無器曰徒ト

徒ハ外ノナレニスルナリ不滿尤意ナリ徒ハ本カチト訓シテ
車馬ニ乗ズカチニテ行フナリ

司馬相如傳 家居徒四壁立 子 因載而往徒獻之 カワリノ邑ヲトス
ニテ獻レタナリ

韓說者不徒知所出而已矣又知其所以為

但タビ 外ヲケテ誤 執此而除彼曰但ト

但ハ幾箇モアル中テ外ノモノヲケオキテ言フナリ

徒ハタビニト訓シテ外ナレニテ云ナリ外ノナレニテ云キテ云キナリ
但ハタビニト訓シテ外ノアルモノヲケオキテ云ナリ今外ノヲケル用アリ

扁鵲傳 起坐更適陰陽但服湯二旬而復故

亶タン 上声音但 亶與但同

趙充國傳 亶奪其畜產

帝シ タニ 翅同 ソレ方ト款ス 狀其品程止此者曰帝 翅同音ニテ
通レ用ユ

帝ハソレニツキテアルモノニテマダサキナル意ナリ帝字單用スル
フナレイツニテモ 不帝 何帝 奚帝 豈帝 ナド、用ユナリ

譚奚帝其聞之也

抱朴子 但不知其年壽信能近千年不帝耳 不帝ニダク
ト款ス

只者 見此有而 彼無之

神仙不翅 スデニ神仙ナル者ニテオキテハタクソノ 不翅神仙 段デハナイト云意ナリソノ内ニテ云

彼神仙ト云モノニ譬テニテマタ其段デハナイト云意ナリ不翅字上ニアルト下ニアルト意義カクノ如ク差別アリ千年不帝ト書ベキ処ニ不帝千年トカレヌマナリ文ヲ奇崛ニシタメニ不帝ヲ下ニ置タルヤウニ心得ル愚見ノ至ナリ 多クテ不訓スル類 非翅

非惟 非徒 不但 不徒 不止 非止 不直

非直 何但 何止 豈徒 豈但 豈直 微獨

奚但 非獨 非特 奚假 奚徒 數多キニハ例ヲ畧ス

只 タビ バカリト訳ス 義見于前 語尾ノ只ノ下ニ出

唯ハ外ニ相手ヲモテス其ノバカリヲ途ニ云ナリ只ハ外ニ對スルヲナリテ只ノ下ニバカリト云下ナリ樂只君子ハ憂ニ對シテ只ト云ナリ但ハツキ

テアルモノヲ今ケテ云ナリ 特ハカクハツニスルナリ 祇ハ其ノカサナルキニナリ 止ハソレギリト訳ス

只且 外ヨリ形 只計 カクハカリ 只寧 カクハカリ 寧只 カクハカリ 爾所 カクハカリ

止 タビ 見于前 止仁義先王之遽廬也止可以一宿 語尾ノ止ト同意ナリ

假 タビ 見于後 假 カクハカリ 假魯國丘將引天下而與從之 カクハカリ

徑 タビ 又作逕 就其所捷曰徑 テマシカト訳ス

徑 ハチカミナリ 徑往而卷蜀漢定三秦 劉敬傳

直 タビ ズツト訳ス 突出無所委曲曰直 直アタヒト訓レテ其程ヲイフ意ナリ

直 ハ曲ノ反ト入り多クナレズツト其所ニ段ヲスエ意ナリ

力吾嘗泉

子直不百步耳是亦走也留族直隨其履地下傳田角田間

於楚趙非直手足戚也手足戚程クク井テナイ唯直直置直爾

○第地立乍 最尤獨特

第タビ 又作第ナシテモイカラナナシト 姑就之不論他日第ト

第ハナニカナシ先ツ其段ニシテ見ヨト云意ナリ

傳孫武君第重射臣能令君勝

地タビ 音第

地與第同

傳西曹地忍之ラ

祇タビ 見于後

立サツ タトヒヨロ

ヤニテ

未及有歩日立ト

立ハスクニ其場ニ立ナカラノ意ナリ

留族世於是呂澤立夜見呂后

乍サ タチマチ サハラク サナカラ

ヒラリト誤ス 一見一没之間曰乍ト

乍ハヒラクトカワル間ライフナリ

訓燈將滅而乍明チ

忽コツ タチマチ 又作歛

倏タチマチ チヨイト 誤ス

最サイ モツ モ

イツト誤ス

魁於其類曰最ト

最ハスベテノ物ノ内ニチサキニ立タルヲ云

スベテト訓ス 例下ニ出

未及作為日立

傳 七十子之徒賜最爲饒益最爲八最字 子貢ニカハル 爲最饒トアレハ最 字饒益ニ

ナリ 尤饒益饒益尤コガ ナリ 最爲大最字上ノ語ノ主 名モニ屬ナリ 爲最大

大ナルモクイシツモアル中ニテ コレガ最チヤイ云意ナリ 最先スベテノ中ニテイチサキ 最後スベテノ中ニテ後ナル

尤イウ モツトモ ケヤケシ 尤ケウトイト誤ス 瑰璋可驚怪曰尤ト

尤ハ其狀ノ常ト板羣カワリテアルヲ云尤トガアヤマチト訓ルモ 常トカワリタルヲ云 美

人ヲ尤物ト云モ同意ナリ 最最多引スダ布ニテ体ニシテナリ 尤ハ其一事 上ニテ用ラ言テリ 最ハ上ノ語ニ屬ス 尤ハ下ノ語ニ屬ス

傳 天下尤趨謀詐哉 傳 民爲燕京師尤甚ヒトカタト誤ス 孤奇無屬從曰獨ト

獨ヒトリ 獨ハモト孤獨ノ獨字ニテヒトリトリ殘サレ意ニ付ツ者ナキ意モナリ

獨斯書行於世此書ハ 斯書獨行於世世間ノ方ニテ 獨行スルナリ

十八 富人之所欲也何獨弗欲獨字吾 弗獨欲獨字欲スルヲ かんばカリナリ

獨不不獨 唯獨 獨唯不ト此ニ准ス

子孟 功不至百姓者獨何與 宜宜 弃君之命獨誰受之カ

特トトリ 特ハトリワケテ其トヲ云意ナリ 特ハ本三牲ノ内ヲトイフ

ニテ祭ルヲ云 特ハ我ヨリ取ハナレテ云 獨ハ彼ニテ取ナレテアリ

トトリワケト誤ス 參而用其一曰特

トトリワケト誤ス 參而用其一曰特

トトリワケト誤ス 參而用其一曰特

トトリワケト誤ス 參而用其一曰特

トトリワケト誤ス 參而用其一曰特

トトリワケト誤ス 參而用其一曰特

祖特相會往來稱地家其樂非特朝夕之樂也

○甚太奇絕 孔痛酷苦

甚ハハタ ヒドク 深重可厭曰甚

甚ハ其事ノヒドクユキコミタルヲ云

甚可惜外イニ對シテコノ 可甚惜ヲ惜ムコト 莫甚於此ヨリ

彼ニ對シテ 莫甚乎是是事ナリ 莫此為甚コレヲ甚シトスルヲ

南茲焉莫甚キハコバシヨニ甚シト 閔衛侯不去其旗是以甚敗

昭十六甚口平子曰必于疆也 太甚 已甚 愈甚

數多而將溢

太ハハタ 泰同 又アニリト誤ス 富而將溢曰太

泰

太ハ泰ト同字ニテマカテリアマル意ナリ 甚ハ用ニレイフ

過於其域

賦五著粉則大白粉ヲ付キ白スル 施朱則太赤粉ヲ付キ赤スル

太

人主不泰危乎而人臣不泰安乎

富有過域

已ハチハダ スデニヨリ轉用シタルナリ 子仲尼不為已甚者

奇ハチハダ メウラキト誤ス 詭異不常曰奇

奇ハ偶ノ反ニテ常ヲ又メウラキヲ云 世綿定奇温

絕ハチハダ ケカラヌト誤ス 離類特有曰絕

絶ハ外ニ類ノナキモヲ云ナリ絶世絶域ナドノ絶字ヲ知ヘレ

トレトハナレテ言ヒ様チキ程ト云フナリ

甚ハヒドフ威リユク道スデヲコソ云云云云ハ成リスギ
タル処ヲ云 絶ハトント切レチタル地位ガカリライフ

傳子 秦女絶美王可自取

絶美^{ケレカ} 殊美^{ベツダ}

特美^{ワキリ} 尤美^{トク} 最美^{イツ} 至美^{タシゴ} 極美^{マタイ}

孔^コ ハチハダ
オホイニ

イカニモ

中約終博^{コホ}曰孔^{キヲ}

孔ハ末廣ガリナリ

孔^コアナト訓レテ中ヲクダリテ
向フテ又ヒヨカリタルアナヲ云

禹九江孔殷

孔字後世ハ韻文ナラハ用ヒズ

痛^イ ハチハダ

テヒト誤ス
キツウ

過^{キヤ}滔^{タウ}區^ク堪^{カン}曰痛^イ

痛ハトウモタマラヌ場所ヲ云

痛飲^{ヒビノム}

酷^コ ハチハダ

ムゴイ
アラヒト誤ス

忍^ニ居^ユ刻^{コク}深^シ曰酷^コ

酷ハ至テ手ヒトタイフナリ

晋^{シン}何^カ無^ム忌^キ酷^コ似^ニ其^カ覺^{カク}

苦^ク ハチハダ
チゴロニ

エダフト誤ス

非^ヒ入^ニ所^ト能^ク其^カ處^ト曰苦^ク

苦ハニカレト云字ニテ心ニ效^{コト}キ処ヲ云ナリ

世^セ帝^{テイ}遂^{ズイ}召^{シヨウ}武^ブ子^シ苦^ク責^{セキ}之^ヲ

苛^カ ハチハダ
トヨクシキコト

峻^{クワン} ハチハダ
急^{キウ}ニカキヲ云

○極^{キョク}至^シ殊^{シュ}異^イ 驟^{シュウ}數^{スウ}亟^{キツ}屢^ル

極 キョク
キワメテ

コトヲイハス 居其所標的之最曰極

極高ノ頂上ノ地位ヲ立テコトモナキ処ト其位ヲ評シテ云

高祖本紀 豊吾所生長極不怠耳

至 シ
イタツテ

オキツテアル訣既得其地位曰至

至ハ其地位ニ至リキツテアル意ナリ

至ハ用ナリ往ニ屬ス極ハ体々今較量シテ云

司馬相如傳

卓王孫怒曰女至不材

至若

若至

及至

至於 至如

コノ類安頭ニ用ル至字モヤハリ轉接ニ用ル至字ト同義ナレバコノ類ハ皆句頭複用ノ例ニ見ベシ

殊 シュ
コトニ
スベテ

有別於類曰殊

殊ハワキヘノキテアルコトナリトハナレキア格別ナルコトニ 珠ノ多クハ

ウミテ分レハナレヲ以各クルト同シ殊ハ意ト文ニ屬シ特字ト下女ニ屬ス

留家 父以足受笑而去良殊大驚

異 イ
コトニ

カワツタト訣ス 各各有所主曰異

異ハ同ノ反ニテカワリテアルコトナリ

韓組已就而效之其組異善

別 ベツ
コトニ
ワカチタチテアルコトナリ

驟 シュ
ニハカニ

チヨロクト訣ス

頻進有節曰驟

驟ハ少レヅ、ヨリクスルナリ ハスルト訓スルトキモ小足ニシテハヤメルコト

寧楚師驟勝而驕ル

數サク入レ声ハク 時時煩迫之日數ト

數ハ多ヒクセリタテルコナリ 驟ハ用 數ハ侍

子霖兩數至可灌而沉ハ 數數ト 疊用ス

亟キヨクスミヤカニ 多方促之日亟ト

亟ハイロクニカワリテセハニチキナリ 棘字一同音ニテ義通ス

元隱愛共叔段欲立之亟請於武公ニ

屢ル 屢ハマタシテモソレニナルコナリ 數屢ハ彼ニナルニ 屢ハ用 屢ハ用

屢ハマタシテモソレニナルコナリ 數屢ハ彼ニナルニ

論語 回也其庶几乎屢空レ

○原本主舊 雅素職固

原ゲンモト 元同 根ニトクス 對流討其出自日原

原ハ源ニテ其濫觴ヲ尋子テイフナリ

志シ 姦邪不可禁原起於錢リ 源夫ハ 發端ニ用ユ

本ホンモト 對末舉其根幹日本

本ホンイハ必末アリ同事物ノ上ニテアトサキヲ分チテ言

ナリ 本八体ナリ
原八用ナリ

傳衛律者本長水胡人

陳平王陵者故沛人 本胡人ト云ハテ
漢アル有サニ

對シテ云ナリ故沛人ハ居
處ノ新故ヲ記スニナリ

復匈奴
用傳降民本故匈奴之人

荆燕
世家今呂氏雅故本推轂高帝就天下

主 モトシテ

シテ言ハテ本意所在曰主

主ハ客ノ對シテ外ノニ對シテイフナリ

谷永傳主爲趙李報德復怨

キヨ
モト顧往紀其跡曰舊

舊ハ新ノ反ニテ過シ跡ヲ語ルナリ 舊ハ其物今ハナキナリ
故ハ其モノ今テアルナリ

命台小子舊學于其盤

舊曾 舊友ハ人ナキ人ヲ云故人ハ今テ在ル
友ヲ云 雅素ハ有無ニ拘ラスイフ故嘗 本嘗

雅 モトヨリ
ツ子ニ アリキタリト訣 遵常未爲流弊汚曰雅

雅ハ俗ノ反ニテ正シクツ子ヲ守リテカワラヌヲ言フ

漢元
后傳素謹敕太后雅愛之

素 モトヨリ
アラカレメ シタチカテ訣 未易本性曰素

絲ノ染サル先ヲ素ト云方今テ染色ニシテ既往ノ染ガル先

ライフ 本未の本ハ既往ノホヲ主トス
素彩ノ素ハ方今ノ彩ヲ主トス

素所蓄積 シタチテアル
ハハテアル 所素蓄積 シタチカラシメテ
ツミタスハルトコト

蔚然而未云獲者士素不厲也 シタチテ不厲
ニテツテアル 夫不素養 シテヨリ

士而欲求賢譬猶不琢玉而求文采也 養士ラシメテ
カラセヌナリ

職 モトメ 任之不離其局曰職

職ハ其ノが主宰トナル意ナリ

蓋言語漏洩則職女之由 シテ

固 モトヨリ
ニコトニ 守舊不移曰固

固ハフルキ様ヲカヘヌ云

孟固所願也 固字其
身係ル 固雖 固字下ノ
語ヲ主トス 雖固 固字上
語ヲ主トス

故 モト
モトノ實ヲ見ナリ 其人不在其物如故 魏文
帝詩

故ハテラ對ニシテ以前ヲイフ
本ハテラ對ニシテ今ヲイフ 固ハ以前ヨリシテ今ニ居ルヲ云對ナリ
舊ハ今ハカワリテアル跡ヲイフ

○翻還却倒 反般覆顧

翻 カヘツテ
ニタ 又作翻 揮揚頻閃曰翻

翻ハヒラクカワルヲ云ナリ 魏志
盡忠為國翻成重愆

還 カヘテ 回步向故曰還 ヒキカヒテ

曰翻 閃々乍反

還ハ引カヘシテモトツテノ意

尉繚日暮道遠還有挫氣

却カヘツテ

アトモドリト訣挫衄遂退日却

却ハ跡ジサリスル

向フテウレロムキテ引カヘスハ還ノ向ヘ行キ得ズシテアトシサリスルハ却ノ返ハ往ノ反ノ復ハ出タカカテナリ

禮書若臨時有故却在明年

却去ノ意ニテ自後ヲサスナリ

倒カヘツテ

ヒツクカレト訣顛而錯之日倒

倒ハサカシメゴトニナル

此汝是我姨兒何倒親游氏

反カヘツテ

返同

アトモドリト訣對往狀其作取異日反

反ハ真ウラニナルナリ

還老ハ還字ニ返童ハ返字ニ此ニテ返ト還トノ別ヲ見ルヘシ

封禪書望之如雲及到三神山反居水中

般カヘツテ

振然就歸日般

般カルト訓スル時ハ班ト通シテアガチカヘス意ナリ

賈誼般紛紛其離此郵兮

覆カヘツテ

打テカテト訣逆而致其背日覆

覆ハ打カヘテウラヲナル

覆手ハ手ヲ打カヘスナリ翻手ハ手ヲフリ

雅謀臧不從不臧覆用

顧カヘツテ

多モトツテト訣回意視後日顧

稍ヤ、ヤウヤク

チツトツ、チクトツ

量分コ僅至レ曰稍ハ体

稍ハ稍食ノ稍字ナリ助字ニ轉用スル時モチク其コチ行意之

復ト傳ト府帑雖未充ホ略頗稍給ス

用ト疊ト傳ト稍稍収其士卒コ至レ榮陽

差ヤ、以次コ纔進レ曰差ト

差ハ次第ニ少シチガヒ見元ヲ云董望ヤ、差居丞相後ニ

較カシ入ヤ、比方ニ之有所衍コ曰較ト

較ハタラベテ見ルニト云意ナリ

良リヤ、繼テ之要終コ曰良ト

良ハ德物ノ字ナリ善ヲ行フテ末遂ルヲ良ト云婦人夫ヲ称シテ

ル義助字ニスイカニ其事ヲキツト持テ遂テ居ル意持ナリ良人ト云テ遂

孝武本紀於是病愈遂幸甘泉病良已コ訓レ良字ノ義ヲミルヘシヤト類ニ非ス

皇王稟傳上嘿然良久曰顧誠何如頗見于前ヤ、

○端趣頓溘 豫欲且將

端センスミヤカニヒトイキテ流邁不從頌曰端ト

端ハテマイラスニ飛ヒユク意ナリ邛端臻于衛

趨スミヤカニ 促同 七玉切 催之如織曰促

趨スミヤカニ 八追ヒタテル意ナリ 嚮若趨降漢王

速スミヤカニ 遲之反 疾徐之反 亟キヨク 見于前

頓ニワカニ 立委於其地位曰頓

頓ハ漸ノ反ニテダキニキツキタル意ナリ

子列一氣不頓進 遽スミヤカニ 暴ヒドク急ナル 猝ツツ 俄而ニワカニ

卒ツツ 同上 驟ニワカニ 見于前 俄ニワカニ 俄而ニワカニ 蛾而同

溘ニワカニ 依然年ニワカニ 至曰溘

溘ハ思フマニズツトユクナリ 離溘吾遊此春宮

暫ニワカニ 間ヲ云 十三婦人暫而免諸國

豫アラカシメ 函養以待發曰豫

豫ハ其コトマヘカタニシラフ云 傳將相和則士豫附

素アラカシメ 見于前 逆ジキ 將來ニワカニ 意ナリ

欲ホツス 意之望於有作曰欲

欲ハ心ニ思ヒタツナリ

欲遠得トオモフ 遠欲得チヨットホ 強欲ニワカニ 欲強必欲ニワカニ 欲必ニワカニ 六ト皆句腰復

逆 函養以迎來 日逆

助語番次 卷之中

用ノ例ニシテ見ルベシ

角抵欲以試其力其力ヲ以テ試スルガ如ク欲角抵以

試其力其力ヲ以テ試スルガ如ク

角抵以欲試其力其力ヲ以テ試スルガ如ク

ハ其カヲシトセシメテツタニ句腰ニ用ルハイツテモ欲以テ以字上ノ語意ニ屬ス欲字下ノ語意ニ屬ス以欲ハ句頭ニ用テ上ノ語別ノ句トナル

八親我無成鄙我是欲

且キハサニソウス義見于前コレト訓スル処ニ出

又ト且トノ差別ハ凡文中段ニ又トアレハ其事ヲ並テ前段ト向レ位ニシテ言フナリ且トアレハ前段ノ事ノ上言フヲチヨツト添テテニル意ナリ故ニ又トアレト下ノ語ハ全篇ニ貫カズナリト添物ニシタル

且夫 且如コノ類句頭ノ撮用ハミナ且字下二段ノ全テ蒙リ天字如字其下ノ一語ニ係ル 且猶

猶且 或且 且或 固且 然且 且必 必且

且欲 且復ヲ類轉接ニ用タルハミナ句腰撮用ノ例ニテ且猶ハ且字下語ニ係リ猶且且字上語ニ係ル餘ハ此ニ効ヘ

宜闘且出カツハ斯ク 所殺傷匈奴亦萬餘人且引且

戰引ツタカヒ 自弓下取一人兼諸附順羽且與執

弦而左還順羽而與トス時ハ順羽畢ツテ與トナリ順羽且與ト名故ニ其與ノ間

且サ下訓スル時モオツト其ニ見意行カリテ猶豫チキ地位ニ

見且斬愛姬大駭傳 汝可疾去矣且見禽

將ハサニ 趨於有為曰將

平声

物吾音象

將ハ既ノ反ナリヒキ元ト訓シテ別ツテ持テ行ク意ハト訓スルモ同意ナリ

將且ノ別ハ將ハヤガテシカニル所ニ緩ナリ且ハ既方ナリタル所ニサシメテ急ナリ

將行名ク行ク且行既ニ足ラ欲行行ト思ヒタツ將欲行ト思フ

張儀傳 雖有百秦將無奈齊何 世將無同ワカリ兼タルニ

襄十五將可乎哉殆必不可 天無以清將恐裂裂ル恐ガ

恐將裂裂カレトアラシ 覆翠王沿夏將欲入鄢

且將 必將 將必 殆將 尚將 將或 若將

將亦 行將 將向ナクトス 亦將 皆句腰複用ノ例ナリ

○適屬祗多 端鼎正方

適テキ 適タマク 丁歷切 通作的 韻中響合日適的同音ニテ

適ハ莫之反ナリ心ノツボニテウダ打合タルヲ云マセタマクナド

訓スモテウダ矢ノ的ニ中リタル様ニ其ノニ來リ合セタルナリ

海峽傳 適有天幸窘急常得脱

屬シヨク 時值其會日屬オリカト訣ス

屬ハオリカラ其時節ニ中リタルヲ云

成 下臣不幸屬當戎行

祗マサニ 又作祗ヤツハリト 諷ス 竟キヤフ 違其域日祗ト

祗ハヤ ハリ其所ヲ ハナズシテ始終ツレ ナリヲ 意ナリノ 祗ハ 神祗ト

ナリ訓適訓但ハ音支ナリ然ルニ孫季子昭ハ分ツテ易ノ祗悔ヲ音岐トシ詩ノ亦祗ヲ音支トス此イマタ深巷音ハサルナリ祗ハ禾始熟也沈約ハ

音竹尸切トシ梅齋祚ハ音章移切トス

易 無祗悔法祗或 小誠不以富亦祗以異法 茲苦也祗其

所以為樂也歟司馬光 祗結怨而不見德以禾此始支韓文以下多祗字ヲ用

多マサニ 音支 多與祗同音支

論語 多見其不知量也或作祗

端マサニ 舉其及之之緒日端

端ハ端緒ノ義ニ其ハシク出テクル処ヲ云ナリ

韓非子 豎陽穀之進酒也非以端惡子反也

許星后傳 奈何妾薄命端遇竟寧前

鼎マサニ 有立於其地位日鼎

鼎ハキツトツレナリ立テアル意ナリ

匡衡傳 無說詩匡鼎來賈誼傳 天子春秋鼎盛

正マサニ 去声 通作政タシカニ 示其向之非他日正

力吾容象 卷之中 三十四

正ハ邪ノ反ナリ正面正ニ其事カレレナキバレヨナリ

論語 正唯弟子不能學也 蘇秦傳 秦之行暴正告天下

韓非 輔依車車亦依輔 虞虢之勢正是也

方ハウ マサニ ミサカリニ 向其將然曰方ト

方ハモト方位ノ方ニテ向フテアルト云フナリミサカリニ下訓スルモ水ノ出バナク盛リナル処ニ向フ意持ナリ

正其静ニテ其物ニツキテ言フ体ニ属ス 方ハ動ニテコチヲヨリ量リテ言フ用ニ属ス

商書 方輿沉酗于酒 檀公 輸若方小

累定 水潦方降 疾癘方起 穽方生 方死 方死 方生

方復 方乃 乃方 行 カウ マサニ 見于前

下訓スル復用 且將 方將 祇當 祇應 正當

方且 方當 行將 端合 コレラハ上ニアルトキハ句頭復用句中ニアルトキハ句腰復用例ニ見ルヘシ

○偏一誕大 奄丕駮荒

偏 ヒトニ 固守其僻曰偏

偏ハ両ノ反ニテカタイチツニテリテアルヲ云

六韜 偏持律管當耳 張儀傳 偏守新城

カ

一イツ ヒタスラニ 壹同

純然無所耦曰壹

一ハ雜ナク其コニナリテアル意ナリ

傳范范叔一寒如此哉傳為法之敝一至此哉

成十敗者壹大學壹是以脩身為本

誕オホイニ 倍其實張揚之曰誕

誕ハ實事ヨリハ一段カサヲカケテニラフナリ

大オホイニ 誕彌厥月對小語其所包有之殷富曰大

小トイフ對ヲ心ニ持テ小ニアラス大ナリト云所ニ用ユ

傳易象大有慶也大字ヒロク国ニモ家ニモ周周有大賚賚大ナルト

傳耳茂耳茂曰息壤在此王曰有之因大悉起兵

奄オホイニ 奄一蓋之曰奄

奄ハ一面ニ包容レタルヲ云商方命厥后奄有九有

丕オホイニ 有倍常之所思量曰丕

丕ハ常ニハツレテ大ナルヲ云多惟天丕建保又有殷

駿オホイニ 超邁出凡曰駿

駿ハスグレテサカシナルヲ云

周駿_ニ奔走在_ニ廟_ニ

荒_{クワ} オホイニ

アホク下_ニ詠ス

遠大出_ル於_レ常制之外_ニ曰_ク荒_ト

荒ハ限リノツカヌヲ云

昭有亡荒_ニ閱_ス

誕奄丕駿荒五字共
韻文ニノミ用ユ

○必會定計 要期斷決

必_{ヒツ} カナラズ

キツトト詠ス

約_ス其當然曰_ク必_ト

必ハ吾心ニテ將來ヲ占メテイフチリ

必ハ未然ニ稱スル辞ナリ 擧_テハ
已然ニ稱スル辞ナリ 然レハ必_ニ字

既往ノ_ニ我ヨリ推ハカリテ心ニトロメテ言フ_ニアリ果_ニ字モ將來ノ_ニ心ニ然_リトシテ用ル_ニアリコレ心ノ幽界ニ入_リテカタクナルナリ

不_ニ必然_ト オチタルモト云 必_ニ不然_ト オチタルモト云 可_レ必_ニ可_レ非_ニ必_ニ非_ト

不_ニ必_ニ能_レ彼_ニカ_レ能_レ 不_ニ能_レ必_ニ我_ニカ_レ能_レ 必_ニ不_ニ能_レ能_レセ_ス

有_レ所_レ必_ニ得_レ 必_ニ字得_レニカ_レル 必_ニ有_レ所_レ得_レ 必_ニ字全體_ニニカ_レル

則_レ必_ニ 必_ニ則_レ 將_レ必_ニ 必_ニ將_レ コ_レラハ句_ニ腰_ニ復_ニ用_レ例_ニナリ

昭_ニ十_ニ羊_ニ姓_ニ有_レ乱_ニ 必_ニ季_ニ實_ニ立_レ子_ニ管_ニ 必_ニ則_レ朋_ニ乎_ニ 論_ニ必_ニ也_ニ使_レ無_レ訟_ニ乎_ニ

會_ニカ_レズ テ_ニモ_ニト_ニ詠_ス 有_レ期_ニ彼_ニ此_ニ相_レ遇_レ曰_ク會_ト

會_ニハ此_ニ事_ニト_ニア_レク_ニト_ニフ_ト出_レ合_レシ_テル_ニ意_ニナ_リ

北齊_ニ杜_ニ鮮_ニ昇_ニ車_ニ馬_ニ客_ニ會_ニ須_ニ用_レ中_ニ國_ニ人_ニヲ

力_ニ吾_ニ忍_ニ辱_ニ 三_ニ三_ニ口

定カテス サタテ 定之其不復動曰定

定ハ我ヨリ推シテサダムナリ 定計ハ往属ス會要期決ハ來属ス必ハ往ニ來ニ用ニ

家聞文公定死乃去

計カテス ハカシ 計ハ勸定シテムルナリ

計ハ勸定シテムルナリ

要カテス 要ハセヒニサカル様ニスナリ

要ハセヒニサカル様ニスナリ

期カテス 期ハ其ヲアテドスル意ナリ

期ハ其ヲアテドスル意ナリ

斷カテス 斷ハ其ヲカチラツケル云

斷ハ其ヲカチラツケル云

斷カテス 斷可知矣 テ知ラル 可斷而知 將來ニ斷シテ

斷可知矣 テ知ラル 可斷而知 將來ニ斷シテ

決カテス 決然趨之不可止曰決

決然趨之不可止曰決

後漢馬援傳 男兒要當死於邊野

的指來之所周至曰期

禮記 臣期期不奉詔 昌口吃シテ言ヌルニ

果以判之曰斷

可斷而知 將來ニ斷シテ

決然趨之不可止曰決

決ハ其方ヘナレテシラフ云

國使^{ヨク}禽^ニ知^ル虎^ノ之^郎已^ラ決^テ不^レ相^闘矣

約^カナラズ見^テ手^後

○悉^シ備^ス盡^ス單^ニ 詳^シ具^ス畢^ス屑

悉^シ コトクク 凡^ク多^クト^テ歎^ス 閱^ム之^ヲ無^ク遺^ス失^ス曰^ク悉^シ

悉^シハヒトツツ、數^ヘテ殘^ラサヌラフ云 盡^ハ彼^ニシテニム 悉^ハ我^ニテリニ云

傳^ス扁^鵲乃^チ悉^シ取^リ其^ノ禁^ヲ方^ヲ盡^ス與^テ扁^鵲

備^フ ツラセニ

凡^ク百^ノ皆^ク有^リ曰^ク備^フ

備^ハワロヘテオクナリ 備^ハ險^阻艱^難備^ハ嘗^ム之^ヲ矣

盡^ス コトクク 凡^ク多^クト^テ歎^ス 不^レ遺^ス其^ノ有^リ曰^ク盡^ス

盡^ス其^ノ物^ヲラキサラヘテオキテ言^フ 盡^ハ段^々ニツクスキミナリ 悉^ハ初^メヨリニテ出^シテ云

不^レ能^ク盡^ス對^ス 一^クコトクク 盡^ス不^レ能^ク對^ス 全^クカテキ又

孟^子非^ス盡^ス人^ノ之^ノ子^ヲ與^テ用^フ 後^ハ倉^公 吏^民嘗^ム有^リ事^ヲ學^ビ意^方及^テ盡^ス得^ル意^方不^レ

單^ニ コトクク 殫^ニ コトクク 殫^ニ コトクク 竭^ニ之^ヲ至^リ其^ノ極^ニ曰^ク殫^ニ

殫^ハツル処^ニ至^リツタヌラフ云 盡^ハ單^ニ斃^ス其^ノ死^ニ矣

詳^シ コトクク 能^ク理^ス其^ノ細^密曰^ク詳^シ

詳^ハ略^之反^テ其^ノヲ細^カニラケルナリ

力^ヲ吾^ノ不^レ能^ク 力^ヲ吾^ノ不^レ能^ク

董仲舒詳延特起之士

具ツク

所陳設無闕曰具

具ヨク八十トウナカラナズベテ言フナリ

畢ヒツ

周遍無漏曰畢畢ハ既往ヲ云フナリ

畢ヒツハ上云守テ卷ノ意持カクソクヲオヒシテ云フナリ

大史公自序天下遺文古事靡不畢集

屑セツ

細及其瑣曲曰屑

屑セツ瑣碎ニ多くシク言フナリ

禮圖天之命屑有辭

訖キツヨクク詳ナリ前

秦民訖自若

既キヨクク詳ナリ前スニ下訓スル上同意ナリ

僊ヒツ及宋既濟也請繫之

卒ソツヨクク詳ナリ後ツイテ下訓スル上同意ナリ

○皆咸僉舉 裁才僅劣

皆カヘミナ

各種一曰皆

皆カヘハミナソロヘテト云フナリ

皆カヘハミナチタカクヨククセ合セ云

皆不可識皆字全

不可皆識皆字ノ物

皆不識皆字

全體カヘナルナリ

莫不皆然皆莫不然 可皆得

カヘミナ

雖皆 皆雖 使皆 皆使 並皆 舉皆 悉皆

己スハ句腰復用ノ例ニテ雖皆ハ皆字上ノ語ナリ
皆雖ハ皆字下ノ語ナル餘コレニ倣ヘ

傳本新諸男皆尚秦公主女悉嫁秦諸公子

元隱小人有母皆嘗小人之食矣

咸カ コトク 彼我相孚合曰咸

咸ハ思ヒ合フテドレモくと云フナリ

皆ハ体テ外ヲ指シテ言コトハナリ
咸ハ用テ其モニテカテイフ辞ナリ

傳傳天下莫不咸便 ミナト云詞ハ物ニツキテ云詞ナリ
コトクト云詞ハ用ニツキテ云詞ナリ

僉シ ミナ 稱所集列之衆曰僉

僉ハ其所ニ集テアル人ヲスベテイフ 典僉曰垂哉

舉キ ミナ 該其所統示之曰舉

舉ハスベテラ舉テミテイフ辞ナリ

寧シ 舉言群臣不信諸侯皆有貳志 楚舉世醉我獨醒

罄ケ コトク 竭 カツリト

裁シ ワカニ 畫其所至而垠之曰裁

裁ハコギリク持ヘラ云ナリ 裁ハ用
僅ハ体

俗字
終ヨク
將及而未至
之辭

張儀傳 雖大男子裁如嬰兒

オイワツカ財ワツカ纒ワツカ

並與裁同

僅ワツカ 又作勵 ちよク上 微少未足道曰僅

僅ハイサクカナル程ノ処ヲ云

射蓋勵有存者

僅少 複用

僅僅 叠用

僅チカレト訓スルハ近ト通ス

王倫傳 戰所殺害僅十万人

劣ワツカ

品等不及儕輩曰劣

劣ハ優ノ反ナリマダ常ナミノ所ニ及ハヌヲ云

經北面有如頽落劣得通歩

約略 見于後

○代狎間拾 交互遞迭

代カルク

カワリヤツテ

接武繼之曰代

代ハアトラツギテカワリニナルコナリ

書管 五伯代興更爲主命

代ハ体ニテ物ニ称ス 更ハ用ニテ事ニ称ス

狎カルク

進退互相依比曰狎

狎ハアチラヘナリコチラヘナリシテヨリワフテユクナリ

昭諸侯逐進狎主齊盟

カ

カ

カ

間カハル 又作間

雜テ之有隔於其中曰間

間ハ其アヒタニ外ノヲ挿ムヲ云ト訓スルモ同義ナリ

儀乃間歌魚麗笙由庚歌南有嘉魚笙崇丘ラ

拾カハル 一左一右而成曰拾

拾ハ左右相タガヒニソロヘルナリ

儀拾發以將乘矢ラ 更カハル 詳于後ト 敵耦相結曰交ト

交カハル コモク

交ハタガヒニ結ビ合フヲ云

三隱周鄭交質

互タガヒニ

相錯如犬牙曰互ト

互ハタガヒニイリコミ食ヒチカヒニナリテタルヲ云牴牾ノ牾ト同音ナリ

遞タガヒニ

以次承授相繹曰遞ト

遞ハソソギクヘ承テツクヲ云ト驛遞ノ字ヨリ轉用シタルナリ

律遞興遞廢ス

迭タガヒニ

通作軼トタガヒト誤ス 履轍相踵曰迭ト

迭ハソソ跡ハ出又ソソ跡ハ出スルナリ

封禪書 軼興軼衰ラ

遞ハソソギクツクナリ迭ハソソ間キルナリ

錯タガヒニ イレチカヒト誤ス

○俱偕共併 與及之暨

俱 トモニ イツレニト訣ス 誘而同之曰俱 ト

俱ハ一レヨニナルヲ云 偕ハ打ソロフテアルヲ云

八定擊之與一人俱斃

偕 トモニ ウチソロフテ訣ス 比肩同行曰偕 ト

俱偕ノ別ハタトヘハ花ヲ觀ニ行ニ同シクソロフテユクハ偕ナリ或ハサキヘナリ或ハアトヘナリ從者トナリ色々品カワリテモ一ニヨニ行クハ俱ナリ

衛及爾偕老 儻 與衛偕命而不與偕復非信也

共 トモニ キコロク 相援以作之曰共 ト

共ハヒトツヲヨリ合テトモクニスルニ用ユ 俱偕ハ体ナリ

傳 變 告湯與謁居謀共變告李文 ラ

齊 トモニ キフ 翕 トモニ 兩方カラヨリ合

併 トモニ シカレナカラ 又作并弁 ニ 翕異歸同曰併 ト

併ハヒトツニヨセテオクナリ アワセテ並ヘオクハ併ナリ

賈誼治 安策 高帝與諸將併起 封禪 皆拜在東方 ニ

與 トモニ シク クミ アイ 以彼此附我曰與 アタルト訓ス

與ハソレニタミ合レテ見ルナリ

與彼不同 我ト彼トナラ 不與彼同 我ノ内ニテ尺外

五 駟 戎狄之與鄰 鼎錯 中國之人弗與也

用 君 復 善 客與俱者下斫擊 相與偕出

禮 曲 弗與共戴天 樂 相與共講習讀之

用 累 昭 十五 季公亥與公思展與公鳥之臣申夜姑相其室

與 ヨリハト訓スルモ同義ナリ 孰與 詳于後

元 閱 猶有令名與其及也 十 與其戍周不如城之

及 オヨビテ 自我傳屈彼曰及

及 ハ此ニ彼ヲ對シツケテ云 及 ハ上ノ語主トナル 與ハ下ノ語主トナル 暨ハ上下ニ主客タヌナリ

自古及今 古ラ主 自古至今 今テラ主

信 韓 王 及至顏當城生子因名曰顏當 及ト至トノ別ハ及ハ合ヤウクオ

元 隱 公及邾儀父盟于蔑 魯ラ主ニテ故 桓 公與夫人姜氏遂

如齊 姜氏ヲ讓ル為ニ姜氏 宜 凡師出與謀曰及 与謀ニテ魯ニテ

用 復 乃刑白雉及與驢羊

之 ソニ付テモ心ヲカケテ云ナリ 之義見于前

時 タトハ鼓及鐘トイフトキハ及字ナリ 檠之鼓トイフ

一 孝 皇父之二子死焉

考工作其鱗之而鱗存焉

將 ト 見于前 ヒキルヨリ轉シテト訓スルナリ

北二人權將楊悖相埒

兼 ト 見于後 一タト訓スル処ニ詳ナリ

命稱奉圭兼幣

暨 ト 洎同 ツイテ 各各竝立曰暨

暨ハ並ヒタル物ニテ品等ノタ、ヌ処ニ用ユ

定 母弟辰暨仲佗石彊出奔陳

昭春王正月暨齊平

前年冬齊侯伐北燕、文ヲ承テ齊ト燕ト平ク、魯ニ云ニ齊燕ニ主客タ、ヌナリ

復列暨及化人之宮

越 ト 見于前 一段コマテ及ナリ

詔王之讐言民百君子越友民

建 將且追及

逮 ト 追同 キツ 迄 オヨビテ 見于後

○相胥兩耦 竝竊屣比

相 アヒ 平声 扶而與俱之曰相

相ハアイテトリテヒキ合フテスル意ナリ

昭 爲五陣以相離

胥 アヒ 平声 固自爲四曰胥

胥ハモト足ト云字ニテ雙方ヲ持合セテ云ナリ 相ハ用胥ハ体

桓 齊侯衛侯胥命于蒲

力 吾 天 家 史

日 一 六

兩 リョウ 多シナカラ

四立作對曰兩

兩ハ立ナラビテ物ヲ成スナリ

兩馬兩輪ノ兩字ニテ義ヲ見ルヘシ

兩心交定兩利若一兩為之職

耦 コウ 多ツナカラ

雙偶以同之曰耦

耦ハフタツヨセテ一ヲスルナリ

九送往事居耦俱無猜貞也

竝 ナラヒニ

儕然駢立曰竝

竝ハナラヒタツナリ

後漢獻帝紀 恭懷敬隱恭愍三皇后並非正嫡

竊 ヒソカニ 又作窺

今シテ下訣ス 畏顯有為於隱曰竊

竊ハ人ノ知ラヌ間ニスルナリ

竊惟竊以

私 ヒソカニ 對公之稱

陰 ヒソカニ 陽之反

暗 ヒソカニ 隱昧沒明之稱

密 ヒソカニ 比周無間之稱

潛 ヒソカニ 隱伏埋影之稱

微 ヒソカニ 眇小巨見之稱

私以下助字ニ非ス

遲 チ ココホヒ

遲義見于前

外戚傳 遲帝還趙王死

遲明 遲且 黎明

比 ヒ ココゴロ 去声

料其程限依附之曰比

比ハ其時頃ニツケテニル意ナリ

論語比及三年可使足民也 檀比及五世皆反葬於周

全比御而不入 乃イココロ 屬ヲコロ 並見于前一

間コバコロ 義見于前一 其アヒタミハル意ナリ 對禪書間者比年登ル

○適迄了已 終竟卒遂

適ソ井ニ 聿同 一イハト訣ス 度其所之以位之日適

適ハ見今ヨリ將來ヘカケテ云ナリ

唐蟋蟀在堂歲聿其莫 通字韻文ノ 外ハ用ビス

迄キツ井ニ 訖同 其処ニタリツメタル 窮其所底至日迄

傳西域康居驕黠訖不肯拜使者

了レウツ井ニ カツテ サツリト訣ス 事訖濟而瞭然日了

了ハアキラカト訓レテサツハリ事ノスミテアル意ナリ

抱扑子了不知大藥

已ハツ井ニ ムリト訣ス 已義見于前一

傳超起超欲因此已平諸國 注已猶遂也 不可義ヨリ轉シテ 一セラレヌコトヲムリニナス意ナリ

終ツ井ニ シヨノ処カト訣ス 對始訖其所極盡日終

終ハ始ノ反ニテシウノ所ガカヨウアリト云所ニ用ユナリイツ

ニテモ始トイフモノヲ相手ニ持テ云ナリ

終今 終古 終有得 終字全体ニカル得ル一
事ヲサズ汎ク言ナリ 有終得ハ

一事ヲツイニ 終不迷 全体カ 不終迷 今テ路カ
得ルナリ 迷ハヌ ツイニハヌ

相 六 周人以諱事神名終將諱之 喪 其使終饗之亦不可知也

竟 ツ井ニ コトクク トウクト訣 域之盡其所畫曰竟

竟ハトウク外ノコナラナダトイフキナリ始中終ヲコメテ云

覆 世 遂北至藍田再戰秦兵竟敗

復 傳 遂竟寔盡没入鄧通家 畢竟ヲト訣スリ 究竟

卒 ツ井ニ 卽律切 ソノテハト訣ス 紀其着落之末曰卒

卒ハ始中ラケテヒイハ果ハカリヲ云フ辞ナリ

一 槁 遂敗鄧師於蒲騷卒盟而還

遂 ツ井ニ ソノツイト訣 閱甲涉乙有成曰遂

遂ハ此事ヨリレテ彼事ヲ成シ遂ゲタル意ナリ兩事ヲ合

セテ云所ニ用ユ 終ト竟トハ彼ニ属シ向フニサフナリタルナリ
卒ト遂トハ我ニ属スコナラニテサフシタルナリ

元 隱 莊公寤生驚姜氏故名曰寤生遂惡之 名ケテ寤生トイフヨリ
ソ井ニ惡ムナリタル

成 今叔父克遂有功于齊 表 白衛將遂伐晉

薦 セシ
カサ子テ

薦與荐同

大饑饉薦臻

薦字韻文
外ニ見ヘス

恣 シキリニ

ナレニテ誤 放縱無所制轄曰恣

恣ハナルニ隨意ニスルナリ

累 シキリニ

層々屬屬相増曰累

累ハツ上ヘナリクシテユクナリ

切 シキリニ
身ニシムホトナリテク

急 シキリニ
ユトリナキ

急 シキリ
キカサナルト誤ス

助語審象卷之中



助語審象卷之下

橘園三宅先生口授

門人

釋海定

三上惇

宮永寅

筆錄



○如若似均 仍故猶尚

如 コトシ
モシクハ

ソトオリト誤

如者向彼紀此其所比方之辞

如ハヲト訓シテ此方ニテユクサキヘ對シ此方ノ出タル処ヲ見テイフ
字ナリゴトト訓スル時モ向スモノニ對シテ其体ヲイフ辞ナリ

若 ジヤク コトシ
カクシキ
カクシキ

若者循此指其所擬模之辭

若ハシカフト訓シテ向フ様子ニツキテマコナリゴトシト訓スル時

モ向フモノヨフスニ付テ見テソノ用ヲ云辞ナリ 如ハ物ニツキテイフ
若ハ心ニツキテイフ

如ハ体ニテ外ニ相手ヲトリタトヘテ我ヨリ比レタズベテソノトオリ

武帝 本紀 獨見其星出如瓠 封禪書 封禪祠其夜若有光 如瓠ハ外ノ
瓠ト云モノ

ヲトリ來テタトヘルナリ若有光ハ即光リアリテ真カ假カ分ラヌ故ニ若ト云

タルナリ凡テ如ノ下ハ今テキ幽界ノ事物ヲヒキ出シテタトスルナリ若ノ下ハ明

界形兒ヲ云テ擬スル如此若此ナドハ記者ノ心ニ幽界明界ヲ分ケテ

知ト若トヲ書分ルナリ如此ハ外ノコトヲラベル之若此ハコトヲバシナルト吾心ニ云ク

不如 其トオリニク
トハセラレヌ 不若 其ヤウナヨラス
トハセラレヌ 莫如 ソノトオリノ
トハセラレヌ

之不若 鳥ノヤウニスラ
ナラヌホトシヤ 莫若周公 外人ヲ主トシテイフ
世ニ周公ヤウナ者ハナイ 莫周

公若 周公ヲ主ト
シテイフ 天欲殺之則如無生 定子西曰
十年

不能如辭 コレハ如字不如ノ意ニ似タシ
凡我ニシテイハハ不如トカクヘキナシ
凡彼ニシテイモシハ無生ニモアラカモシク
辭スルヲモアラカト云タルナリ

論 君子哉若人 襄 夫婦所生若而人 カクノコトキソノ
人トイフキミナリ

若干 若ハソコヲノヨラスノ処ヲ
サス干ハ俗語ノ箇ト同シ 傍若無人 外ヨリ見
テイフ 若傍無人

其人ニナリ 小若疾 ヤムヤウニ
スコレ見元 若小疾 疾カスコレキ
ヤウナ

助 吾 嘗 見 之 下

翕如カ 皦如カ 云云如トイハ外ノヲトリ來テラヒ比シテソトオリ云フス翕皦ハモト樂ノテラ文字ニ非ス外ノ語ストリ來ル

惕若カ 嗟若カ 云云若トイハ外ノヲナシ即其字面ノ上ニテソク狀スナリテアルト云ク惕若即オウルヨク嗟若ハ即ケクヨフスナリ

佛經 形狀蛇如有四足 コト如字ハヤハリ蛇如ノ意ナリ東坡詩ニ肝膽猶能楚楚如トアルモ同意ナリ

似ニタリ 狀貌有疑於同曰似

似ハドコヤラニ同シ狀ガアルコナリ

亦似有得其人ガ 似亦有得其事ガ

均ナラ 稱量之可相衡持曰均

均ナラ 均ハツリ合フテアルコナリ

昭ニ 鉤將皆死 均之猶之ト同シ

仍ナラ 仍ナラ 仍義見于前

劉高 傳 堪出之後大變仍臻

故ナラ 故義見于前

周本 紀 萬方故不笑 領ナラ 領者示越起有顧於後之辭

猶ナラ 猶者示越起有顧於後之辭

猶ナラ 猶ハモト獸名ニテ一足ヅク行キテハ跡ヲ見カエリクスル者ナリ立

模ナラ 顧示所其擬 模之辭

由 顧此而擬 彼 猶 顧示所其擬 模之辭

モドツテ見レバヤハリ其スヂヤト云意ナリ 猶ハ其トオリ其ヤウナトシカト云ハアラナド事ハ

違フテアレテ言フテ見ルト畢竟ソノスヂニヒトシイト云フナリヒトシキト云訓的當ナリ如ヨリ若ハ辞元シ若ヨリ猶ハマタク緩ナリ

春不郊猶三望 昭十六人同之不猶愈乎

秦策其實猶之不失秦也 傳稱今日見老子猶龍邪

複僖一薰一蕕十年尚猶有臭 尚字下ノ語ニ係ル僖親以寵

偏猶尚害之 猶字下ノ語ニ係ル尚字上ノ語ニ係ル 猶如 猶若 猶似

尚 ナラ 通作上 マダト誤ス 尚者示所進更有籌餘之辞

尚ハクワルト云字ニテ其上ニマダアルト云意ナリ

尚ハサキハ段ク加ヘテユクナリ体ニ属ス猶ハアトモドリテイフナリ用ニ属ス

家 是 尚誰予乎 策秦不歸四國尚焉之 策燕其民力竭矣安猶

取哉 尚奚 尚何 尚安 寧尚 尚復 用ニ句腰複

○幸頼熟情 信允情諒

幸 カウ サイライニ 所邀值可欣喜曰幸

幸ハシアラセノヨキノナリ 元后傳 太子宮幸近可壹往遊觀ス

頼 ライ サイワイニ 憑恃之以自慰曰頼

頼ハヤウクニシラヨトシテ居ル意 策燕頼得先生雁務焉之餘

熟 シユク
ツラク

トツクリト

既慣之能經鍛鍊曰熟

熟ハヨク其ヲ子リツメタル意ナリ

倩 シユク
ツラク

ヨクク

婉曲久之曰倩

倩ハ心ヲ用テ念ヲ入ルナリ

信 シユク
マコトニ

マチガヒト言言行相徴可驗曰信

信ハ引合セ見テチガヒノナキヲ云僭ノ反ナリ

昭子誓信美矣抑子南夫也

允 イシ
マコトニ

イカモト訣ス 從外容其可曰允

允ハユルスト云字ニテ象人が見テイカモチカワストスル所ナリ

軍志曰允當則歸

情 セイ
マコトニ

マツダク モチエト訣ス 盡意之所欲未容僞飾曰情

情ハ意ニ思フテ井ルマナリ偽ノ反ナリ

王符貴忠論 情知積粟腐舍而不忍貸人一斗

諒 リョウ
マコトニ

シンソコ 彼我有相徹曰諒

諒ハ我心ヲ人心ニ通シ知ラズルニ 諒良相近ケレ用諒ハ去声ニテ 体ニ屬ス良ハ平声用ニ屬ス

雅及爾如貫諒不我知

助吾審象

卷之下

良一コトニ 見見于前前

昭吾身泯焉弗良及也

○實寔展亶 真洵誠亮

實一コトニ 古作寔一ツダク 充在無耗闕曰實ウレモカクモトイ

實ハ内ニ持テアル処ヲ云虚ノ反ナリ

莊陳媯歸于京師實惠后

寔一コトニ 寔トクト其処ニヲチツタ意ナリ 寔義見于前

桓春正月寔來一コトニ 實字ノカワリニ帝諱ヲ避テ寔字ヲ用タル

展一コトニ 上声 敷意陳之曰展

展ハ我心ヲムベシキテイフ意ナリ 鄘展如之人兮邦之媛也

亶一コトニ 多簡反上声 執此篤之曰亶

亶一コトニ 厚ク丁寧ニイフナリ 夕ト訓スルトキハ徒簡切

是究是圖亶其然乎 展亶トモニ韻文外ハ用ヒズ

真一コトニ 天成不容偽曰真

真ハウブクニナルナリ 假ノ反六經ニ真

呂后真而主矣 真誠一コトニ 真成モ同シ

洵一コトニ 洵同 繾綣綢繆曰洵

助吾審象 卷之下 六

洵ハタリカヘシテモソトヲリト云意ナリ

王洵美且仁

誠 モレ

ドコニデモ

所運用恒久不變曰誠

誠ハドコニデモトヲリテカワラズツクヲ云

論誠不以富亦祗以異 誠詩ニ作成

亮 モコトニ

亮與諒同 魏都賦ニ出ツ

○能善克巧 好喜矧况

能 ヨク

致得之盡其方曰能

能ハ其手ニテ自由ニデキル所ヲ云

人人不能得 タレモカモ得ル

不能人人得 タレモハアレ人

不人人能 人ゴトニ

不可人人能 人々ヨクセントレテ

能有所發 能字ソノ

有所能發 能字ソノ

莫之能行

ヨク行フヲコノフニセ又之字活動ス

莫能行之 行ヲヲ能スルカセマカノ吟味ナリ能字活動ス

得能

有能 能有 為能 能為 無能 能無 不能 能不 ナド此ニ准知スヘシ

孟子 吾未能有行焉 全未有能濟者也

檀伋則安能

耐 ヨク

與能同

禮聖人耐以天下為一家

善 ヨク

成得之有以繼曰善

助吾審象

卷之十

善ハ人ヨリ見テ誰が見テモヨキトイハル程処ヲ云能ハ体ナリ

善ハソノ事ニキテイフソノ意善ハ用ナリ
アリ能ハソノ人ニキテイフ
善書外ヨリ 能書ソノ人ニ

傳田儔無不善畫者莫能圖何哉志 岸善崩ル

克ヨク 用カテ力盡其所難曰克

克ハ成シガタキ処ヲシオホセタルナリ
堯克明後徳典

復昭ニ用十六克能修其職方術 故能克崇其業允協大中

巧カウ 對拙指其隈曲及妙曰巧

巧ハ拙ノ反ニテ物事ヲ上手ニスルコトナリ

好カウ 尋思之以為美曰好

好ハ思テミテヨシトスルナリ反ナリ

成十好以衆整全 好以暇志 盛徳烈壯好建功勳志

喜キ 得所嗜不自己曰喜

喜ハ怒ノ反ニテソレラウレシガルナリ

喜喜 忘外ヨリ 善忘外ヨリ

矧シ 矧者架一層乘之之辭

矧ハカクルウニ猶サラト云意ナリ
矧ハハモトニスルト訓スル字
ニテソノ奥ノ手ヲイフキニ

助吾昏象

盤庚レ罔知レ天之斷命コトヲ矧ヤ曰ク其克從先王之烈ト

矧且 矧又 矧乃 矧夫 イソレモ語頭ニ用テ句頭複用ノ例ナリ

况キヤイハヤ 又作况 シテヤト誤 況者擬其所有尚者而掩之之辭

况ハタトフト訓シテ其ヨラスヲ思ヒヤル処ヲ云字ナリ 旅況情況本ノ况字ノ意ニ

カフサヘアルニサゾヤト云意ナリタトヘヲ取テ一段カクテ云ナリ

矧ハヒトツバシヨニテ言フナリ况ハ界ヲ越シテタトヘヲ取テ言フナリ

孟子 况乎以不賢人之招招賢人乎

而况 何况 豈况 何豈ナドノ字ヲ加ルイヨク深クカサラカケテ云ナリ

○更改起兼 還復亦又

更カウ サラニ タガヒニ アカセニ 去声 キリカエテ 置舊舉新曰更

更ハアラタメ其事ヲ出シテ重子イフ詞ナリ切カエテ一段シキリヲ

立テイフナリ 更無 キリカエテ 曾無 トシト

更不可改 更字其 不可更造 更字其

在此行也晋不更舉矣 趙臣更不理

改 サシ 棄故易物曰改

改ハサズリ新ラシクスルナリ フルキラステヒフハ改ナリフルキハソノマニシテオキテアタラシク作ルハ更ニ

雜反改成踊

起キ サラニ

奮テ以趨多於用曰起

起八卧反ニテ進ニテ用ヲス意アリ

則起敬起孝鄭注起猶更也

重チカウ カサキテ 平声 凡上カサキルナリ

再サ フタビ 二度アル

再ハ記者ノ心識ニカハル故ニ助字トスレモ再ハ其事實ヲ記ス詞ニ助字ニ非ス

兼ケン ト

攝レ彼以副於此曰兼

兼ハ主トスルモノアルニ客ナルモノヲ兼ル意也

策又兼無燕秦

還セン マタ 音旋

旋同 メダリ テキテノ意ナリ

還義見下前 スナハチト訓 スル処ニ出

管子還四年伐孤竹

復フタ 去声 扶富切

復者襲跡再追之之辞 モトノトオリ モトノトコロニテ モトノヤウニ

復ハ重子テアルコトヲ体ニシ言フナリ

復人声ニカエルト訓スルトキモ モト出タル所ヘカエルコトナリ

子須臾之忘可復得乎

水火豈復可近哉 可復ハフタビス ルカセラルヤ

復可ハセラル コト ガ 多ヒトアラフヤ

不可復讀 ヨムコト フタビ 不復可讀 ヨムコト フタビ ナラフ

復不可讀 ヨムコト マタ ナラフ

無復所用 復字ソノ 物ニカハル 復無所用 復字ソノ 人ニカハル

無所復用 復字用ル ニカハル

無復用處 用ル ニカハル 無復有所用 用ル ニカハル

有ルカト尋 テモ ナイ

難復遇 多 ビ 亦難遇 コノ コト モ

復欲得 復字其 人ニカハル

欲復得復字其事方ル 非復 雖復 猶復 復何三十一句 辟復用ノ例ナリ

亦モ、タ 亦者比其象以匹之之辞スルヲ

亦ハカタクノ物ニ比シテコレモ、タト云意ナリ文面ニ比スル者ナクテ

モ幽界ニ物ヲ持テ比シテ亦字ヲ置ク一段ニ入ル字意ナリ

論不亦說乎文面ノ外ニ説クヲ立置テ亦ト云タル 似亦無害害モ、タ 亦似無

害似タルヲモ、タ 公登亦登登ルヲ孫文子モ、タセシナリ

復大戴禮 丘則否能亦又不能太龍傳 其吏卒亦輒復盛推外

國所有昭 晉侯將亦弗逆昭 雖亦不許君庸多

矣句腰 複用ノ例ニテ亦字上ノ文ナル 亦雖亦字下ノ語ニナル

亦字一段コレ入テ深キ字意ナリ故ニ上ニ無字不字アル反語ニル

不亦難難キナリ反語 亦不難難カラヌナリ 不復難一タ難カラヌナリ

不亦可乎可ナリ 亦不可乎不可ナリ

子孟不敢以寘亦不足弔乎此ハ上ノ語勢スケキ故ニ不足弔モ、ニシテ云カケタルナリニ奇法之粗率ニ見ルカラス

魯語無亦置其同類以服東夷而大攘諸夏將天下是主

周語無亦擇其柔嘉選其馨香 有亦無亦ト同ク反語ナリ宋詩ニ時未識鳳凰有亦

學不微トスル 八問ノ語ナリ

又イウ
上声一タ

又者措其武而更企一步之辞

又ハ外ニマタヒトツカフ云コトガアルトニツ並テ共ニ主ニシテ言フ時ニ用ユ

又ハ上ノ語ニツキテ下レニマタカクイフコトアルトイフナリサフ有テマタカアルナリ
亦ハ下ノ語ニツキテ見ヘシ亦悦ハ悦ブコトガモマタ之亦過矣ハ過元カモマタナリ

三 祭足帥師取温之麥秋又取成周之禾
祭足ガ又スルナリ
取コトマタハ非ス

五 祝聃射王中肩王亦能軍
能軍ガモマタナリ
王ノマタスルハ非ス

昭 將尤子又叱之亦叱之
又ハ其人カマタセシナリ亦ハ叱スルコトヲ子ヲ
カラモセシナリ又亦ノ別ナリ例ナリ故ニ

定 焚之而又戰
不亦説乎トハカケル不又説乎ト
書ノハシ能深ク味フテ辨別スベシ
及日中又至亦如之
不亦説乎トハカケル不又説乎ト
書ノハシ能深ク味フテ辨別スベシ
及日中又至亦如之

隔 傳 固已疑其言國陰事漢使又來
又ト且トノ別ハ又ハマタカラ云フガアルト立ナスヘテ共ニ主トシテ言フ時ニ用ユ且ハソノ
ナレハ漢使モマタナリ

且マタ 加カ 翻フ
三字並見于前

又復 亦復 還復 復還 且復 復亦

又復 亦又 又兼
コレラハ上ニアルトキハ句頭復用ナリ
句ノ中間ニアルハ句腰復用ノ例ナリ

○ 始初肇甫 造昉在昔

始シ 對終啓其所基址曰始
ハシメテ
テシツケ
テシツケ
テシツケ

始ハ終ノ反ニテ事ヲ仕ハジムル用ヲ云

五初獻六羽始用六佾也初ハ廟イヲサシテ云始ハ用ル人ニナリテイフ

初ハツメテ指彼之所興端緒曰初ト

初ハ後ニ對シテ其最初ノコクチヲ云始ハ用ニテ我ナリ初ハ体ニテ彼ナリ

宣季文子初聘于齊彼齊侯ニ於テハシメナリ七郊子來朝始朝公也

我魯侯ニ於テハシメナリ元初鄭武公娶于申今年ノイヲ中ニ立テクシテ主以前ノイヲ客ニ引クナリ

汲鄭始翟公為廷尉コトハ事ノ始終ヲ順ニ記シタルニハ下文ニ後復ト去字アルニ應ジテ始字ナリ

肇ハシメテ又作屨ハシメテ紀其舛昧之趨於動曰肇ト

肇ハ也然トシテ、ダ開ケカル始ト 雅后稷肇祀

甫ハシメテ在其元以待支流曰甫

甫ハ父ト同音ニテ其本トナリテ末ヲ生スル意アリ

周ト葬兆甫窆ス

造ハシメテ闕之以有作曰造ト

造ハ今ニデナキヲ新規ニハシムルヲ云

伊造攻自鳴條朕哉自毫ト 哉ハシメテ見于前ト

助ハシメテ通作方 嚮其將益然曰助ト

助ハコヒクソレニ向フナリ日出ノ始テ明ナラ助ト云ヨリ轉用シタルナリ

子列象昉同疑フ

載イテ見于前イテ

崑ハシメテ

在イテアリコトコトシヤウ

載イテ見于前イテ

眠其所止地位示之之稱

在イテハ其地位ニツキテイフ

在イテハ助字ニ非

在昔イテ時世ニ昔在イテ其人ニ主

所在イテ其物ニツ在所ニツキテイフ

有イテアリ

對無示其可實曰有

有イテハ其物ニツキテイフ

有イテ一不惑者アリ一有イテ不惑者アリ

不可イテ一有イテ闕

不可イテ有イテ一闕イテ

不可イテ有イテ闕イテ

元イテ有文在其手曰為魯夫人

禮晏子可謂知禮也已

恭敬之有焉

論苗而不秀者有矣夫

有字下ニルハ固有

有苗而不秀者

有字上ニルハ今有

史内外擊之有何不

濟イテ何盟之有

老吾有何患

論何有於我哉

有字上ノ下ノカヒ

孟子殺其父者有之

禮有殺其

父者イテ今有

禮太上無敗其次敗而有以成

有以字句腰

有字成ニ係ル而以有成

而上ニ字複用ニテリテ以字

十有一年

十トカ人終リテ

存イテ占之反

著イテ入声

逗イテトミリテアル

○任耐勝堪 愨強咋逅

任 平声

膺之務以有守曰任

任八身ニヒツカケテスルナリ

龜病不任行

耐 去声

被之固可久持曰耐

耐ハチツトユタヘテ居ルナリ

復後漢西用羌傳堪耐寒苦同之禽獸

能 音耐

与耐同

趙充國傳漢馬不能冬

勝 平声

比較之可以有尚曰勝

勝ハオサニテ其上ヘユク意ナリ

四昭張句不勝其愨

孟子材木不可勝用也

堪 タニ

忍之許其有成曰堪

堪ハコラテ其コヲナシトケル

僖君欲已甚其何以堪之

忍 クニ

禁 平声

愨 シヒテ

愨者情之欲僅有為之辞

愨ハセメテハト惜ム辞ナリ

小雅不愨遺一老

晉語愨庇州犂

強 シヒテ

勸之要其過分曰強

強ハムリニシヒルナリ
成ニ君弱皆強冠之

咋アカラサニニ
言發於偶然曰咋ウカト誤

咋ハ心ニ振方シテヒヨト言ヒ出スコナリ作ト同音ナリ

定
八桓子咋謂林楚

近アカラサニニ
事遇於意外曰近

近ハ思ヒガケナクヒヨト出テタナリ
暫アカラサニニ
六ラク意

○長每恒常 值會脫偶

長チマウ
相持之久曰長イッモト誤

長ハイツテデモカワラヌ意ナリ
來ニ用ルトキハトコレナヘト訓ス
往ニ用ルトキハヒサレト訓ス

鬻臣長不復見左右
頃長發其祥
永エイ
ナガク

鎮チン
去声
要按壓不動曰鎮
鎮長 鎮日

每ハイ
ゴトニ
數其所當曰每

每ハソノタビゴトニナリ
每各 每輒 每必

恒コウ
ツチニ
不易其守曰恒

恒ハイツ出テ來テモ同ニ様ニナルト云意ナリ

元楚國之舉恒在少者

常ツ子ニ 生平所事事曰常

常ハ旦暮ハナレズ身ニ附テアルナリ

子列有不常勝之道全 常不勝之道曰強不常ハ多クカツコモアルニ 常ハトントカツコナキナリ

居恒ツ子ニ 居常ツ子コ

終古ツ子ニ 終古ハ昔モ今モカワラヌコナリ

值タク 忽已丁其時曰值ニタタル

值ハ其時節ニ出合タナリ

會ツ 義見于前適ハ一事上ニテフト出合タルコトニシテ會ハ兩事ノ出合ナリ

用援 適會閩越王弟餘善殺之以降タテ 屬適タテ

脫モク 脫者虞其出於格外之辞

脫ハ常ニハツレテカフ言フコトガアラハト云意ナリ

晉張明公脫未之思子 脫其不勝取笑於諸侯子

偶タク 不料而會之曰偶

偶ハ思ヒヨラズフトアリタルコトナリ

穢偶有金千斤進之左右以供芻秣ニ

遇タク 因タク 適タク 屬タク 並見于前

○抑或果苟 卽儻設試

カ音審身

抑ソモク

シカレト歎

抑者沮之而別設異見之辭

抑ハ揚ノ反ナリ上ニ言タル語ヲ抑ヘオキテサテオシカレシテ言フ

テ見ルニタカクイフ理ガアルト云意之抑ハ上ノ語ヲ反ス語ナル

論與之與抑求之與

有抑此皇父

此章首ニ上章ノ語ヲ承テ抑ト云々生リ発語ニハカラス

彌六鄧侯曰人將不食吾餘對曰若不從三臣抑社稷

實不血食抑字上ノ鄧侯ノ語ヲ承テ抑若不從三臣ノ意ナリ

或ワ

モアリ

語其有時殆將然曰或

有レノニ定ラヌヲ云モレクハト訓スルモタシカニ定リタルハアラ子庄時ニヨリテアルトキハト云意ナリ

莫之或止之字活

莫或之止或字活

未或之先未之或先

或者其君實甚

用累積皇紀或默或言馬

恐或或字上語

或恐或字下語ナリ

雖或或雖猶或

或有句頭複

果クワ

决致之其熟曰果

果ハ上ニ言フテアルコトヲ言フトオリニ埒ワチシツケルヲ云

果ハ多モノト訓ズ凡木ノ子

ヲ實トイフ既ニ熟シテ可食トヨ

果不用彼が用元

不果用我用元ヲセヌ

果如此矣必濟

苟如此矣

誠如此矣

ツケルナラハ

决其言言之熟曰果

勅吾

卷之下

十八

中庸果能此道矣雖愚必明此道ヲヨクスルヲ果スナラバ

僖二 晉侯在外十九年矣而果得晉國既往ヲウケテ

苟イヤレクモ 草次為之曰苟カリタモト訣ス

苟ハカリタニモカフシタラバト彼ニ向テ言聞ス辞ナリ

無苟死死スルヲマツ 苟無死先チカナレニ 不苟苟不モ死ハスニオレ 苟且ユレニ准ス

王風苟無飢渴曲臨財母苟得 不苟訾苟且

即シヨク 義見于前ガキ真コチテ見ル

苟ハ彼ニサセテニル即ハ我ヨリ其コトニナレテニル對ナレニ言フ 如若比較シテ其形色ヲ言フニナリ

秦策即天下有變王何以市楚也

儻モシク 俗作倘トモト訣ス 擬什佰中或一有偶然曰儻コヒチカクハ

儻ハ千ニツモ此コトガアルナラバニ傳儻所謂天道是邪非邪

設セツ 模稜而陳之曰設モシ

設ハ今ハナキコトナレモコシラヘテ言テ見ルニナリ

周策設以國為王扞秦而王無之扞也

試シ 使為之以量其能曰試コロシニ

試ハチヨット其コトヲシテ見ル平原雖然試言公之私

嘗コトニ見ミ于前マカ 覆フ子嘗コトニ試シ論シ之ヲ

○審就如若 縱借假譬

審シ其ノ或ハ然ル曰ク審ト

審ハ其委曲ヲ心ニカシガヘテミルナリ

傳ト審有内乱殺入怨對之端

就シ義見于前

就シ值其人猶非德選後漢霍就有所疑當求其便安廣傳

如シ義見于前

如有ラ見ミ之ヲ有ス如シトオリル

傳ト公叔病有如不可諱將奈社稷何

若シ義見于前

命ト說若歲大旱用汝為霖雨

若シ或ハ別ニ若ハアルニシテオキテ

或ハアルカナキカ定ラ子居アルナスバト

信照若子若孫若同產子

猶モ義見于前 則子弟猶歸器衣服裘車馬

則必獻其上而后敢服用其次

誠モシ 義見于前 復瀆如誠得水可令畝千石

モシト訓スル複用 若儻 脫若 若誠 如誠 誠即

第令 假令 向使 向若 假設 設為 設令

藉令 藉使 但令 但使 且誠 且如 譬使

假若 如使 即使 ミナ句頭複用

縱タトヒ 通作從 シム 縱者欲翻之而先設其當之辭

縱ハサハナラヌハツナレソレニシタトコロカナリ

二從其有皮丹漆若何 四莊 縱弗能死其又奚言

借モシ 去聲 藉同 シム 彼之所姑處可詰曰借

借ハコニテキコヲ外ヨリ取來リテ云

大雅 借曰未知亦既抱子 賈誼過 藉使子嬰有庸主之材

假モシ シム 我姑設之待其誅之曰假

假ハ真ノ反ニ實ハキヨチレカリニ斯云ナラバナリ 假ハ修

借假ハシメバナリ 借ハ修 借ハシム氏ナリ 借ハ修 借ハシム氏ナリ 借ハ修

傳 假令晏子而在余雖為之執鞭所忻慕焉

譬 タトハ

以此比彼之稱

譬ハ外ノコトヲタラズニ取テ言フナリ 縦借ノ類ニ非ス

南越傳成敗之轉譬若糾墨

○嚮匹使令 遣教俾致

嚮 タトヒ 通作鄉

橫其往之或處此曰嚮

嚮ハ既往ニムカフテ云 秦策向者遇桀紂則殺之矣

向者 サキニ 鄉也 サキニ 曩者 サキニ 日也 サキニ 往昔 サキニ 往者 サキニ

匹 タトヒ 冀比耦之曰匹

匹ハコレニ並ヘテ見ルナリ

匹如 匹ハタトヘルナリ如ヲ加レハ

正 タトヒ 見于前 傳 王莽 騶正有它心宜令州郡且慰安之

饒 タトヒ 縦而持之曰饒 任 タトヒ 見于前

タトヒト訓スル復用 縦使 縦令 縦遣 縦饒 就使

就令 借使 假如 假之 籍第 正使 正是

向使 鄉令 向者 借曰 雖使 雖令 郎雖

雖就 雖郎 只使 假而 柳文 出 ミチ句頭稜 用ノ例ナリ

使 レム ソフスルヤウニシテシムフ サセルト訣ス コフスルヤウニシテ 使者運動之之辭

使ハ我ヨリ指揮シテ彼ニカフサビル使介ノ使ヨリ
轉用シタルナリ

成十吾不獲鱗也使主社稷社稷コト使字ハ群臣ヨリ使主ノ使鱗也主
社稷トアレハ使字夫人我カシラ使主タル

禮聖王所以山者不使居川不使渚者居中原而弗敝

也不使字上ニアルハ彼ニ
カリ下ニアルハ我ニカル不使不使ハ不字我ニカリ使
字彼ニカル使不ハ使

使無 無使上ニ同シ

令平声令者抵致之之辞使ハ使ハ
令ハ用ニ

令ハ一ウクテ彼ニカフチラセルナリ号令ノ令ヨリ
轉用セルナリ

魏其寔灌夫頭令謝周令五家為比使之相保禮

世使吏送令歸家

遣シム遣者任委之之辞サセラルル
ヤラセラル

遣ハ指揮ヲナサズヤリ放シテ彼ニニサセルツカワスト訓シテ
出ル処ヲ見テ

淮陰乃遣張良往立信為齊王侯傳

教カフ教者指揮之之辞遣ハ使ニイフ
教ハ用ニイフ

教ハ我ヨリ指揮スルニイフ之陰ニテヒツカニスル意アリ

韓非進則教良民為姦退則令善人有禍

信子子金教之言曰覆勸高教令人言變事用傳

力吾聖賢 卷之下 二十三

俾シム

ワケルヤウニシテユク
マセテユクニシテユク
ソウニヤウニシテユク

俾者引此以及彼之辞俾ハ来ニ属ス

俾ハ畢竟サフチラセテナリ

古ヨリ俾字ナルコト云テソレヲツカフテ遠キニ及ハセ凡意味ナリクニ処ニイタラシムルナリ

引ヨセテシムルキニアリ
將來ニテラセルナリ

衛俾也可忘

秦違之俾不通

致シム

來彼於此曰致

致ハ段ヲコヘテ至ルヲ云

複秦紀遂致使御而妻之

シムト訓スル複用

使令 俾令 教令 致令 致使

シト句頭複用
ノ例ニテ見ルヘシ

○拜俾作為 庶幾上冀

拜シム

拜者見使之之神用之辞

拜ハ使字ノ用ヲ云ナリ

小雅拜云不逮

俾シム

俾者拜之深也

俾ハ拜ト同義ニシテ小重

拜ハ清音俾ハ次清音凡字音清モノハ意淺ク濁ル者ハ意深重ナリト知ルヘシ

洛誥予齊百工俾從王于周

作ナシム

興以從事曰作

作ハ其事ヲシオコスナリ体ニ属ス

ナスト訓スルモ同意ナリ

助語審象

卷之下

二十四

周會同朝覲作大夫命儀作上耦射

舜伯禹作司空文樂豫為司馬
作ハ外ヨリイフ 為ハ其人ニテリイフ

為イ タリス 平声 動以致用曰為ト

為ハ其コラナレテ居ルナリ用ニ属ス

晉語為後世之見之也注為使也按スル此章注ニ從テト訓スレ

莊子與人為妻寧為夫子妾人ニ求ラレテツマトセラレヨリハ 我ヨリ奔テ夫子ノ妾トナラレ

成二范文子後入武子曰無為吾望爾也乎無為フカヒ ナクト詠ス

母為アオキナシ 無狀アオキナシ

庶シヨ コヒ子ガハクハ 殆將与彼匹曰庶ナラヌト詠ス

庶ハ同シモノニナラズトスル庶モロクト訓スルトキモイロク品ハカワリテ アリテモ大抵ヒト少位ノモノト云義ナリ

傳五 庶有益乎晋書 礼志 敢庶兹乎

幾キ コヒ子ガハクハ 平声 其將洎之所關係曰幾ナリカルト詠ス

幾チカ、ラシコヒ子ガワハト訓スル平声ニテサナリカツテアルグ
アヒノ所ノ神用ヲ云ナリ 易ノ見幾而作
ノ幾字ナリ

疏廣傳子孫幾及君時頗立産業基址

復周頌 庶幾夙夜以永終譽夙夜ノ字 上ノ文ニカハル 夙夜庶幾夙夜ノ字 下ノ文ニ係ル

力吾家象 卷之下 二十五

上キ コ子カワク 尚同 マダト訣ス 尚義見于前

魏クハ 上慎旃哉 復後漢明用帝紀 儻コヒ子カワク 尚可救フ

冀キ コヒ子カワク コヒ子ト訣ス 用意俟其若寔之稱

冀キ 武帝紀 冀遇蓬萊

沆キ コ子カワク 見于前 ホトト訓ル上同意ナリ 雅沆可小康ス

○許頃所可 空虛姑薄

許キ ガカリ 斥其所位ス 付度之日許ト

許ハ其程ノシカト定ラヌヲ云

百許里 彼ノ体 百里許 我イ計

古河漢清且淺相去詎幾許 許多 若干 若字ノ

頃 ハカリ ヨドトト訣ス 畫其間計量之日頃

頃ハバラ多經タル間ヲ云久ノ反ナリ 食頃 食スル

所 ハカリ ソレホドノハシヨト云ナリ 義見于前

留侯父去里所復還 倉ム 傳受讀解驗之可一年所

可 ハカリ ホド 義見于前

大宛去漢可萬里 所ハ明界ハシヨヲ立スイフ 頃ハ多ホドノ間ヲイフ 可ハ幽界ニテ思ヒヤリテイフ 許ハ多クテホドノ間ヲイフ

可字ハ上ニオク所頃ハ下ニオク
許ハ上ニモ下ニモオクナリ

如ハカリ 見テ于前
ゴトシト訓スルト同意ナリ

孟嘗ハカリ 君傳出如食頃

空クウ 見テ于前
スカト訓ス

無所捉搦スル 曰空

空ハトラニヘ処ナキヲ云

田廣テ 明傳引軍空還

虚キョ 見テ于前
虚ハ用 虚ハ体
枵濶無見存曰虚

虚ハ實ナキヲ云
虚ハ用 虚ハ体

徒ト 見テ于前
イタヅラニテ意ナリ
素ソ 見テ于前
齊師徒歸

徒ト 見テ于前
イタヅラニテ意ナリ
十五 齊師徒歸

姑コ 苟且待之曰姑

姑ハマアクニオツト間ト云意ナリ

僖キ 姑少待我テ 南我姑酌彼金罍ヲ

薄ハク 前後相逼之間曰薄
イサカ
召薄言還歸

薄ハ今レバシト云キミナリ
南薄言還歸

少セウ 見テ于前
僖キ 輔之以晋可以少安カル

間カン 有間クニ 少焉シウ 少選シウ

頃之クニ 暫而シテ 暫ハ目ノ前ノ明
界ライイフ字ナリ

カ吾...

...

○凡最率槩 抵歸類約

凡オヨソ スベテ オシテト訣ス 輯ヌテ 其所ラ 統平ル 之日ニ 凡ト

凡ハ 一ト 通リ 之ノ 処ヲ ヲセテイフナリ 凡庸ノ凡ヨリ

子鬼谷 為メ 人ノ 凡ニ 謀ル 有ル 道ノ 凡字謀ノ一字ニニカル 凡ニ 為メ 人ノ 謀ル 有ル 道ノ 凡ノ字ヒコクスベテ人ノ為

係ニスル ル ニ

最サイ スベテ オヨソ 義見于前

傳衛善 最大將軍青凡七出擊匈奴 複西域スベテ 用傳最 凡國五十

連レ オヨソ 見于前 タミカサ子テト訣ス 列オヨソ 連レ 於形物亦然

應イヨ オヨソ 見于前 ナレベヨリ轉シタルナリ 應宗室賜名唐職

百ハク オヨソ ソウタイ カズノソロフタル云 百爾 凡百

率リツ オホム子 入声 度其大節均之日率 律ト同音

率ハ 大ツ 子チ ノトコ ヲロ ナリ

傳貨殖 食租稅歲率戶二百 複 大抵率寓言也

槩ガイ オホム子 又作概 ナラシト訣ス 量其所出入略之日槩 槩ハオホ

槩ハ マスカケノコニ 因テ打ナラシタル処ヲ 槩ト 推其所頤當充之日抵

抵チ 底底同 オホカタト訣ス

示其無遺 漏之辭

抵ハ大カタミラコト、推ハカリテ云之抵ト率トハ彼ニツキテイフ

叔孫通傳頗有所増並減損大抵皆襲秦故槩ハ我ヨリナラシテミテイフ

歸オホム子 趣向本處曰歸ト

歸ハ其主意ノアル処ヲ云ナリ

王莽傳大歸言莽當代漢有天下一

オホヨソト訓スル類 大凡オホヨソ 大要オホ 大略オホ 大較オホ 大計オホ

オホム子ト訓スル類 大率オホ 大槩オホ 大抵オホ 大底オホ 大氏オホ

大歸オホ 大都オホ 大約オホ 大梗オホ 大要オホ オホフソト云詞ハミナナ事ト云ニナカケテ檢ス用ナリ

オホム子ト云詞ハミナナ意思旨ニカケテ檢ス用ナリ

類オホム子 區別於域中曰類ト

類ハワカレアリテモ外ニハナラヌヲ云

酷吏傳大抵吏之治類多成由等矣 類舉 類皆

約オホム子 大オホリトオホ 占其括要曰約ト

約ハタリヨセルヲ云 抱朴鍊金内清酒中約二百過

致オホム子 較オホム子 オホム子 並見于前一

○慮諸統合 總切粗略

カ語...

慮 リヨ スベテ

悉匯之我所億念曰慮

慮ハコラス我工夫中へ引入テ見ル

無慮ハアミリ多クテ工夫ノトク カ又処ヲ云無字無数ノ無ト同シ

賈誼傳 慮不動於耳目

食貨志

天下大抵無慮皆鑄金錢矣 七慮

荀子 焉慮率用賞慶刑罰勢詐除扼其下獲其功用而已矣

諸 シヨ オヨク モロク

イロト誤ス

連其所各列曰諸

諸ハイロクアルヲ集メテ云

尉繚子 諸去大軍爲前禦之備者

統 トウ スベテ

以一管衆曰統

統ハトツニシテイフ

通統舊國五新國ニ凡八大國

合 ガフ スベテ

此ニ彼ヲアヘテトツニスルナリ

義見于前

合ハイタツモアルニシテソレヲ合セルナリ

三皇本紀 凡一百五十世合四萬五千六百年

都 ト スベテ 義見于前

子列都無所愛惜 スル

渾 コン スベテ

ヒトマルメト誤ス

殊 シ スベテ

見于前

總 ソウ スベテ

シメテ誤ス

輯而括之曰總

總ハフサト云字ニテ其本ヲクワリタル意ナリ

切モロク 去声音切
モサテト誤ス籠掩衆多ヲ切

切ハモロクヲコメテ云
李斯請一切逐客傳

粗ホツ 又作猶麤
率然未及粹密曰粗

粗ハ一事ノ上ニテソサウナルヲ云精之反ナリ

司馬相如傳請為大夫麤陳其略

略リヤク ホシ
簡乎遺其縷曲曰畧

略ハ數アル中ニテ取シテ云詳之反ナリ
粗ハ用畧畧體

張蒼傳略是紀征和以來子荀大略君人者隆礼尊賢

○幾豈巨寧 孰疇誰各

幾キ イクハク アニ 上声
所籌難直斥曰幾

幾イクハクト訓スルトキハ上声ニテ數ノシカト定ラヌ処ヲサス

幾何 幾多 幾許 幾詎 詎幾 幾所

北史盧玄傳樂為此者詎幾人也

幾アト訓スルトキハ豈ト音近シテ通シタルナリ

子荀幾直夫芻豢之縣糟糠爾哉

豈キ アニ
豈者檢詰以反覆之之辞

助吾審象

豈ハカダデアル云テモドフデカフデハアルイト云意ナリ覬覦
シテ其^{キズ}擧^ズヲ伺ヒ指ス意味ナリ豈ハイツニテモ相手ヲトリ
テ論シ詰ル辞ナリ

豈然^{然ル}云人ヲ立テ 豈可得乎^{可得ト云人ヲ立}

十五 襄^ニ亦唯天所授豈必晋^{レモトシヤ} 九 昭^ニ文之伯也豈能改物^{キヤ}

已上ハ豈字ヲ 用ル正法ナリ 桓^十夫豈不知楚師之盡行也

成^ニ豈無備而能出君乎 蔡^沢豈非士之願與

五 僖^ハ晋吾宗也豈害我哉 游^俠豈非人之所謂賢豪間者邪

ヨモヤ
モシヤ

已上句尾ナル也乎与哉邪ナドノ字ヲハナシテ文義ヲ見ル
ベシ其スナワケニ也字ヲ加ヘ人ニ云カケルニテ乎字ヲ加ヘ向フニ
委^子子テ与字ヲ加ヘツヨク云タメニ
哉字ヲ加ヘ疑フテ邪字ヲ加ヘタル

魏^其太后豈以為臣有愛不相魏其^{トトセ} 鼂^錯变古乱常不死

則亡豈錯等謂邪 曹^參豈少朕與 范^雎孺子豈有客

習於相君者哉 已上ハ反語ニアラスコレハ臣有愛不相魏其
トヲモヘルカヨモヤサステハアルマイケレド云意

ニテ豈字ヲ置タルナリ錯等謂テハアルマイケレド云テ
邪字ニテニタリ返タルナリ餘ハコレニ准シテ推スベシ

巨^{キヨ}アニ 渠同 渠者詰彼^テ斥其所程^ラ分之辞

渠ハ彼ヲ輕シテコレ程ノ者トコナレテ言フナリ

高祖紀 公巨能入乎 漢孫渠有其人乎

寧 ムシロ イツクテ 寧者較以就所靖焉之辞

寧ハヤスズト訓シテ先ノクカナリニソレヘ落ツクナリムシロ

ト訓ズルモ先カナリニ其方ヘツク意ナリ人ニ云カケル詞ノ

時ハカナリニ其方ヘセラルヤト云意ナリ

寧ト豈トノ別ハ豈ハ歎ヲトリテ論シタタル辞ニテ辞緊シ 寧ハ心ノ上ニテコノ地位ニ落ツカルヤ落ツカレヌヤト應ト言ヒタルニテ辞軟ナリ

昭十 子寧以他規我 襄二 寧僭無濫

已上ハ寧字ノ正法ナリ一々寧ハ反語ニ非レ下ニ平邪ナドノ字ノレバ語勢ニテ反語トナルナリ

魏其傳 帝寧能為石人邪 淮南傳 吾寧能北面臣事堅子乎

コノ類ハソレニ落ツカルヤト云カケタルニテ落ツカレヌト云意ニモトルナリ

無寧 ムシロ云云スルナカランヤ 毋寧 不寧 並ニ上ニ准

一 隱十 無寧茲許公復奉其社稷 十 賓至如歸無寧蓄患

十一 先君而有知也毋寧蓄患

元 昭 不寧唯是又使圍蒙其先君

二 成 寧不亦淫從其欲以怒叔父 コノ六不亦上二字ツギキタル語上ナリニ寧ハ一字ハナシテ見ルヘシ

無乃 乃云云ナルナカランヤ 毋乃 同上

元昭其無乃是也乎 昭無乃戾也

昭無乃允諸 欲封禪母乃不可乎

莊無乃稱 意ナリ旧説ニ終スルナカレト説クハ非ナリ

孰 孰ハドブレタワケノモガト其用ヲ問フ辞ナリ 誰ハ体 孰ハ用

孰知之 孰其 其孰 孰大焉 孰大焉 孰大焉

孰知之 孰其 其孰 孰大焉 孰大焉 孰大焉

孰大焉 孰大焉 孰大焉

論却強秦而全魏功孰大者 孰大焉 孰大焉

イツレト訓スル類 孰與 孰如 孰若 何與

曷若 曷如 奚與 孰與 孰與 孰與

建章甘泉館御列仙孰與靈臺明堂統和天人

孰 孰タレカ 孰タリ 討其所畦分日疇

疇ハ多クノワカレテアルモノヲ指スナリ

孰敢不祗若王之休命

誰 誰タレ 誰人カナリ 未審其人之為某之稱

誰何 誰奈 誰與

與誰モトタレト其誰令聽之タレト其人令誰聽之タレト其人

各カク各自手ニク自各韓文各各疊用物件皆異其所主之稱

○詐矣那奈 奚局何胡

傳大宛令外國客徧觀各倉庫府藏之積

詐キヨ詐ナシ詐タレカ通作渠巨遠ドロク井上擬斥其所程分日詐

復用列ナシ巨ナシ奚憂焉傳何渠不若漢張儀蘇君在儀寧詐

能乎趙世由此觀之何遠不為福乎

侯コウ侯ナシ侯ナシ侯義見于前

那ナ那ナシ那ナシ那義見于前

宣セン宣ナシ宣ナシ宣ナシ宣ナシ

奈ナイ奈ナシ奈ナシ奈ナシ奈ナシ

那者詔彼之失所之辭

那者詔彼之失所之辭

那者詔彼之失所之辭

那者詔彼之失所之辭

那者詔彼之失所之辭

那者詔彼之失所之辭

那者詔彼之失所之辭

那者詔彼之失所之辭

那者詔彼之失所之辭

奈ハセシ方ナキヲナゲク辞ナリ 那ハ彼ニシテ云 奈ハ我ニシテ云

奈 二字ニバ我心ニドフモ シヨガナイト嘆クナリ 奈何 何字ヲ付レハドフモシヨガナイ ト云フ人ニ云聞ハ意

無奈之何 相ダシレヨフモナイ 争奈 ヨフハナイ

詔嗚呼曷其奈何弗敬 敬ヨリ外ニ 王傳不可奈何願陛下

自寛 モヨ 莊奈何哉其相物也 ドフデアキハセヌ

奚 ナシク 奚者探其出自之原之辞 ト云ハセヌ

奚ハドウ云処カラ出テキテト其根モトヲ推テ問フナリ

管太山之阿奚有於深 深ト云ハキト 根ヲオシテ云 何有於我 アリハセヌト

韓此道奚出 全 法術之士奚道得進 道奚ハ奚字イヅトモ 定ヌモノニオキテソ

曷 ナシク 曷者懼其必難然詰之之辞 ト云ハセヌ

曷ハカスルニトフレト道理ヲツメテイマシツカト待ワヒル意アリ

昭吾子其曷歸 子孟 荀彼固曷足稱乎大君子之門哉

害 イツカ 害喪 周害濟害否

曷 イツカ 曷日 曷時 久如 早晚 幾時

何 ナシク 何者告己未有定見之辞 ト云ハセヌ

カ 語 集 卷 之 二

何ハトカク入クミアリテワク知レ又所ヲ問フナリ

謂何何トモ言ヤウガナイ又何謂何トイフケ由何ナニトニ

何由ニシ以何オモゴトラ何以ナニデ何用ナニ

何所用之用ダツバシヨ

譜荀息謂何東方歸遺細君亦何仁也

傳將軍而不知人何乃家監マ何曾ツ曷嘗ツ

何也 何乎 何哉 何耶 何歟也乎等ノ別

者何ナニ

イカト訓スル類

如何イカ、イタサ何如ドイフコト

若何イカニナル何若イカニオホシマシ

如之何ソレドイフ若之何ソレドイフ

戲場タトハハ見ニ行クハヨキカヨカラサルカト問フハ何如ナリ

公曰易牙如何易牙ヲ相ニスル家世孝惠曰曹參何如曹

齊世 家 傳 具起何如人哉

ノ人カラ相ニヨカラ

十三 吾子取其麋鹿以問敝邑若何

韓詩外傳 武王曰然何若矣イカノリヤ 定晉五伐我病何如矣

奚如ソノ根ハイカナルモソ 奚若ソノ根ハイカトセラルゾ 奚何根カ 云胡カフイフニ

曷若ドレセ 胡如ウロシカ 云何カフイフニ 耐何奈何ト

而何イカバ 何似イカニ 豈奈韓愈ガ詩ニ見ニ 何如イカニ 難為イカニセン

莊子 以夫子之行為奚如ヲ 檀弓 欲暴尅而奚若トスル

鄭既見君子云胡不夷魏 吾為子殺之亡之胡如策

周云何吁矣昭 牛謂叔孫見仲而何注ニ而何如何ヲ同フスルハ粗ナリ

唐書 事已爾未耐何ス

胡ナツ 胡者勅其蒙昧未判之辭ナセト訣ス

胡ハウ ンニテ分カラヌガテラユカヌ所ヲ指スナリ

何ト 胡ト 別ハ胡ト 來カ往カノ所ニ用ユ何ト ハ方今ノ処ニ用ユ

管子 胡謂也ワケノワカラヌヲツメルナリ 何謂也ワケノシラヌヲ問フナリ

雅 胡不萬年五 桓十 父一而已胡可比也

胡ハ 雅 胡寧忍子ナ 胡為平ナセニ 曷為ナト 何為ナ

奚為ドレニイフ処カラ出テセラレゾ 曷ナ 奚カフアルニトシテトコロト

○盍闔遐庸 焉安惡烏

盍 カ ナラセザル

カスルカニテ 盍者勸彼之宜爾之辭

盍ハカフスルガヨイト其ツリヲ言聞ス辭ナリ闔ハ義ヨリ出タルナリ何不二字ヲ輕ク軟ニ云タルアバイナリ

盍 カフスルガヨイ

何不 カセカフセヌツ

胡不 カセカフセラレマイク

奚不 カセカフセヌツ

曷不 カセカフセヌツ

億子盍蚤自貳焉

闔 カ ナラセザル

闔與盍同

用復 莊子闔胡嘗視其良

子闔不起為寡人壽乎

遐 カ ナラセ

遐者詰遠遠難度之辭

遐ハ遠クテ分ラヌ処ヲ詰ルナリ

遐何音近ケレハ遐ハ外開何ハ内開合ニ來往別ナリ

小樂只君子遐不眉壽

鄭風不瑕有害ノ瑕字旧說ニ遐ト通ス非ナリ今不取

庸 イダシ

義見于前

庸者受彼以詰有所造之辭

庸容ト通シテ上ニ置ク時ハソノコトヲ云ルヤ元サハセマイト云フニテ反語トナレナリ

家 此天所置庸可殺乎

昭其庸有報志

用復 昭庸何傷

猶女庸安知吾不得之桑落之下

子莊庸詎可乎

焉イックシジ ハシナイ

トコニカガアルイハナイ ハシナイ 焉者提其地位以覆之之辞反辞

焉ハ語尾ニ凡時ハソレトコロニト地位ヨスエルナリソレヲ語頭ニ
オケバ云云ノ一ニ地位ガスエラルヤト云カケタルニテスワリハセス
ト云立意ヲ持テ反語トナルナリ

凡ナシト云詞ハ問フ辞ナリ イックシジト云詞ハ答ル辞ナリ
イックシジハイツニテモ相手ヲ持テ論ツメル程ノ意味ナリ

襄ニ父戮子居君焉用之

襄ニ朝者曰公焉在居ナイデハナ

安ア イックシカ

平声 ワケハナイ トナシ ドコヲカト訊ス

安者詰彼其所奠地位之辞

安ハドコヲニカトサガス意ナリコノ地位ニ安ニセラルヤト云カケ

タルニテ安ニセラレハセヌト云義ニ還ルナリ

焉ハ上悪ハ用ナリ
安ハ体ナリ

安在哉

トコヲアラル

焉在

不在ト思

何在

アルトコロ
ガワカラヌ

韓今吾安居而可

全然則寡人安所太仁安不忍人

傳醜言喪事縱跡安起

惡

イックシジ

平声 デキルモノカ

ドコニテト訊ス

惡者蔑視以壓之之辞

惡ハドコニテアレガサフナラフツトコナシテ云フ辞ナリ

焉惡別ハ焉ハ相手ヲ持テ受テ論スル辞ナリ
惡ハ論スルニ及ハス我ヨリコナシテ云フ辞ナリ

聖爾幼惡識國六 禮無天地惡生無先祖惡出二

鳥フ イツシ ナトシテ誤 鳥者嘆其懸遠邈絕之辞ナカク

鳥ハ中ノナトシテ其段テハオト嘆シテイフ辞ナリ說文鳥 呼也

司馬相 如傳 使者曰鳥謂此邪 一 鳥有先生

○嗟噫嘻戲 唉歎嗚呼

嗟サ コトト誤 嗟者感發之聲

嗟ハコトト感心シテイフ辞之喜賞ニモ悲嘆ニモ用ユ

嗟夫發語ニ用 嗟乎乎ハ人ニ 云カケル

周南嗟我懷人用 疊商頌嗟嗟烈祖

噫イ ア 平声於宜切 噫者憤激之聲去声時ハ鳥解 切ニ噫氣ナリ

噫ハ抑鬱シテ通シガタキ時ノイキレオリノ辞ナリ

論語 噫天喪予梁鴻五 噫歌 陟彼北芒兮噫

意イ ア 平声於宜切 于意毒哉

嘻キ ア 平声於宜切 嘻者銘刻之聲

嘻ハ心肝ニ徹シテ腹ノ底ヨリ出ル声ナリ笑嘻々トモ 泣嘻々モ

公羊慶父聞之曰嘻 班讒善哉技蓋至此乎

羨^ニ喜^ニ喜^ニ出^出

戲^キ ア、 噉^同 クダルト誤 噉者^欬欬^之聲

噉^ハ敬^驚惋^シテ思^ヒガケ^ク出^ル声^{ナリ}悲^喜共^ニ用^ユ

唉^イ 平声 チイ下誤 唉者^怨怨^患之^聲

唉^ハ恨^ニ詈^ル声^ニ 王剪牙欬ノ欬ハ當作唉ナリ

子^莊唉^我知^之將^語若^ノ 項羽本紀 唉^豎子^不足^與謀^ニ

欬^イ 去声 欬者^懊懊^懷之^聲

欬^ハ愁^ハ歎^ク声^ニ 欬平声ノ時ハ唉ト同シ去声ノ時ハ歎声ナリ字彙ノ注ハ混シテ別ナシ用ユヘカラズ

楚詞^九章 欬^秋冬^之緒^風

欬寒暑トモニ韻文ノ外ニハ用カズ

嗚^フ 鳥同 嗚者^憂歎^之聲

嗚^ハ幽^界ニ^テ目^ニ見^ヘ又^遙遠^キ處^ハ心^ヲ想^ヤリ^テ歎

夕^辭ナリ^憂悲^ニ用^ユ

呼^フ 又作嘯 通作庫 呼者^喚發^之聲

呼^ハヨヒ^カケル^{ナリ}怒^ニモ^畏ニ^モ用^ユ 嗚呼ト複用スルトキハ憂悲ニ用ユ

元^文呼^役夫^怒 檀曾^子聞^之瞿^然曰^呼 畏レテ

叱^啞寒^羌 嘆^咨都^吁

力吾審録 卷之十

四十一

叱シツア、
叱者呵咤之聲

叱シツハシ方ハルル辞ジナリ
趙叱チツ嗟サ而ニ母ハ婢ハ也

啞アア、
啞者暗諤之聲

啞アハ出デカカススルル声シナリ
鴉字ト同音ニテカラスノ如ク只アノト云声ナリ

韓ハ啞ア是シ非ヒ君クニ人ニ者ノ之ニ言ハ也

謇ケンア、
謇者礙訥之聲

謇ケンハトモル声ナリ
蹇謇ケンケン朝チウ諄チン而ニ夕シツ替ヘル

羌カウア、
羌者努強之聲

羌カウハツトメテキハル声
楚羌チウカウ中チュウ道ドウ而ニ改カ路ロ

慶カウア、
慶カウ天テン悴ツイ而ニ喪サウ榮エイ

嘆カンア、
嘆者咳渴之聲

嘆カンハ老人ノシハガレタル声ナリ

咨シア、
帝テイ下ゲ車シャ泣キ曰イハレ嘆カン大ダイ姉シ何ナニ藏カウ之ノ深シ也

咨シ者託囑之聲

咨シハ我心ヲ向フツケテ問フ意ナリ
堯咨ヤウシ四岳

嗟サア、
嗟者趙嗟サ乎

カウ

シ

都ア、ソレソト誤ス 都者翕思之聲

都ハ向フト心ノ相合タル処ニ用ユ 皇陶ハ都亦行有九德 護

吁ア、イハヤ ナリトト誤ス 吁者蘊念之聲

吁ハサリトト一思案シテイフ辞ナリ

堯ハ吁ハ嚚ハ訟ハ可ハ乎ハ 蔡ハ誤ハ傳ハ吁ハ君ハ何ハ見ハ之ハ晚ハ也ハキ

ア、ト訓スル類 數多キニ標目ニ畧ス

於ア、見ハ于ハ前ハ 堯ハ於ハ鯨ハ哉ハ 陸氏音鳥然ハ於ハ鳥用ハヒ処ハ 典ハ於ハ鯨ハ哉ハ 同ハカラスヤリ如字ニシテ可ハシ

猗ア、見ハ于ハ前ハ 子ハ我ハ猶ハ為ハ人ハ猗ハ 子ハ我ハ猶ハ為ハ人ハ猗ハ

繫ア、見ハ于ハ前ハ 襄ハ繫ハ伯舅是頼ハ 四

憖ア、見ハ于ハ前ハ 昭ハ憖ハ使ハ吾君聞ハ以為ハ快ハ 十

惡ア、見ハ于ハ前ハ 平声トフシテ拒ハ公ハ辞ハ 子ハ惡ハ惡ハ可ハシ

猷ア、見ハ于ハ前ハ 周ハ猷ハ殷ハ王ハ元ハ子ハ 書

啞ア、見ハ于ハ前ハ 氣ハノ結ハホレテ出ハルハ声ハナリ

啞ア、鄭重之聲 嘖ア、愠拂之聲 音希イヤニオモフ辞ナリ

哀ア、心ノ内ハカセシムナリ 諛ア、憎疾之聲

噓ア、息ヲ吹クナリ 詩ハ噓ハ噓ハ噓ハ危ハ乎ハ高ハ哉ハ 李ハ白ハ詩

用複嗟乎傳嗟乎有故也

噫乎河渠噫乎何以禦水

噫嘻魯仲連傳噫嘻亦太甚矣

於戲周於戲前王不忘

嗚呼檀弓嗚呼哀哉尼父

烏乎嗚乎嗚呼烏呼嗚呼同

於乎陸氏音嗚呼然於乎於乎義於乎見

雅於乎小子

咨乎傳咨乎不憂哉

猗歟頌猗與那與

于嗟周于嗟麟兮

于嗟乎南于嗟乎騶虞

于嗟齊猗嗟昌兮

俗語助字

俗語助字

コノ下ニ載ル所ノ助字ハ小説俗語ノ字ニテ雅文ニ入
ベカラス勿論皆出ル所ニテ小説ノイハレハ舉引スニ及
ハズ只二三ノ熟語ヲ録シ俗譯ヲ附シテ初學ニ示ス

○馨麼地阿 頭邊許價

馨古文ノ兮字ト同意ナリ兮字下

正自爾馨余リト云テ語ニ寧馨兒コノヨリナ兒ト云フニテコノ

メタルナリ又コノヨリナアレキ
兒ト云フニモ用ユ

麼イナヤ 平声 文系シダレテアリテ定ラヌ意ナリ 古文ノ耶字ノ意ト近シ

麼樣好ドノヨラニシテヨカラシ 什麼ナゾ 作麼ハ上声ナリ

地ハシヨト 一昧地ハサン 一地里ヒトミクリ

特地タク 颯地タク 田地ハシヨ 刻地見テ丸 立地タチド

拖拖地引ハル 撲喇喇地タラタラ 撲地ハタト 隱隱地カスカ

阿ハシ 物名ヲ喚フ時發声ニ阿ヲ加フル詞ニユトク付

阿堵物コノ 阿正サク 阿姐アジ 阿哥アゴ 阿主アヌ

阿老アライ 阿蒙アモ

頭カサ 向ムカフタル所ヲ云 古文ノ加ニ字ノ意ト近シ

臨頭トキ 興頭イサレ 劈頭ツキカ 空頭スカ 一頭カダテニハ

二婚頭ニトヨ 裏頭ウチ 探頭ウチ 當頭トモ

邊ヘリ 旁ソノ 邊ヘリ

這邊那邊コノモカ 旁邊ソノヘリ

許カノ 渠トモ 其程ソノ ラアテカフテ云意ナリ

諸許モロク 裏許ウチ 多許バカ 許久ヒサ 許儂ワ

縦許 タトヒ 何許 イカバカリ

價 カ ホー、誤ス

天價哭 天ホドニ 地價哭 地ホトニ 山價海價 山ホドニ 海ホドニ

○恁儘做慣 件色上下

恁 カク、 カヨフト誤ス 恁地 ホリト 恁兒 同上

恁麼 シテ 恁樣人 コソヨフ 恁地時 トキ

儘 タトヒ、 盡同 ナンボフモト誤ス ミナ

儘力 チカラ 儘道 タトヒ 盡道 タトヒ 儘着 タトヒ

做 ウ 女 ニスルト誤ス

看做 ミナス 做主 サシテ 做家 シツ 做一家 オカ

慣 ナラフ ナラフ ナレニルト誤ス 慣看 ミナレル

件 ケン シテト誤ス

兩件 シタ 一件 ヒト 那件那色 ナレテモ

色 シヨク 其シテ コト 狀云 件ハ体 本色 モナ 名色 イロシナ

上 ウ 其事ヲ重シ フシ テイフ意ナリ

看上 ミミコ 添上 ス 一頂 ラ一 段 シ 晚上 バシ 個頭上 コト

下カ去声 其事ヲモレテイフ意ノ 刻下イマ 調下ナケル

勾下ケル 排下ベラ 頓下アケル 當下トキ

○等底怎甚 那他這箇

等トウ 是何等劔也コノ等字ハイカバカリト其位地

等間 等怎イカ 用等テラ

底ナニ 底事トモ 到底ドコ

是底言 這箇靈活底コノイキテハタラクホ

怎イカ 古文ノ如何イカニバシヨナリ

怎地ドコ 怎生同上 怎奈同上 怎様同上

争ソウ 古文ノ奈何イカニバシヨ 争奈ドコ 争如 争若

甚シ ソノ奥ヲヒドフ問フ意ナリ

甚頃間 甚不庭乎荘子ニアレバ其他古ハ用タルコトナシ 後世ニナリテ俗語ニ用ルナリ

甚麼事ナニゴト 說甚ナニヲ

那ナニ 又作哪ナニ ドラシタト訳スカント訓スル時古文ノ伊字ノ

那箇ナニ 那道ナニ 阿那ナニ

那事テ 那里カシコ 那裏シタ

他タ 平声 他ミツカラ 自ニ 對シ イフ 語ク 他家カ 他們カシラ

這チ コノ 者ト 通ス 其コヲ主ニシ 唐コノ 這賊誤我

這為コノタヒ 這遭コノタヒ 這遍コノタヒ 這等ラハ 這頂コノ

箇カ コノ 個ト 同ツ 誤ス ヒトツ 逐個ヒトリ 則箇カフセヨ

若箇ワコバク 箇裡ウチ 一箇箇ヒトリ 真個ホシ 者箇コノ

○可該是也 解險然些

可カ ベシ 前ニ 出 可カ ツテ 可カ ツテ 可カ ツテ 可カ ツテ 耐ヤ 可カ ツテ ナラヌ

小可コ 寧可ヨレサラバ 可中コノウチ 若可ワコバク 若柯

則可カフセヨ 可下個客店

該カイ ベシ 古文ノ宜字ノバシヨニ用ユ

該是ツ 該當同上 應該同上 合該同上

是コ 前ニ 出 正是イカ 終是デトフ 更是ベツ

可是イカ 寧是イツツノコニ 莫是イカ

也マタ マタ 畢竟ソノ スチナルト云意ナリ 詩經ノ俾也

上法ナレトマタト訓スヘキ意持アリ
コレ也ヲマタト訓スル根源ナルヘシ

放シム 古文遣字ハシヨニ用イヨク 容シム ヲリ轉シテ 許ヨク ス意シ

漫マナリ タワイナシト訣ス

孟浪マナリ 浪孟同上 孟八郎マナチ

謾マナリ 漫同マナリ 忽謾マナリ 漫祖マナリ

不フ 不字俗語ニハ反語ニナルヲ多シ

不分マナリ 分マナリ 忿マナリ 通マナリ 好不大執マナリ テマナリ タマナリ ラマナリ スマナリ

休マナリ ヤメヨト云意ナリ 休道マナリ 休論マナリ

漫マナリ カケテ見エテ現ノ反ナリ 古文ニモ漫マナリ 勿ト通ス

没巴鼻マナリ 没交渉マナリ 没奈何マナリ

没主張マナリ 没肚子マナリ 没撩没乱マナリ

没多時マナリ 没天理マナリ 没道理マナリ

莫マナリ 莫ハナカラシヤト訓シテナカラシヤ有ルマイモバテモナイ

ト云義ヨリ轉シテナカレト訓スルナリ 有マイモデモナイ用心ヲモヨト云ナリ禁止ノ辞ニ非ス

莫道マナリ 莫非マナリ

○來去除只 說道得着

來マナリ 百來里マナリ 鳩來マナリ

聿來 同上 向來 同上 却來 却後モ同 適來 イタ

原來 サス 又來 モヤ 一來 ニハツ 總來 スベテ

去 キ テト訣ス 老去 オヒ 醉去 テヒ 做去 テヒ

除 ビ ゼヒテト訣ス

除却 除非ノ意ニテニ字ニテタミト訓スルナリ

只 レ 前ニ出 只管 ヒタ 只顧 同上 只麼 同上

只是 シカ 只好 同上 只索 イソソ

說 ナラフ ナラト訓ス也 斯ノ畧ナリ

聞說 見說 言說 聞道 見道 言道 モ同シ

道 ナラフ 說ト同ニバシヨニ用ユ イフト訓スルヨリ

那道 シドフ 難道 モ同 知道 怪道

得 ト タリト訣ス 拵得 思ヒキツタリ 了得 シヒラ

看得 トル 會得 コム 認得 シサヒ 帝得 アキスル

着 グシム アテルト訣ス 情着 情カ動 撞着 ユキ

乱着 イソカシラ 托着 カス 為着 タメ 背着 ハケ

朝着 向フ 着急 コト急 推着 キバ 安排着 サシツ

的^レ之^ノ如^シ者^ノ如^シ

○恰纜剛的 殺生樣脚

恰^{カフ} ^{アタカモ} 其程位^ニヲ形貌^シテ云^{ナリ} ^{ハ用^{ナリ}} 恰^ハ体^{ナリ}

恰好^{ホド} 恰似^{イハ} 恰纜^ニ

纜^{サイ} ^{チヨトデモ} ヲ^クニ^ト誤^ス 方^ハ纜^{ヨク} ^{ヨク}ニ^ト誤^ス 適纜^{イハ}

剛^{カウ} ^{シニ} オ^シヨ^クト^誤ス 剛方^カ ^{イハ} 剛道^ニ 剛地^ニ

的^ニ ^{タト}誤^ス 成精^ニ的^ニ ^ハ粗^ニ鹵^ニ的^ニ

老實的^{キリチ} 有的^{アリ} 腌臢^{モクモク}的^ニ 出名^ニ的^ニ

呬呀^シ歛^シ乃^シ的^ニ 流水^ト的^ニ

殺^サ ^{ハナカ}又^シ作^シ煞^{セツ} ^ラレ^クト^誤ス

忒殺^ト ^{同上} 妊殺^ニ 嫌殺^{キツカ} 嚇殺^{ヲトシ}

生^シ 始^シテ其^ノ出^ル合^スタ^ル意^{ナリ}

生憎^シ ^{アタイヤ} 生怕^{アタイ} 作麼^シ生^シ

太俗^シ生^シ ^{俗ナリ} 太清^シ生^シ ^{雅ナリ} 何似^イ生^シ

樣^{ヤウ} 物^ヲカ^タト^リテ云^フ 小樣^ノ的^ニ ^{ヤサ}什^ニ麼^ニ樣^ニナ^リヨ^フ

脚^{キョウ} ^{ソク}持^テマ^シテ云^フ

手脚^{テナミ} 元和脚^ニ ^{白^{ナリ}}藥^ニ天^ニ元^ニ積^ニ ^{詩^ニ}フ^元和^脚ト^云

元^ニ和^脚 ^{元^ニ}和^脚時^ニ代^ノ手^ナミ^ト云^フナ^リ

○向和枉賸 番回子兒

向キヤカ 前出

一向スバ 向上以上ト 向裏ウチ 那向ナノヨ

和ト 古文ノ與字ノバシヨニ用ユ 和着トモニ

枉マダテ 今ト誤ス古文ノ徒字ノバシヨニ用ユ

賸ジツ 實證切又時正切 一タソノウヘニカフアルト云処ニ用ユ古文ノ矧

且ト二字アルバシヨナリ

番ハシ 一般同 一段一齣ノ意ナリ

這般タビ 恁般同上 今般同上 諸般イロ 盡般コトク

箕箒般箕ノ如クニ丸 一般兒ヒト

回マヒ 今ト誤 番ハ用 这回コト 次回マヒ 次回同上

子シ ソノ内ニ持タル意テ子字ヲ添ルナリ

耐着心子カナシ 耍子スナグ 寒栗子ヨタツケ

様子モノ 鏡子カバ 簪子カン

兒シ 物ヲ小サクヤサキモノニシテ云トキ兒字ヲツケルナリ

方勝兒ムスビ 一字兒イチモン 醃菜葉兒ナギ

文化十四年丁丑仲冬新鑄

京御幸町御池通下

皇都書肆

菱屋孫兵衛



